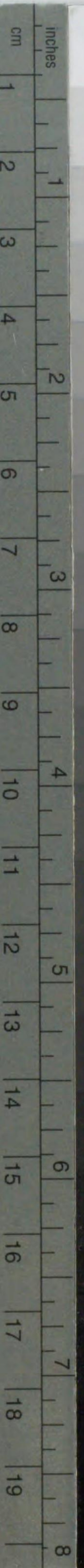


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



600-41  
1200501529727

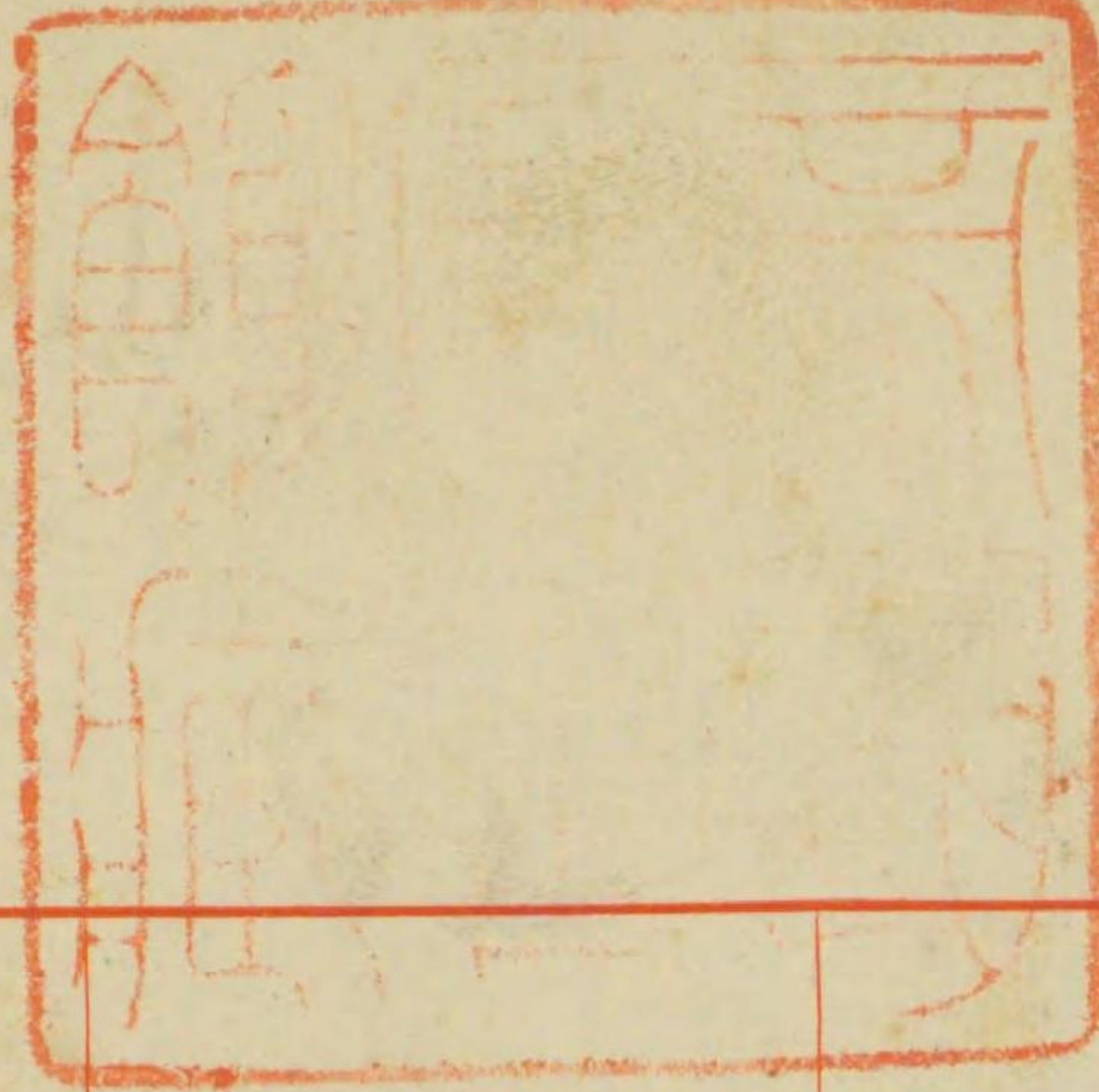
0  
41



28.10.18



1052  
え



勝田貞次著

本日  
經濟合理化的提唱

春陽堂版





600-41

## 序

抽象の方法に依つて普遍性の認識に達する代りに綜合の方法に依つて全體性の認識に達せんとするのが理論具體化の方針であつて財界科學は斯る方針に従つて研究を進めつゝあるものであるが財界科學は更に財界科學叢書の企てをなしその第一編として「金解禁直後の財界」を發表したが第二編として「日本經濟合理化の提唱」を發表する次第である。

而して本書の内容は目次に依つて見ても明かであるやうに金解禁後合理化運動の擡頭につれて財界は如何なる變革を示すやを一考せんとしたものである。第一編「金解禁直後の財界」は金解禁に依つて誘發される財界の景氣變動を一考したものであるが第二編「日本經濟合理化の提唱」は金解禁後に日本の財界を襲ふであらう處の變革運動を一考せんとしたものだと云へよう。

昭和五年一月

(1) 序

著 者 識



# 日本經濟合理化の提唱 目次

## 序 說 日本經濟合理化の必要

日本經濟合理化の特色	………	二
生産過剰の出現の必然性	………	四
一業一社の傾向	………	八
株式放資の合理化	………	八
合理化の一特質	………	一〇
合理化時代は變化時代なり	………	一一
「代變り」時代なり	………	一三
合理化の一途	………	一五
銀行界の合理化	………	一五
合理化の方向轉換	………	一六
生産力と消費力の間の適合性の世界的缺乏	………	一八



外面と内容の背反……………一九

國富量の減少と購買の減退との間の均衡は失はれて居る……………一九

日本資本主義の實相……………二〇

日本資本主義の特異性……………二一

日本資本主義の中心點……………二一

資本主義制度濫用國……………二二

資本主義の行詰り問題……………二三

濫用資本主義と日本産業……………二四

墮落せる日本の産業界……………二四

日本諸會社の通弊……………二五

株式制度の濫用……………二六

短期經營……………二六

金融難の原因……………二七

投機的傾向……………二八

固定資本過大……………二九

日本産業の根本基調……………三〇

日本産業の機構……………三一

産業の種類から見た日本産業……………三七

日本工業の企業形態……………四五

日本工業と統制力……………四九

日本工業のスケール……………五四

重役職能の不備と配當の不安定……………六〇

組織化の不備……………六四

日本産業の整理程度……………六四

日本産業の合理化……………七四

日本産業の對外的壓迫……………七五

中小工業の運命……………七九

中小工業の本質……………八三

日本産業の生産過剩……………八九

市價に支配さるゝ我産業……………九五

日本經濟合理化の副作用……………九六

合理化政策の根本……………九八



第一章 合理化の意義 …… 九

合理化の意義不徹底なり …… 九  
 合理化論の歴史 …… 一〇  
 科學化と統制化の關係 …… 一〇  
 合理化の本質 …… 一〇  
 合目的化の意義 …… 一〇  
 合理化の二方面 …… 一〇  
 厚生の合理化と營利的合理化 …… 一一  
 手段化的合理化の内容 …… 一一  
 合理化の種類 …… 一二  
 資本主義と合理化 …… 一三  
 合理化の定義 …… 一三  
 産業合理化の内容 …… 一四  
 資本主義の肯定的合理化 …… 一四  
 資本主義の世界化 …… 一五

資本主義の管理化 …… 一五  
 資本主義の本質 …… 一六  
 目的經濟と手段經濟 …… 一六  
 結 論 …… 一七

第二章 日本資本主義の合理化 …… 一五

手段經濟の促進 …… 一五  
 生産力の本質 …… 一五  
 不合理性の淨化 …… 一五  
 日本財界の不合理性 …… 一六  
 財界合理化策としての恐慌化 …… 一六  
 恐慌の本質 …… 一七  
 金解禁の合理化作用 …… 一七  
 保護政策打切り …… 一七  
 財界收縮化は恐慌化を伴ふ …… 一七  
 財界合理化の積極策 …… 一七



財界組織化策—經營者時代—財閥系統の整理—財界高度化—財界合理化  
の目標—日本財界合理化の根本策

第三章

金融界の合理化

日本の金融界は資本の濫費者なりき	二八五
日銀は中央銀行に非ずして正貨銀行なり	二八七
市中銀行にも統制力なし	二〇一
金融の無統制と擬制資本の濫造	二〇二
金融界合理化の目標	二〇七
金融會社促進の要	二〇七
米國の實例	二一一
最大の要因—其の後の進展—證券引受の時代—幸運なる發展—株式の配 給者—持株會社	

第四章

商業界の合理化

日本商業界の不合理性	二三四
米國の場合	二三九
合同の效果—配給に關聯する人事問題—質實な商品正當な取引—消費市 場の狀況を考慮せよ—高價な賣り込み代—問題其のものを理解せよ	

日本の場合

獨立商人問題—獨立商人窮狀の根因—内在的原因—外壓的原因—大きな  
問題—種々なる對策—商品券問題—職能性の缺乏

第五章

工業界の合理化

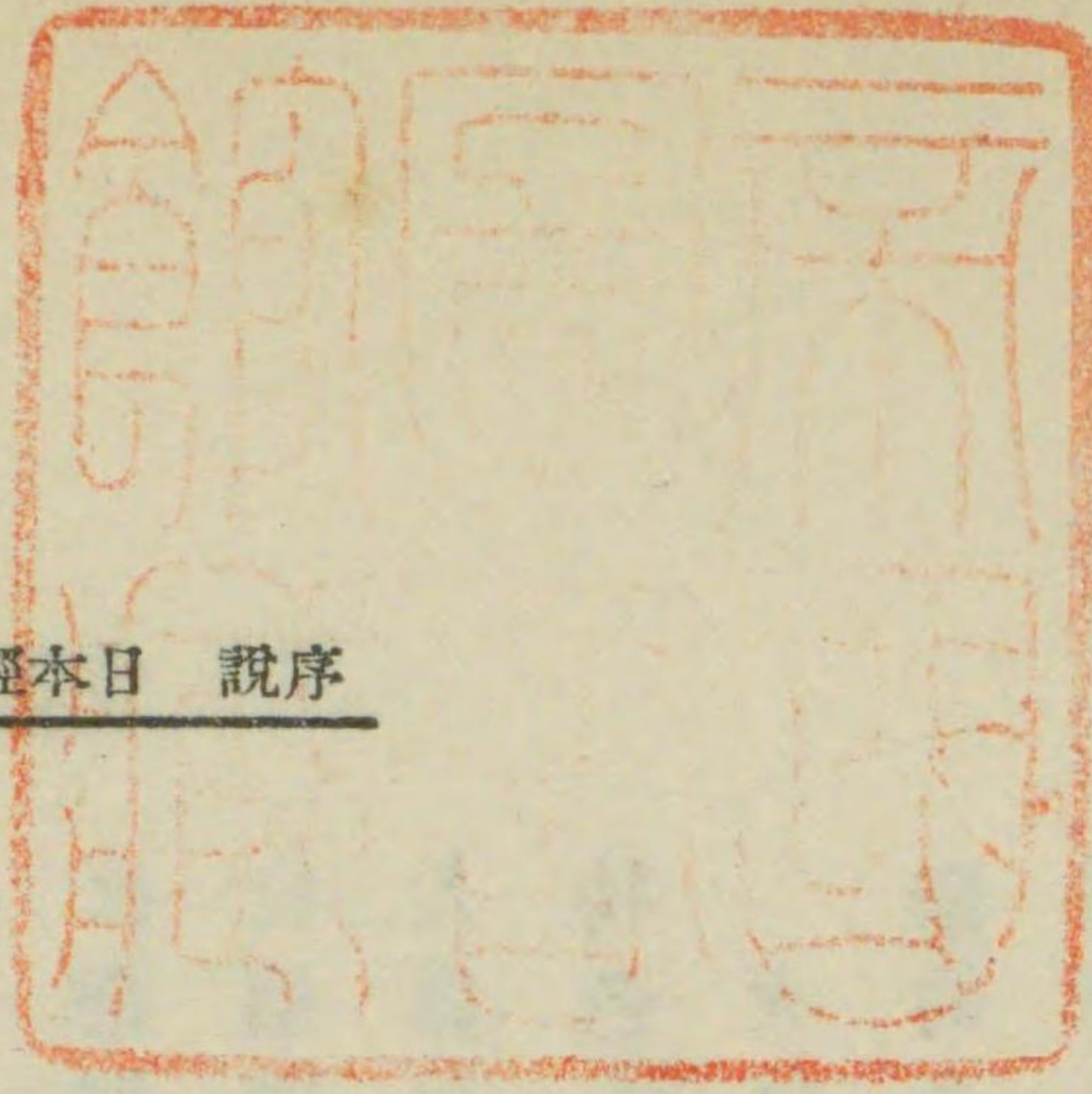
日本工業界の非合理性	二七一
大工業界の不合理性	二七三
我國民經濟の一般的觀察	二七三
合理化の出發點	二七七
産業統制化の不充分	二八〇
金融部に於ける近代的傾向	二八九
金融機關の武裝	二九五
金融機關武裝の影響	三〇二
近世資本主義の一般的特徴	三〇八

集中獨占化の急激な發展—階級對立の深化—關稅障壁の躍昇—資本輸出  
と經濟領土の分割—經濟的帝國主義









( 1 ) 要必の化理合濟經本日 説序

# 日本經濟合理化の提唱

野村證券株式會社  
調査部 長

勝田貞次 著

## 序説 日本經濟合理化の必要

日本經濟合理化の特色——生産過剰の出現の必然——一業一社の傾向——株式放資の合理化——合理化の一特質——代變り時代なり——合理化の一途——銀行界の合理化——合理化の方向轉換——生産力と消費力との適合性の世界的缺乏——外面と内容の違反——國富量の減少と購買の減退との間の均衡は失はれて居る——日本資本主義の實相——日本資本主義の特異性——日本資本主義の中心點——資本主義制度濫用國——資本主義の行詰り問題——濫用資本主義と日本産業——墮落せる日本の産業界——日本諸會社の通弊——株式制度の濫用——短期經營——金融難の原因——投機的傾向——固定資本過大——日本産業の根本基調——日本産業の基構——産業の種類から見た日本産業——日本産業の企業形態——日本産業と統制力——日本産業のスケール——重役職能の不備と配當の不安定——組織化の不備——日本産業の整理程度——日本産業の合理化——日本産業の對外的壓迫——中小工業の運命——中小工業の本質——日本産業の生産過剰——市價に支配さるゝ我産業——日本經濟合理化の副作用——合理化政策の根本



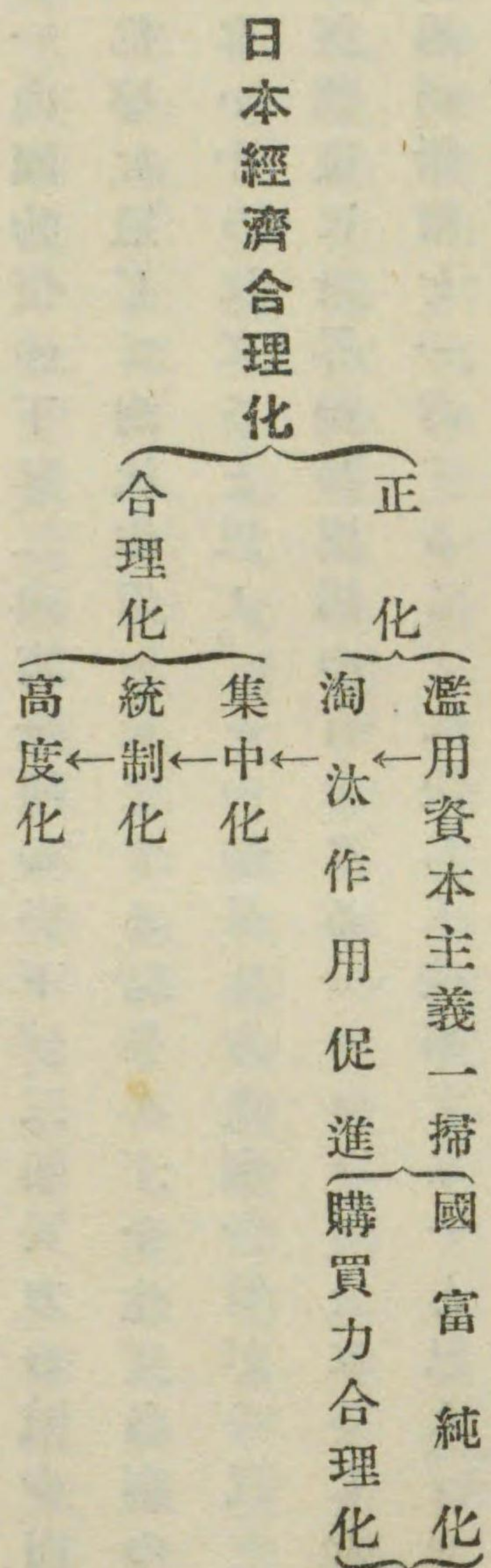
### 日本經濟合理化の特色

日本經濟の合理化の第一歩は日本經濟の不合理性の矯正にある。日本經濟の積極的な合理化はその次に行はる可きである。左様に日本の經濟は過去の資本制度濫用に依つて不合理性を多分に含んで居るのである。然るにこの不合理性は金解禁に依る日本經濟の世界化とともに愈々明白となり、その矯正運動が自然に擡頭し來るのである。従つて日本に於ける經濟合理化運動は或る意味に於て人為を超越した自然の勢ひなりとも云へようと思ふ。これ日本經濟合理化の特色と見られる。

次に日本經濟合理化の一特色とも見らる可きは夫れが財界全體の合理化を技術的合理化に先立つて必要とされることである。然り日本經濟の合理化には技術的合理化よりも財界全體の合理化が先づ以て必要である。それと云ふのも日本經濟の合理化は不合理性の一掃を第一とするからである。

従つて日本經濟の合理化は先づ日本經濟の正化と一致せざるを得ない。日本經濟の眞の合理化はその後のことである。

然らば日本經濟の正化とは何であるかと云ふに、その一つは濫用資本主義の一掃であり、その二は淘汰作用の促進である。従つてまた國富内容の純化と國民購買力の合理化が結果する。眞の合理化はその後のことであつて、斯る眞の合理化は之を分つて集中化と統制化と高度化との三つにすることが出來よう。従つて今以上述べたる處に依つて日本經濟合理化の過程をば表記すれば左の如くなるであらう。



而して以上の如き日本經濟合理化の第一歩は即ち金解禁そのものに外ならぬのである。金解禁を平價で特に日本がやらなければならぬ理由もこゝにあるのである。

恐らく金解禁の後には澤山の不合理性が續出することであらう。そして斯うした不合理性をば一つ／＼退治して行くその過程こそ合理化の過程に外ならぬのである。而して恐らく金解禁後に先づ出現する處の日本經濟の不合理性は例



の生産過剰に外ならないのであつて、今後の我が財界はこの生産過剰の退治策を中心として合理化されることに相違ないのである。そこで先づ吾々はこの點に就て次に一言せんと欲する。

### 生産過剰の出現の必然性

先づ問題は金解禁後に果して生産過剰が出現するかどうかであるが、私は金解禁が(一)内國物價の下落(二)國富金額の引下げ(三)購買力の減少(四)金融の緊縮(五)競争の激化等を通じて淘汰作用を大にする結果必ずや生産過剰の現象が擡頭せざるを得ないやうになると思ふ。その結果、生産過剰対策が公私ともに行はれ出して之が解禁後に財界變動機構の有力なる一モメントとなることであらう。従つて生産過剰対策を一考することは決して徒事でないと思ふ。

然らば生産過剰対策如何と云ふに夫れには普通(一)生産制限(二)企業結合(三)ダンピングの三者が數へられるのであつて、現に我國でも生産過剰傾向の擡頭につれて生産制限や企業結合やダンピングなどが實施さるゝを見るではないか。

然らば果してさうした方策は生産過剰対策として有效なるものであるかと云ふに少くとも我國では夫れは餘り有效ではないのである。米國などではさうし

た方策は生産過剰対策として相當有效なものであるが、我國では餘り有效でないのである。何故であるかと云ふに夫れは日本の生産過剰の性質が米國の生産過剰の性質と違ふからである。然らばどう違ふか。曰く米國の生産過剰は生産能率が増進し原價が低下し安くて良い品物の供給が餘り多過ぎて消費量を超過せる結果の生産過剰であるが、日本の生産過剰は生産能率不振で原價が高過ぎ有利に製品の賣却が出来ない爲めの生産過剰だからである。換言すれば米國の生産過剰は生産力過大の生産過剰だが、日本の生産過剰は生産力過少の生産過剰だからである。其結果として米國には生産品の過剰があるが、生産設備の質は悪くないのである。反之、日本には生産品の過剰よりも生産品の賣行不振が見られる。そして其背後には生産設備の悪質が控へて居る。生産設備が悪質であつてその爲めに製品の原價が割高となり、従つて製品の賣行が鈍つたり生産利潤がマイナスとなつたりして生産設備を遊ばせる結果となると云ふのが日本での生産過剰の姿なのである。従つて日本で生産過剰を一掃しようとするにはやくざな生産設備を切棄てると同時に能率のある生産設備を新規に作つて製品の原價を引下げ、やうにしなければならぬ。やくざな生産設備をそのままにして置いて生産數量を制限しても駄目である。やくざな生産設備を有する各企業が如何に結合



して見ても原價が低下しないから無効である。斯くて日本では生産制限や企業結合が生産過剰対策として餘り有効でないのである。

従つて日本で生産過剰対策として生産制限や企業結合やダンピングやが有効でないのは日本の生産過剰が生産品の過剰になくて生産設備の過剰やくざな生産設備の存在割合の大なることにあるからである。従つてまた日本に於ける生産過剰対策も自然米國の場合などは違つたものにならねばならぬのである。然らば日本での生産過剰対策如何。

已に一言したやうに日本の生産過剰はやくざな生産設備の過大なことにあるのだからして、従つて日本に於ける生産過剰対策もそのやくざな生産設備の切棄を中心としなければなるまい。斯くて一應日本での生産過剰対策は企業整理の形を採ることになるのである。乍然、この企業整理なるものは減資解散等を行つてやくざな生産設備の切棄を斷行する事に過ぎないのだからして勢ひ夫れは頗る消極的なものである。そこで問題は更に積極的な處の生産過剰対策如何であるが私は夫れをば(一)企業の高度化と(二)企業統制力の充實とに求めざるを得ない。蓋し夫れでなければ能率ある生産設備を新設し、且つ夫れを有能率に運轉せしめ得ないからだ。

以上の如くであるが故に日本に於ける生産過剰対策としては(一)企業の整理を斷行してやくざな生産設備の切棄を行ひ(二)企業の高度化に努めて有効な生産設備の建設をなし(三)企業の統制を大にして生産設備の能率ある利用に務めることが必要となるのであるが、然らば企業整理や企業高度化や企業統制やは如何にして之を期し得るかと云ふに結局夫れは(一)今日吾々の目撃しつゝある如き株式制度の濫用が一掃された上に(二)各種の事業に大資本家が漫然出資し關係して居ると云ふでなくして組織の力で各關係事業の統制をなすやうにならねばならぬのである。他言すれば「財界の淨化」と「金融資本系統の確立」とが必要なのである。

然るにこの財界の淨化運動と金融資本系統の確立とは因果相應するものであつて、斯る二大傾向の促進策こそ延いては生産過剰対策を講ずるの所以でもあつて實に財界合理化の根本策たるを失はないのである。

然るにさうした金融資本系統化や財界淨化作用が進行するに至らんか一方には生産過剰が一掃されるけれども他方には、それに至る過程に於て當然産業恐慌を來し産業界に革命を招くであらう。そして遂には一業一社の傾向を出現するにあらざやと思はれる。



### 一業一社の傾向

一業一社の傾向とは、各事業界の極度の集中化統制化の爲めに各事業界は、それぞれ一社に依つて代表されるに至る可きことである。現に米國でも近頃は此傾向著しく、製鋼界はユーススチール會社が代表し、製油界はスタンダードオイル會社が代表せるを見るに非ずや。而して日本でも恐らく將來は産業界の合理化に伴うて製紙界は王子製紙が代表し、紡績界は鐘紡が代表すると云ふやうなことになるのではないかと思はれる。また斯うならなければ産業界の合理化も徹底したとは云へないのではないか。従つて(一)二三流會社の淘汰運動と(二)一業一社の傾向とは産業合理化の行はるゝ限り、之を信ぜざるを得ないものである。

### 株式放資の合理化

とするならば、雜株の所有者は前途ますますその打撃を深刻化せしめられるものと見ねばなるまい。今迄にも已に株式放資家は、株價の値下りに依つて多大の痛手を負つて居るのであるが、その損勘定が完全に清算されては居らないのである。従つて今後若しも株式放資の清算が行はれるものとするれば、株價の低下も更に促進され、株式過剰は更に著しくなることと考へられる。而も放資家は株式放資の嚴選を行ふであらうからして、傍々以て株價の壓迫はいよいよ加重され、株式放資界は甚だしき縮小を見るに至るであらう。然り、株式放資の合理化は當然株式放資の清算化と嚴選化とを伴ふからして、従つて株價の低落を來さねば止まないであらう。而も産業界の合理化に伴ふ産業の淘汰集中化の傾向は以上の傾向を強めるであらう。従つてどう考へて見ても、株式放資家は昭和五年度を通じてモツと眞劍な態度に出なければ、嘘だと思ふ。少くとも引つかゝつた人々は解禁馬鹿視相場の出た際、見切る可きだ。グヅ／＼して居るとそれこそ泣くにも泣けなくなるであらうから。

尤も人に依ると株式相場は(一)理外の理や(二)逆作用や(三)値頃關係や(四)見越作用などで支配されるものであるからして、さう理窟通りに行くものではないと云ふ。而して斯る論者に依れば、我株式相場も已に(一)相當前途悲觀で賣込まれて居る上に(二)金解禁の悪影響をも充分に織込んで居るからして(三)下値の淋みしいのと相俟つて金解禁斷行を動機に一轉機に向ふ可しとなす。

勿論、株式市場に自動作用があつて、その力で機械的に動いて居る平生の株價ならば、以上の様な所説にも同感出來るのであるが、今日の株式相場は財界構成變革



の壓力の下にあるものであつて、自働作用の支配から脱出せるものであるからして、此の點から見て以上の所説は當らぬと思ふ。勿論幾分の微反動高はあるだらうが、それ以上を望むことは不可だと思ふ。現に昭和四年の初頭以來は、株式相場の自動作用を信奉せる人々は悉く裏切られて慘敗の憂き目に遭つたではないか。従つて理外の理だの、逆作用だの、下値が淋みしいの、解禁見越了だのと云つて株價の大反撥を考へることは此の際特に禁物である。それよりも金解禁を中心として動く財界構成の示す處に従つて株式相場を觀察せねばならぬ。理外の理だの、逆作用だの、値頃關係だのと云ふ様な株式相場の自動機構を考へるのは、此の際時代遅れも甚だしいものと知る可きのみ。

### 合理化の一特質

然り、株式放資に限らず、總て時代遅れと云ふことは財界變革時代の今日、頗る非合理的なものであるからして、何事に限らず時代遅れにならぬやうに努めねばならぬ。少くとも二十年前の方法や仕方が、そのまゝ今日にも當嵌ると考へることほどよくないことはないのである。Schackは、その著 *Wirtschaftsformen* 中に於て、目的に向つて直ちに突進しないで、先づ心を落付けてよく方法を考へ、迂迴的に目的

達せんとするその態度こそ合理化なのだと思つて居るが、寔にその通りであつて現實を克服し得る最新最效の方法をば發見する可く努力するに非ざれば、合理化の實行者ではないのである。舊來の方法に因つて居る傳統的な人々は、忽ちにして時代にちきざりを食はされるであらう。失敗は實に斯うした人々の頭に降つて來るものである。反之、今迄世に成功せる人々を分析し、反省して見ると、彼等は皆な新しい方法を發見して、それで現實を克服せる人々であつたやうである。昔の方法をそのまゝ、新時代に適用して成功したやうな人を見たことがないのである。

世間でよく頑固爺とか、因襲的な人だとか、舊人だとか、云ふのも要するに新しい方法に對する理解すらもなくなつて仕舞つた人々のことではないか。反之、新しい方法を斷えず發見してよりよく目的を達しようとする處にこそ、合理化運動の一大特色があるのではないか。

### 合理化時代は變化時代なり

従つて合理化時代は變化時代なりと云へる。従つてまた合理化時代には變化の哲學を心得ることが必要である。然らば變化とは如何と云ふに佛國のベルグ



ソフと云ふ哲學者は曾て「變化の哲學なるものを發表して曰く、萬物は刻々に變化して已まないものであるが、さうした不斷の變化が積り積つて外面に形態化された時にのみ人間は初めて變化の事實に氣が付くもので、従つて人間から見ると萬物は時に激變するやうにも見えるのだが、夫れは嘘相であつて、萬物其ものは刻々に變化して一寸も止まないものであり、従つて刻々にそれからそれへと變化して行くその過程を斷えず注目して居るもののみが變化の方向を知り、従つてまた將來の變化をも豫想し得るのだが、外面に現れた變化ばかりに驚く人々は永久に當に來らんとしつゝある變化に氣付かぬのみならず、寧ろ因襲に囚れて了つて、萬物は靜止して永久に變化しないやうにすらも考へ込むものである」と。全くその通りであつて、現に東洋の哲人も、變化は一朝一夕に成れるものでなく、それには遠因があるものであつて、その遠因を突き止めて見る人のみが、變化の真相に徹し、賢者たり得るのだと云ふやうなことを云つて居るではないか。

經濟のことしか知らない筆者ではあるが、夫れには同感出来る。變化の斷えざる過程に不斷注目せず、遠因をも極めぬ人々は、慥かに自分はいつまでも生きて居られる様子の思ひ、浮世をも無常迅速と思はず、變化の事實に眼醒めざれば、従つてまた來らんとする變化にも鈍感であつて、過去にばかりに囚れて、今迄が斯うだつたからと計り、環境が變化しよう、と、時勢が變化しよう、と、已に大變化が眼前に進行しつゝ、あらうと、少しも夫れ等には氣付かない、萬物は靜止せるかの如くのみ考へ込み、遂には泣き叫び驚き悲しみ乍ら、變化の流れに押流されて没落し行くものである。

従つて、萬物の實相に徹せんとせば、變化の事實に徹せざる可からず、變化に徹すれば、萬物の實相に徹し得て、明を得るに至るであらうなどと云ふ佛教の言ひ草もまんざら棄てたものではあるまい。夫れは財界合理化の變化時代であること、數年間の日本に於て最も一考に價するものであつて、即ち財界合理化時代に善處する爲めには吾々は常に人々の迂つかりして看過するやうな財界變動をも決して看過しないで斷えずそれからそれへと變化して行く財界變動の流れをばよく分析して、夫にレットルや索引をほどこした上で夫れ等を綜合し整理し依つて以つて現實の真相財界の内面構成を判斷し夫れに基いて將來の變化を豫測するに務めねばならぬのであつて、財界合理化時代の唯一の善處法で夫れはある筈である。蓋し財界合理化時代は激變の時代だからだ。

### 「代」變り時代なり



さうだ。慥かに財界合理化時代は代變りの時代なのである。新陳交代の時代なのだ。新時代に適したものが浮び上り、舊時代の人物は亡び行き、全く時代が變らんとしつゝあるのである。時代の變化は實に斯うした代變りを前提としてのみ可能なるものなのである。

而してこの代變りと云ふ言葉は舊式が亡びて新式が浮び上ると云ふ事ばかりを意味するのではないのであつて、夫れは實に人々の今迄看過して來た幾多の變化がこゝに積り積つて、愈々外面に暴發し、大變化の渦巻を起し來らんとすることをば意味するものである。之を今、日本の財界に就いて云ふならば、即ち放漫なことばかりやつて、私腹を肥すに餘念なかりし過去の財界指導の悪影響が積り積つて、こゝに日本の財界を激變に導き、財界の悪指導者や、無能なる資本家や、無意義な財閥や、愚劣な放資家を一掃して依つて以つて新時代を盛立て、行くことの出来る立派な指導者や、新日本の産業を建設し得る有能なる資本家や、新しい方法と新しい見地とを有する賢明なる放資家をば浮び上がらせる一個の運動を意味するものと云へるであらう。従つてさうした代變りの運動の進行期中は、どうしても財界は不振、不況、動搖、混迷を示さざるを得まい。

全く今の日本財界の状態は、雪ダルマに水が浸み互つて間もなくグヅグヅに潰れ出すかと思はれるやうな状態にも似たるものがあつて、あちらにもこちらにもフラ／＼せる連中が可成りあるのであるからして、このまゝで進んで行けば、財界は多少の混迷を免れまいが、然しこの混迷は、代變り實行の好機會であるからして、財界立直しの爲めには慶賀す可きことである。蓋し行詰つた財界は一度混迷してこそ、代變りが行はれて始めて立直るのが常則だからである。

### 合理化の一途

従つて私はザック・バランに云ふと、合理化の第一歩としては、代變り促進策を主張したい。そして保護や救済や膨脹やの諸政策で代變りを阻止し、無能な今の財界指導者の餘命を長からしめるのは、それこそ非合理化策なりと主張せざるを得ないものである。淘汰作用は財界合理化にはつきものだと言ふことを知らない合理化論者ほど馬鹿氣た人はないからである。

### 銀行界の合理化

銀行界の整理は一順濟んだやうであるが、その合理化は未だしである。蓋し銀行界の合理化をするのには銀行界の集中化を計らなければならぬが、それには銀



行界のうち弱小部分を排除せねばならず、夫れは或ひは金融恐慌を來す恐れあるかも知れぬからである。従つて銀行界の合理化は、今日まで行はれなかつたのであるが、金解禁後産業界の合理化が進展するならば、銀行界の合理化も勢ひ促進されざるを得ないであらうからして、従つて弱小部分の排除運動が銀行界に將來見られるかも知れないと思はれる。然し夫れを恐れて居るやうでは合理化は出來ないのである。

世人の最も大なる誤解は、何等の犠牲もなしに合理化が行はれるであらうと見る考へである。處が合理化ほど財界に大なる犠牲を拂はしめるものはないのである。合理化は財界に大なる犠牲を拂はしめて財界を高度化し、以つて人類生活の向上に適せる財界を作出せんとする運動に外ならないのではないか。

### 合理化の方向轉換

但し茲に吾々の一考す可きことは、近頃米國などでは合理化運動が生産力の増進を目標とするものからして、消費力の増進を目標とするものへと方向轉換を仕出した事である。之は生産力が無暗に増大し過ぎて、消費力が夫れに伴はなくなつた結果だと云つて仕舞へばそれまでのものだけれども、更によく考へて見ると

之は合理化論上、興味ある現象たるを失はないであらう。蓋し夫れは眞の合理化は消費力の増進を計り、人類の厚生を大ならしめる點にあつて、生産力の増進を來し資本家に金儲けをさせる合理化は全く手段的合理に過ぎない事を示すからである。社會主義者は屢々量的擴大は質的變化にまで轉化すると云ふが、合理化現象も、またその範を脱しないのである。即ち從來の合理化は經濟價値の量的増大を目標として來たのであつて、經濟價値の質的増大を無視し來つたのであり、その爲めに生産の無政府状態を誘發して、資本家社會は遂に發展の限界に近づき始めたのである。こゝに於てか發展の或る階段で量的變化は無條件に質的變化に一變せざるを得ないのである。斯くて合理化の合理化が必要となり來る。即ち從來の合理化は最大量の確保であつたが、今後の合理化は最適性の確保でなければならぬ。寧ろ生産力増進を目標とする最大量確保の合理が進展すればするほど、資本主義の矛盾、生産の無政府状態をばより高き階段に於て、一層鋭化し、生産力過剩を來す爲めに一大浪費の悲劇を來すを以つて斯るものを一掃せんが爲めに、その根源たる資本主義の無計畫性をば排除し、經濟價値の質的發揚を計らんとする、最適性の確保中心の合理化、即ち社會化的合理化が自然に派生し來らざるを得ないのである。即ち資本家的合理化は、生産能力の過剩、消費力の過少からして(一)恐



慌の形態を採つて現れる經濟的地震(二)生産の意識的制限(三)人工的に市價を釣上げて利潤を高めんとする目的からして行はれる諸生産物の廢棄(四)相互に打倒せんとするダンピングの鬭争(五)市場竝に勢力を争奪せんとする血なまぐさき活闘等の如き數多の浪費の悲劇(Tragedy of Waste)を経て、社會化的合理化にまで止抑さざるは止まないものである。それほどに(一)生産能力の過剰(二)購買力の過少は、資本家社會には痛手なのである。

### 生産力と消費力の間適合性の

#### 世界的缺乏

然るに今日では(一)生産能力が米國にのみ集中し(二)他國は極度にまで消費力を失へる爲めに、世界的に見て生産能力の過大と購買力の過小とは對立し出したのである。今日の世界的不況の根因もこゝにあるのである。而も學者の説に依れば(一)生産力の過大と(二)購買力の過小と云ふこの二大事件は、資本主義經濟に對しては、一大破壊力をすら意味するものだからして、夫れを中心に世界經濟の構成に激變を來すことも考へられるであらう。

#### 外面と内容の背反

然るに日本の財界には不幸にして、生産能力の過大と購買力の過小とが共に見られるのである。而も政府は合理化に名をかりて盛にさうした傾向に油を注ぎつゝある。従つて日本の資本家社會が苦しむのも當然である。況んや日本の資本家社會は、内味が貧弱で外面だけが光つて居るに於てをやである。従つて今後は虚富虚業の一掃が行れたり、放慢政策が存在性を失つたり、過評の訂正が行れたりして、内味と外面とが一致するやうにならねばならぬのだ。これこそ日本の財界に於ける合理化の第一歩でなければならぬ。

### 國富量の減少と購買の減退との間の

#### 均衡は失れて居る

況んや日本に於ては、未だ國富量は經濟實力よりも遙かに上位の平準に過評でふくらまれて居るに於てをやである。従つて日本の國富量は更に引下げられねばならぬ。已に七分通りの引下げが行れたが、未だ三分通りの引下げが残されて居る。



然らば國富量が減少したら、どうなるかと云ふに、夫れは當然均衡の必要上購買力の減退を來す。即ち日本國民の購買力は現在未だ國富量の減少と平均するほどの減退をしては居らないからして、將來日本國民の購買力はまだ減退するものと見ねばなるまい。従つて購買力を中心に作られて居る資本主義經濟である以上、日本の財界も將來に相當大きな打撃を用意されて居るものと覺悟せずばなるまい。

以上の如くであるからして、日本に於ける經濟合理化の過程は即ち頗る苦痛に充たされたるものと知る可きのみである。蓋し經濟合理化は結局に於て曲りくねつた日本の資本主義の矯正を意味するものだからだ。それだにまた日本で經濟合理化を考へるには、日本の資本主義や日本の産業やが現在如何に曲りくねつたものだかを知つて置くの必要がある。そこで次に吾々はこの點に就て一考することにしよう。

### 日本資本主義の實相

日本資本主義の實相に關しては(一)高度資本主義説(二)低度資本主義説(三)資本主義爛熟説等の諸説あるも、何れも當らないやうである。蓋し資本主義なるものは自由主義を基礎として生成發達するものであつて、日本の如く政府の保護干渉強くして、經濟的に完全な自由主義のない國では、勢ひ資本主義も満足には伸びられない筈だからだ。現に見よ。日本の資本主義は重金主義であつて、封建主義の經濟化されたものに過ぎないではない。官業政商、手工業、商人、金貸、思惑者、千三ツ屋救濟等の如きをザツと考へて見ても、以上の點は首肯し得よう。

### 日本資本主義の特異性

従つて私は日本の資本主義は、若し夫れが資本主義なる言葉を以て評し得るものとせば、脇道へそれた變則的なる資本主義なりと考へるのである。従つて日本の資本主義をば歐米の資本主義と同一に律してはならない。日本の資本主義の特異性に注意しなければならぬ。寧ろ日本資本主義の特異性の考察こそ、日本資本主義の理解の根源であらう。

### 日本資本主義の中心點

然らば日本資本主義の特異性如何と云ふに、その一は日本資本主義の中心點が産業になくて商業にあることである。他言すれば生産力の増進になくて商機の



爭奪にあることである。(Wunderlich)はその著「生産力」(Produktivität)中に於て「資本主義經濟の中心點は生産力である」と云つて居るが、この點から見ても、商機の爭奪ばかりに浮き身をやつす日本の經濟は、完全なる資本主義經濟なりとは云へぬのである。完全なる資本主義經濟は生産力の増進を中心とす可く、従つてまた工業なるものが、資本主義經濟の根幹となる。處が日本の資本主義經濟の中心は商機の爭奪であり、従つてまた手工業や商業がその根幹を爲して居る。現に日本では過去長い間農業立國論だの、商業立國論だのが叫れて居つたに依つて見ても、以上のことは分るではないか。

### 資本主義制度濫用國

日本に於ける資本主義制度の濫用の必然性は、實に以上の如き日本資本主義經濟の變態性に原因するものである。蓋し生産力の増進を中心としてこそ(一)自由主義や(二)個人主義を基礎とする資本主義制度は、正當に運用せられるのであるが、さうした資本主義制度が商機の爭奪などを中心とするならば、勢ひ夫れは濫用されざるを得ないからである。

學者の大半は資本主義制度は之を搾取と結付けて考へるが、日本では資本主義制度は濫用と結付けて考へらる可きであつて、このことは力説の要があるのである。蓋し資本主義制度が必ずしも搾取制度でなくて濫用制度であつたと云ふことは、日本特有の資本主義制度を考へる上に於て役立つからである。

### 資本主義の行詰問題

勿論資本主義が行詰るであらうことは、資本主義制度が搾取制度であらうと、濫用制度であらうと、その間何等變る處はないのであるが、問題は、その行詰過程の如何であつて、資本主義制度が大工業を中心とする搾取制度である場合には、その行詰過程は、マルキシストの云ふ様に獨占集中化と恐慌帝國主義化との形態を採つて來るであらうが、資本主義制度が商業や手工業を中心とする濫用制度である場合には、その行詰過程は肺患的ジリ貧の形態を採つて出現するものである。現に日本の現狀が正にさうであつて、即ち日本では資本主義が大工業的に基礎付けられて居らない爲めに、その獨占集中化は手工業や粗工業や商業やの大淘汰を必要とし、従つてその過程は不圓滑を極めざるを得ない。而も獨占集中化を計らざれば、海外の資本主義に對抗することが出來ないと云ふやうな状態にあつて、内外兩患で痛み付けられて居るのである。その爲めに日本の資本主義は今や(一)獨占集



中化に伴ふ淘汰作用と(二)海外資本主義の壓迫とを蒙つて、肺患的ジリ貧状態に措かれて居るのではないか。

### 濫用資本主義と日本産業

以上述説の如く日本の資本主義は濫用制度であつて、獨占集中化が不圓滑を極むる爲めに、日本の産業も勢ひ不安定たらざるを得ない。従つて日本産業の諸構成も不健全を免れない。寧ろ日本産業の諸構成が極めて不健全なる爲めに、日本の資本主義も基礎を失ひて、濫用制度に傾かざるを得なくなつたのである。斯くて結局日本では、惡質の産業構成と惡質の資本制度とが相寄り相助けて財界を衰弱化せしめつゝありと云へよう。

### 墮落せる日本の産業界

日本の産業界が株式制度を通じて濫用に濫用されつゝあるのも、以上の如きメカニズムに原因するのであつて、日本産業界の墮落如何に甚だしきかは、日本諸會社重役の不眞面目なる態度から見ても分ることだ。現に見よ。夫れは日本の諸重役が争うて株式制度の濫用をなし、過配當をことゝし、穴をば金錢を以て買收して發表せしめず、放資家連からしてその資本を搾取しつゝあるに依つて見ても分るではないか。

### 日本諸會社の通弊

寔に日本諸會社の通弊は重役連の不眞面目なる態度にあるのであつて、夫れは(一)株式制度の濫用(二)短期經營の癖(三)金融力の薄弱さ(四)投機的傾向等の具體形を採つて現れて居る。従つて日本では個人會社の場合は別として、純然たる株式制度の會社にあつては、以上の如き惡傾向の爲めに會社はどうしても永續性のある發展を期し難いのである。現に一頃世襲財産株を以て目されし日本郵船株の今日はどうであるか。儲つた時代に過配當をしないで、ウンと社内保留をして置いたら、デカイゼル船が現れようと敢てビク付くの要もないのだが、純然たる株式制度の諸會社の重役連は、日本郵船會社の場合のみならず、總じて株主に利廻上の満足を與へねば、資金吸収や金融圓滑が期し得られないなどと云ふ、自分の意志から獨立せる必要關係の強壓の下に、短期經營をやつたり蝟配當をしたり、投機に走つたりするので、結局會社をスポイルして仕舞ふことにもなるのである。



## 株式制度の濫用

先づ株式制度の濫用に就て見るに、之は(一)増配當(二)自社株價の操縦(三)重役賞與の過大(四)株主配當の過多(五)重役の背任行爲(六)資産の過大評價(七)政局運動(八)プレミアル稼ぎ等の如き諸形式の何れかを採るものであつて、日本の諸會社は多かれ少かれその幾分かを侵さざるはない。従つて日本の諸會社の生命力は富士山型をなし、設立後十年、二十年は伸展するも以來は下坂となり、ボロ會社と化する運命を負はされる。古い會社で内容の充實したる大會社の日本に少い理由が茲にある。詰り日本の企業家連中は、株式制度を濫用し會社を喰物にするので、會社の生命も短く、會社批判にもビク／＼もので、會社ゴロに多額の廣告料をねだられる結果ともなるのである。

## 短期經營

次に日本では株主や企業者が會社を喰ものにするのみでなく、經營者がまた短期經營を行ふことに依つて會社をスポイルしつゝある。茲に短期經營と云ふのは、結果を速かに收穫せんとあせる餘りに、元樹を臺なしにするゴム栽培業者のや

うな遣方と云ふのであつて、之を具體的に云ふと配當を過度に仕過ぎる爲めに、固定資本の銷却も改善も行ふに由なく、新機械設備が現れると一たまりもなく一蹴し去らるゝが如き經營振を云ふのである。日本に斯うした短期經營の盛んなことは(一)諸會社の社内保留高が少く(二)積立金やレザラツが少く(三)固定資本の銷却率が低く(四)舊式の固定資本を抱くもの多く(五)配當率の高低頻繁なること等から見ても分らう。これは日本の會社經營者が慾心のみ強くして、株式制度を善用しようとしぬ企業者や株主を背景とせることにも依らうが、また經營者自身の利己心や無自覺に發する場合も多いのであつて、何れにせよ以上の如く短期經營を行つて、後は野となれ式のことばかりするので、少しく財界が不景氣となつたり、多少進歩した設備が現れたりすると、忽ち舊會社は行詰ることになるのである。

## 金融難の原因

日本諸會社の行詰倒産の原因の大半が、金融上の壓迫にあつたことは、今更嗚々を要しないが、然らば何故に日本の諸會社は金融上の壓迫を蒙らざるを得ざるに至るかと云ふと、其の第一原因は例の短期經營や株式制度濫用やに依る「穴」の存在にあるのであつて、即ち日本の諸會社が米國に於て見る如く、株主配當でも行つて



大いに儲かつた時に収益をば社内に保留したり、固定資本改善に利用したりするならば、金融難の軽減されるのだから、日本では過配當はする、過大の賞與は出す資産の過評はすると云ふ有様だからして、どうしても日本の諸會社は収益減少時代には極度の金融難に陥り易いのである。其處へもつて來て、日本に見るべき長期金融機能のないことが、更に日本諸會社の金融難を助長しつゝあるのである。従つて長期金融機能の結合と、會社に穴のあることゝが日本に於ける會社金融難の二大原因と目し得べく、斯くて日本の諸會社には社内に資力の餘裕なく、社外に資力の源泉なき爲め、製品の市價が少しく低落すると投げ賣の擧に出で業界を混亂させたり、新設備が擡頭する時期には、新會社に對抗し得ずして自滅したり、財界不況期に入ると忽ち企業の繼續が出来なくなつて破綻したりするに至るのである。

### 投機的傾向

最後に日本諸會社の缺點は、夫れ等が商業や商人根性を基礎とする爲めに、どうしても原料其他のものゝ投機思惑に走り、固定資本の高紙化に依る原價低下力にて地盤を固めようとしぬい點である。尤も之は日本の諸工業が粗工業であつて製品の大半が原料と勞銀とである當然の結果でもあらうが、何れにもせよ、日本の諸會社が商業本位の工業であつて投機思惑に走り、惡競争を行ひ統制され難いことは、非常なる弱點と云はなければなるまい。

### 固定資本過大

次に日本産業界の通弊は固定資本の過大である。産業が高度化するにつれて固定資本の割合が大となることは免れないが、日本では産業が高度化しないで、固定資本高のみが増加する傾向にあるのが良くないのである。反之、米國などでは高配當をしないで、固定資本の償却改善に務めるので、産業の高度化する割合に固定資本の割合は大とならない。然るに日本はこの正反對である。斯ることは日本の電力事業などに就て殊に力説されねばならぬのであつて、即ち日本の電力會社のうちには、電力賣込みの競争上當分必要もない様な送電線を作つて、表面上如何にも活動して居るやうに見せかけて居るものが多いのではないか。處が此の送電線に用ゐられて居る碍子の生命は、雨量の多い日本では一ヶ年内外のものであり、且つこの碍子の値段は安くはないものである。そこで折角作つた處の長距離送電線も、いざ夫れを利用するとなると碍子からして取替へなければならぬので



ある。日本の或る電力會社は斯る腐敗した食物同様の送電線をば、如何にも價値のあるやうに見積つて、之を擔保として借入金をしたり、社債を發行したりして居るのである。そしてこの金で経費を支拂つたり、工事を進めたり、蝟配を行つたり、利息を支出したりして居るのである。そして金融が不圓滑になると、更に固定資本の見積りを高くする。だからして豫定の工事が完成して、豫想通りに電力が賣れれば問題は無いが、そこまで行くうちに固定資本の過大と流動資本の過小との爲めに、金融の點でボロを出さぬとも限らない。そこで電力會社の重役の一苦勞は、金繰を如何にす可きかと云ふことである。

### 日本産業の根本基調

以上叙述せる處からでも分る様に、日本の産業界では重役や株主は事業を育てようとしないうで、逆に株式組織と云ふ有限責任の制度を悪用して、産業を喰ひものにするこゝばかりに浮き身をやつし來れる爲めに、勢ひ産業は生産力を基本としないで、評價を基本としつゝある。従つてまた、日本の重役連は株價の維持と云ふことに、一方ならぬ苦心を拂はざるを得ないやうになつて居る。生産力を基本として堂々とやつて居れば、企業に對する世間の評價などは何等問題にならぬのであるが、企業を出しに使つて金儲けをしようとするからして、勢ひ生産力の如何よりも、株價を通じての世間の評價の方が、遙かに重役連には問題とならざるを得ぬのである。従つて私は日本産業界の根本基調として、此の點を力説せざるを得ぬのである。

### 日本産業の機構

吾々は以上に於て日本産業界の惡基調を一言したが、之は今に始つたことではないのである。夫れは實に歴史的産物に外ならない。現に明治初年このかた六十五年間に亙る我國産業の發達史を通覽するに、我國に於ては産業の發達は、歐米に見る如く工業家的精神を基調とはして居らないのである。商人根性を基調として居るのである。且つ(一)株式制度の濫用、(二)救濟保護の惡用、(三)低勞銀低金利高物價の利用、(四)金融業者泣かせ等をさんくやつて來た。従つて日本の産業は發達したと云ふよりも、膨脹したと云はる可きだ。日本産業の發達が日本資本主義の發達を來さなかつたのもその爲めだ。寧ろ日本の産業が膨脹墮落の一路を辿れる爲めに、日本の資本主義もスポイルされたと云へよう。

寔に日本の資本主義は、株式制度の濫用や尻ぬぐひをことゝせる金融業や、戰爭



を好期として亂舞せる商人やの爲めに、墮落に墮落を重ね來れるものであつて、工業家的精神の上に立脚せる産業界の發達が中心となつて、高度化の一路を辿れるものではないのである。このことは日本産業の資本構成から見ても明瞭である。現に左表にも見る如く

大正三年末		社 數	拂込資本	積立金
農 業	四九一	二七、二三五	一、七八九	
工 業	五、〇六九	六六八、〇二四	八五、二三七	
鑛 業	一九七	一六五、五四六	二五、三三九	
金 融 業	四、三六五	七二七、八四二	三七九、一九九	
商 業	五五、五五二	二四六、一七八	五五、七五二	
運 輸 業	一、一八七	二三三、九六一	六〇、一八八	

日本では工業に投下されたる資本額が少ないにも不拘、金融業に投下されたる資本額は巨多を示して居るではないか。之を以て見ても日本では工業の發達が金融業の發達を促進せずして、工業破綻の尻ぬぐひや、工業救済の出資などの爲めに却つて金融業が利用され、その爲めに金融業が外觀上發達せるかの觀を呈せるを知ることが出來よう。

一體何れの國でも資本主義の發達は商業から起り、迂回生産の必要に迫られて

工業の發達を促進し來り、工業の發達は更に金融業と運輸業の發達を促進するに至るものであつて、最後には金融業が頭抜けて發達し、投下資本額も従つて最高となり、工業と運輸業と配給業とを合一統制するに至るものである。ヒルファージングなどの云ふ金融資本時代がこれであつて、金融業は斯る傾向と威力とを有するものなのである。然るに日本ではどうかであるか。日本では金融が濫用され勝ちなる爲めに工業の發達は見られず、金融業と工業との間の關係も圓滑なるを得ない。爲めに近頃例へば大正八年から今日にかけては金融業は發達せず、工業も徒らに膨脹を示めせるのみである。現に工業固定資本の過大化の爲めに、工業投下資本額は激増を示めせるも、金融業投下資本額の増加率それに伴はざることには依つて見ても夫れは分るではないか。即ち左表は夫れを示めずであらう。

大正八年末		昭和二年末	
農 業	七六、八六五 <small>千円</small>	一一五、一一八 <small>千円</small>	
工 業	二、二四八、八五八	四、九五六、八六九	
鑛 業	四七二、七九二	七九一、四二六	
金 融 業	一、七〇二、四〇三	二、一七六、七五四	
運 輸 業	七一六、四三六	一、二七四、一一七	
商 業	七五八、一四一	二、一九三、九二二	

斯くの如く日本で、大正八年以後に工業資本投下の増加せる割に、金融業投下資



本の増加しないのは、財界反動に依る固定資本の増加とその未整理に依る工業界の不振を反映するものであつて、工業界の發達を意味するものではないのである。工業界の發達は當然金融界の發達を伴ふものであるが、已に右表にも見たる如く金融業投下資本高の著増を伴はない工業投下資本高の著増であることから見ても、大正八年以後の日本工業界の發達が、決して堅實なる工業界の發達でなかつたことが分るではないか。

以上の如き諸點から見ても、日本は未だ工業中心の産業國でないことが分る。統計上では工業投下資本が最多を占め、日本は工業國らしく見えるけれども、實際はまだ工業國ではない。現に日本はつい最近まで商業立國だの、農業立國だのとさわざ廻つて居つたではないか。近頃では愈々資本主義の發達は、工業發達を根本としなければならぬことが分つて來たからして、産業の中心を工業に求め出したのだが、未だ決して純然たる工業的産業國ではない。寧ろ金融業や商業やに妨害されて工業發達も甚だ不圓滑を極めつゝある。只此の數年來、日本が産業の中心を商業から工業へ移さんともかき出したことは確かである。乍併、日本の産業は依然として市價經濟制度の上に立脚して居つて、原價經濟制度の上に立脚して居らない爲めに、産業の中心を商業から工業に移すのに大變に骨が折れるのである。

る。そこへもつて來て、英、米、獨の高度工業の壓迫が激しいのである。而も日本の工業は低度工業であり對内的である。世界的規模や世界的平準や世界的單位や世界的需要やに立脚する高度的對外的の工業ではない。固定資本の金額は許多だがその生産力は劣等であり、低金利や低勞銀や高物價やの上に辛うじて支へられて居る上安定性の不充分が見られる。粗工業は精工業となり、手工業中小工業は大工業となり、固定資本の改善を來し、工業系統の整理を見たる上でのカルテル、トラストならばいざ知らず、商人工業家に牛耳られ、低金利、低勞銀、高物價の上に立脚し、對内的であり市價經濟的であり惡競争的であり粗工業的である日本の工業界では、カルテル、トラストに依る生産制限位では、付焼刃の觀が多いのである。そんな安定は信賴するに足りない。況んや金の解禁をして日本の工業をば世界化せんとするに於てをやである。従つて今迄殆んど見る可き改造期を持たないで膨脹の一路を辿れる日本の産業界に、將來一大變革を來す可きことも想像するに難くないのである。日本産業の中心をば商業や農業からして、工業へと移動せしめねばならぬことを一考したゞけでも、日本産業の前途不安は首肯せざるを得ないではないか。昭和二年末に於ける各種産業別の拂込資本金表を見ても左表の如くであつて、商業は主要の地位を占めて居るではないか。以つて以上の



立言の必ずしも不當でないことが分るであらう。

	社 數	拂込資本 千円	積立金 千円	社 數
農 業	七五八	一一五、一八八	八、七五一	一一〇一
水 産 業	二四六	八四、七〇七	八、〇一五	三〇〇
礦 業	三六三	七九一、四二六	一一〇、九四二	三一、五六四
商 業	一六、六四〇	三、二三五、四三三	四三四、三〇六	二〇七、五五一
金 融 業	二、九四六	二、一七六、七五四	一、二二一、七八三	一、五六一、〇一三
工 業	一三、八〇三	三、一七七、七七四	六九一、六六六	四〇二、五七三
動 力 業	五七九	一、七七九、〇六六	一一一、九八〇	七三二、八二九
運 輸 業	三、一八一	一、二七四、一一七	一八五、九〇四	一八一、五四七
合 計	三八、五一一	一二、六三四、四六六	二、七八三、三四七	三、一一八、五七八

従つて日本の産業界は正に一大整理期の嵐の前に立つて居ると云へよう。固定資本の整理、産業體系の整理、産業構成の合理化をば日本の産業界は經ねばならぬ立場にあつて獨占組織に依つて生産制限を行つたばかりでは駄目である。殊に金の解禁が行はれたるに於てをやである。

金解禁は種々な意味にとれようが結局金解禁は日本産業の國際化的合理化ではないか。従つてそのショックは豫め覺悟する處がなければなるまい。金解禁は産業の合理化であり財界の大整理であることを吾々は忘れてはならぬのである。金解禁を産業合理化や財界整理やと結び付けて考へてはならぬと云ふ人々があるが實際はその反對であつて金解禁は實に財界整理そのものであり、産業合理化そのものである。

然るに財界整理は統制されたる財界を豫想するものであり、産業合理化は統制されたる産業を豫想するものであつて財界や産業が統制されて居るほど財界整理や産業合理化は圓滑に行はれるものである。處が日本の財界や日本の産業と來たら並はづれし不統制體である。こゝにそも、金解禁が日本に於て影響大なる譯である。

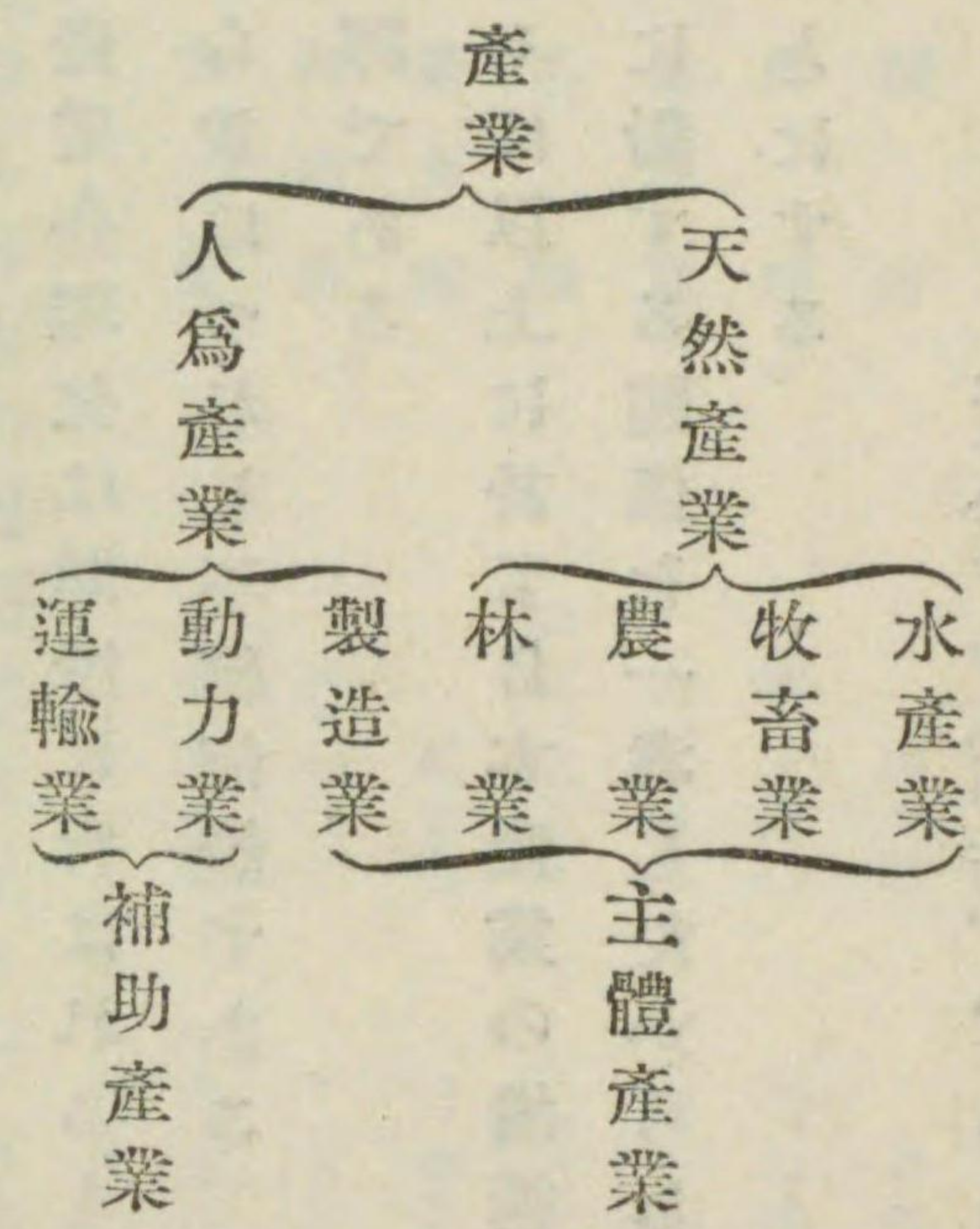
吾々は以上に於て日本産業の機構を一考し併せて金解禁のメカニズムその産業界に對する關係を一考したからして次には産業自體の内容を具體的に分析することにする。

### 産業の種類から見た日本産業

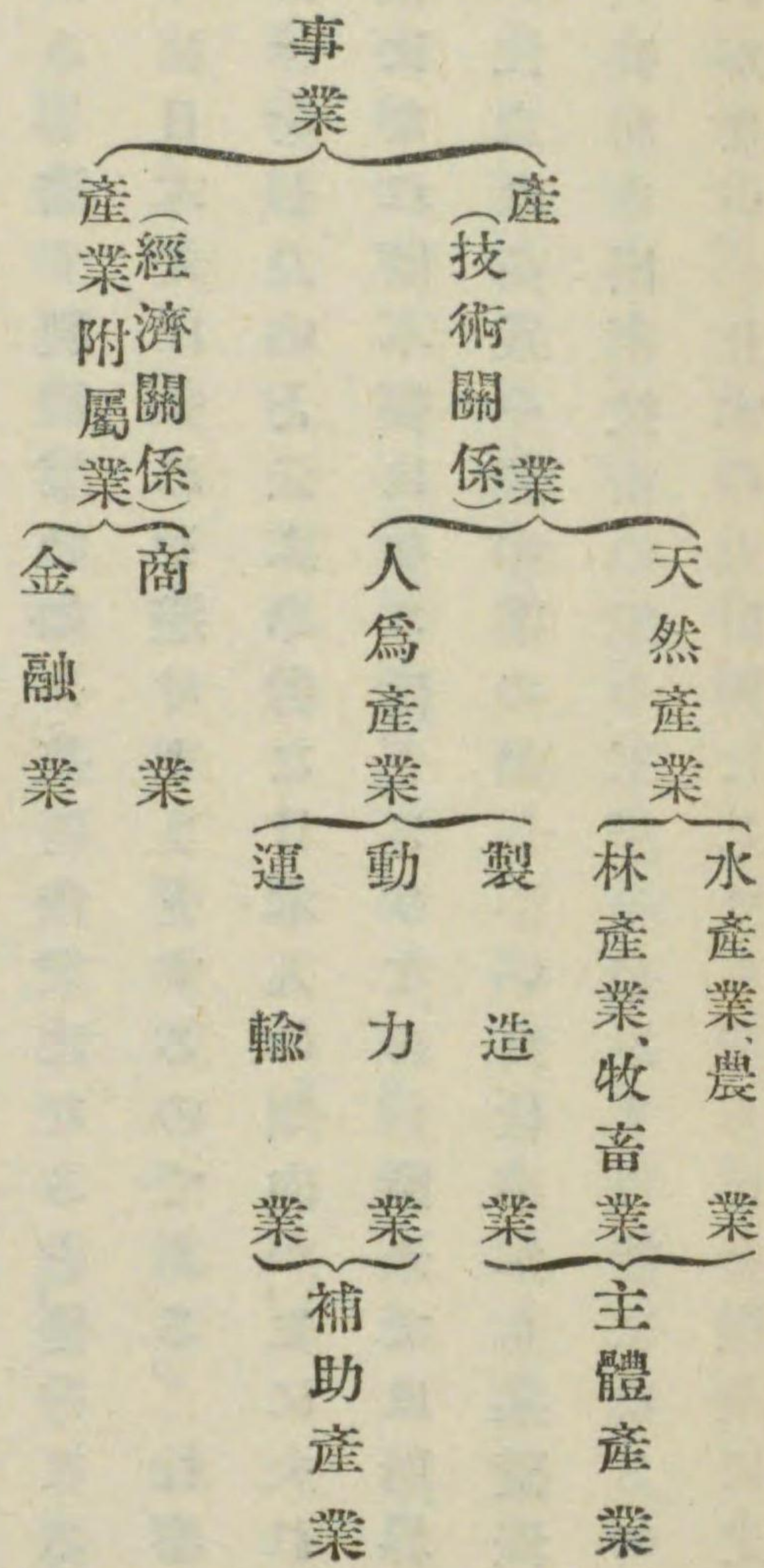
産業は之を天然産業と人爲産業とに分けることが出来る。天然産業とは農業、水産業、林業、牧畜業等であり、人爲産業とは製造業、運輸業、動力業等である。且つ此



の人爲産業中でも製造業は主體産業であるが運輸業や動力業は補助産業である。然るに天然産業は總て皆な主體産業である。従つて今産業の種別表を掲ぐれば即ち左表の如くである。



然るに商業と金融業とは産業と呼ばれないのである。蓋し技術的關係がないからである。天然産業にせよ、人爲産業にせよ、苟も産業と稱されるほどのものは技術關係が經濟關係の根柢に横るのであるが、商業や金融業にあつては技術關係はなくて初めから經濟關係ばかりだからである。従つて以上を表記すると左の如くなるであらう。



然るに世人は屢々補助産業と産業附屬業とを同一視したり、更に進んで産業附屬業をも産業其者と同一視せんとするのである。が之は大いなる間違であつて産業の本質はその生産力と技術力とを根柢とする點にあり、然らざるものは産業でなくて産業附屬業に過ぎない。産業が金融業や商業と異つて自然的經濟の趣を有する理由もそこにある。それだけに又産業は生産力の根源として必要なるものである。商業や金融業は、純生産業でないが産業は純生産業であつて、一國經濟確立の上に産業は確固不動の基礎を與へるものである。然るに不幸にして日本では商業と金融業とが主として經營されて肝心な産業が餘り經營されて居ない。産業の中でも動力業や鐵道軌道業の如き副的産業の



みが經營されて根幹である製造業は發達して居ない。農業も牧畜業も衰態にある。従つて折角の動力業も折角の運輸業も折角の金融業も折角の商業も浮いて仕舞つて根幹なき枝葉の觀がある。運輸業が娯樂人の運送を事とし動力業が夫れを助け金融業は不生産事業の金融に走り商業が投機的に傾くのも以上の點を考へると無理もないことと思へる。

従つて日本財界の立直しには何を置いても基礎産業を確立する事が必要である。然るに製造業の如き基礎産業の確立にはどうしても優秀なる技術を要する處が不幸にして日本には夫れは乏しい。徒らに經濟に走つて技術の經濟化を考へない。日本人がともすれば商業に走り金融業に走り運輸業に走る所以がこゝにある。詰り製造業の如き基礎産業になると、優秀なる技術を要し非常に困難な爲めに日本人は夫れを避けようとするのである。仕事をソツチのけにして金儲けだけをしたいと云ふ卑劣な日本人の傾向が、更に夫れを促進する。而も財界が不振になれば不振になるほどさうなる。歐米では財界が不振になるにつれて國民の注意は商業や證券業の如き浮いた仕事から基礎産業的の仕事に向ふからして大發明も出來、技術の進歩工業の發達も可能になるのだが、不幸にして日本にはそれがない。日本の大財閥にしても徒らに金融業に走つて基礎産業に注目しな

い。之は日本の爲めに悲むべきことだ。そこで私は先づ日本に於ける基礎産業に注意を向けてその内容を分析せんとするのである。

日本に於ける基礎産業としては紡績、生糸、製本、製紙、製糖、製鐵、製粉、製麻、セメント、鐵工、造船、肥料、石油、石炭、製酒、羊毛、硝子、染料、等があるが、此等のものは大半手工業が粗工業に屬し高度工業に屬して居ない。

そも／＼手工業とは資本家と労働者と企業者と經營者とが全く同一人格に合一せる場合の工業を意味するものであつて繭を作る農夫の如きは正にさうである。また粗工業とは資本家と労働者と企業者と經營者との分化を有するもその製品を分析すると大半が原料代と労働とからなり固定資本や技術の代償は甚だ少い處の工業であつて、紡績業の如きその一例である。蓋し紡績業の製品たる綿糸を分析するとセメント業に就ても製油業に就ても製鐵業に就ても製紙業に就ても云へよう。歐米に見る機械工業は以上の反對に正しく一個の高度工業であつて自動車にせよ電氣器にせよ皆な技術費と固定資本費と經營費とが大半を占め原料費や労働はその一小部分なるを見るではないか。然るに日本には斯うした高度工業が稀である。山葉樂器の如きは確かに一個の高度工業であるが、それは分量に於て日本を代表するほどのものではないのであつて、その他に日本的の



高度工業と云つたら何もないと云つてもよささうである。日本の基礎産業は手工業と粗工業であると云ふ結論は遺憾ながら承認せざるを得ないであらう。今以上を統計の上から見るならば即ち左表の如くであつて、

	拂込資本金 千円	積立金 千円	社債金 千円	利益金 千円	配當金 千円	利益率 %	配當率 %
織維工業	二、五九九	八四、二九四	三二、八八六	八六、〇八〇	六、四三七	一〇、一	七、五
金、屬工業	六〇	三三、一六〇	三、三五七	一一、八九三	九、五三三	四、六八八	四、一
機械器具工業	一、三三七	四九、三〇〇	一六、五〇〇	八、八三〇	四三、九二二	二五、二四六	八、七
窯業	四四四	一六、二一四	三〇、六八八	三三、一〇八	一四、三九五	二、二九六	八、八
化學工業	一、五八八	八、一五七	七、七〇三	一三五、五八八	五三、〇〇一	三四、五九五	八、九
食料品工業	三、五五六	五〇、五六一	八、〇四〇	四九、一四三	三四、三五七	三、九七一	一〇、七
動力工業	五七九	一、七九、〇六六	二一、九八〇	七三、八三九	一六、九八六	一四、六四二	九、四
其他工業	—	三六、六四三	三、一九三	五、九六三	三、七六六	一三、四七一	六、〇
計	一四、三三二	四、九六、八三九	八〇三、六六六	一、三三、四〇三	四四七、五二五	三三、二六七	九、〇
鑛業	三六三	七九、四三六	二〇、九四一	三一、五五四	四、八七三	三九、六九九	五、三
鐵道軌道業	三四八	七、七五、六六一	五、八七六	一、五五、五四	六三、四三〇	五、三三四	八、一
總計	一五、〇三三	六五、三、九六六	九二、四四五	一、二九、五五二	五五、八二七	四七、七〇〇	八、四

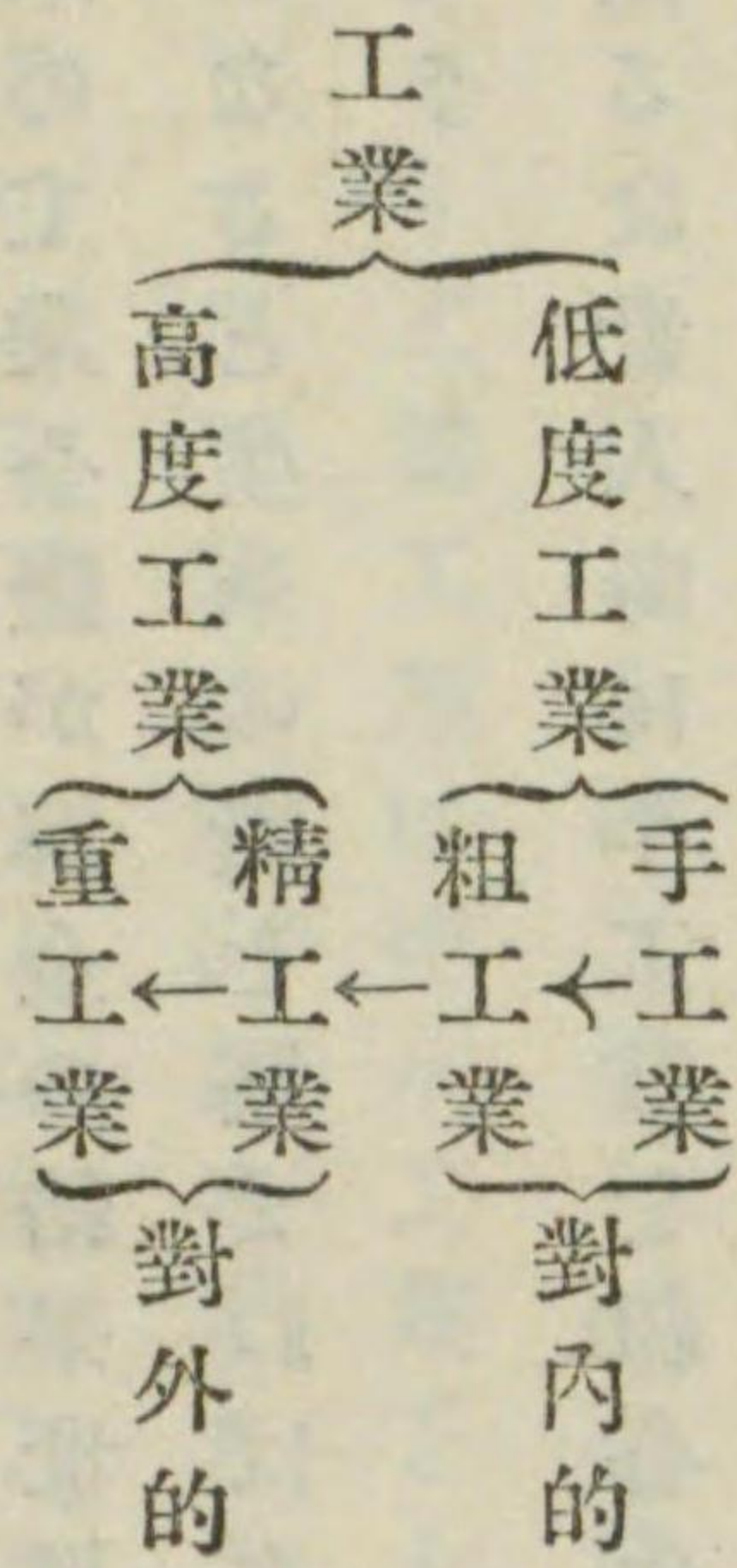
日本に機械工業の如き高度工業の僅少なることを窺知し得よう。

そも、高度工業なるものは之を二種類に分つことが出来る。一は精工業であり、他は重工業である。精工業とは機械器具を製造する工業の如く製品分析上

技術費、固定資本費を多分に有するものであるが、重工業とは機械を作る機械を製造する工業であつて鋼鐵を切る機械とかクレーンを製造する工業とかの如きを意味する。

従つて精工業と重工業とに向つて一同の工業が伸びて行くのが工業の高度化であつて斯る高度化は當然またその國の工業製造品の國際販賣を促進するものである。故に工業の高度化を意味せざるを得ないであらう。高度工業の發達が世界カルテルを誘發し來るもまた故なきでない。

何れにせよ工業(基礎産業)は之を分類すると左表の如くであつて



手工業と粗工業と精工業と重工業との四種あるも、その歴史的發達の順序から云へば手工業を起點として重工業に向はんとするものであつて手工業や粗工業は低度工業と考へらる。斯る低度工業は頗る對內的のものであつて世界市場を相手にするには不向である。若し低度工業が世界市場を相手とするならば、世界



市場から統制され世界市場から搾取されるであらう。夫れは恰も資本主義國に對する舊資本主義國(植民地)の觀がある。日本の生糸が現にさうした地位に置かれて居るではないか。

然るに日本には生糸工業を始めとして手工業や粗工業が許多であるのである。日本の工業全體が解金の結果世界化されて米英獨の高度工業の前に出されることになる。と生糸の轍を踏まねばならぬ。以上から考へて見て明かであらう。

然るに世人時に手工業を組合化さうとしたり、粗工業を完全カルテルに導かんとしたりする。が夫れは甚だ蟲の良い考であつて出來ない相談である。企業組織の完全は工業の高度化を前提とするものだからである。従つて日本工業の改善は先づ以つて日本工業の高度化から始められねばならぬ。恐らく金解禁後は外國高度工業の壓迫に依つてさうした風潮を促進せしめられる事になるであらうが、日本の財閥が此の點に着目して日本國民の全資本をば高度工業の發達に導く必要があるのである。世は正に工業世界化の時代であり、工業組織化の時代である。従つて工業高度化は最大焦眉の問題である。

只工業高度化に伴ふ困難は低度工業の打撃と技術力の不足と大資本集中の危険とであるが、將來の日本は工業國たる爲めに是非とも以上の困難を突破する必要がある。日本資本主義の完成も、それに依つて可能となるであらうから。處がさうしたことは云ふ可くして仲々に實現され難いものである。蓋し高度工業の確立は日本の如き低度工業國では多大の犠牲を伴ふものだからである。而もこのことは日本の工業がその種別に於て低度的であるのみならず、その形態に於ても低度的なるに於て一層強められざるを得ぬものである。

### 日本工業の企業形態

そこで次に日本の工業をば企業形態的に觀察すると、夫れは手工業と工場工業とになり、工場工業は中小工業と大工業とになるが日本では手工業の統計がないからして手工業は澤山あるだらうがその分量は判明しないのである。従つて工場工業のみを見ることにすると、夫れは即ち左表の如くであつて

社	計		割合	
	中小工業	大工業	中小工業	大工業
公稱資本金	三、〇五二、六九五 <small>千円</small>	一五、三三三、六五九 <small>千円</small>	一九・八一%	八一・八一%
拂込資本金	一〇、四九九、〇八六	一八、三八六、三五四 <small>千円</small>	一六・六一%	八三・三九%



工場	五三、一四二	五三八	五三、六八〇	九八、九九	一〇一
職工	二、〇七二、八〇七	一、三〇二、一二〇	三、三七四、八二七	六一、四二	三九、五八
生産額	四、四九三、二二二	二、六六一、五八〇	七、一五四、七九二	六二、八〇	三七、二〇

中小工業專業別分類

工場	工場數		從業員		生産高	
	中小工業	大工業	中小工業	大工業	中小工業	大工業
紡績工業	一八、五七一	三六三	六一三、五五五	四四一、九二八	一、五六八	一、三〇四
紡織工業	一八、五七一	三六三	六一三、五五五	四四一、九二八	一、五六八	一、三〇四
金屬工業	三、四八〇	二〇	七三、八七一	四八、九二三	二八三	一六四
機械器具工業	四、四三四	七〇	一一九、九八六	一六二、七一八	二二九	二八九
窯業	二、六三一	一三	五八、二七四	一四、一〇七	一六九	四一
化學工業	二、六七一	三〇	一〇七、一二二	三〇、二五七	六二七	一八六
製材木製品	三、九三五	〇	六三、〇五三	—	一八五	—
印刷製本業	二、三三六	六	五五、三三一	七、六八四	一三九	一八
瓦斯電氣業	四、一四	〇	一一、三二一	—	一五〇	—
食品工業	一〇、三一五	二九	一六〇、〇八三	二九、七八〇	一、〇三八	二一〇
其他工業	四、三五八	七	八四、六五一	一一、五七一	二〇〇	二五
計	五三、六八〇	五三八	一、三四七、二四七	七四六、九七七	四、五九八	二、二三七

中小工業の數は全工場工業の九八%を占め、その職工數も六一%、その生産額も六二%を示して居るのであつて、その地位の重大なることが分るのである。尤も中

小工業の公稱資本金は一六%であつて甚だ少いやうだが、之は恐らく中小工業が株式組織を採用して居らない爲めに、資本金が過少に評價されて居るのにも原因するであらう。何れにしても日本では、中小工業が數量上から見て重要な地位を占めて居ることは、之を窺知し得るであらう。

そこで所謂中小工業問題も起つて來ようと思ふものだが、元來此の中小工業なるものは、勿論低度工業の代表的のものであつて(一)低金利、低原料、低勞銀、高物價に支へられる處の(二)市價經濟的工業であり(三)商人工業家の指導下にあつて(四)内國人の消費充足を目當とし(五)固定資本の質量も劣等なものであるからして、金解禁後は高度工業の發達とその壓迫の増大するにつれて、アイヌ人種の如く漸次追ひつめられて自滅す可き運命にあるのである。手工業の如きは工藝工業化することとに依つて、一方の活路を見出すことも出来るが、中小工業には夫れも許されて居らぬ。近代的金融機關、近代的運輸機關、近代的配給機關は、共に中小工業を已に見棄て居ることも中小工業の苦手であらうし、中小工業の組合化が困難であることもその弱點である。

寧ろ金解禁後は問題は中小工業處ではないのである。大工業自體が問題である。蓋し日本の大工業は粗工業的だからである。然らば何故に粗工業なら存立



が困難かと云ふに、粗工業では競争が激しく、市價を崩す傾向が大であるからである。而も粗工業では製品原價の七八割までが原料代金なる爲めに、市價の下落に應じて原價を引下げることが出来ないものである。殊に原料相場の變動に順應する爲めに、投機思惑に流れることもあつて、半ば商業化すに於てをやである。尤も以上の悪傾向を矯正する爲めにはカルテル、トラスト、コンチエール等に依る組織化の方法や、チエーションストアや特約店などに依る配給系統獨占の方法などがあるけれども、夫れも必ずしも永久的なるを得ないのである。

處が現在の日本では、組織化と配給獨占化の二方法に依つて、辛うじて粗工業を維持しつゝあるのである。だから筆者は日本の大工業が單に大工業であると云ふことだけでは、安心は出来ないのである。蓋し大工業必ずしも高度工業ではあり得ないからである。況んや中小工業の過多なるに於てをやである。従つて日本に工業の高度化を中心とする産業革命の襲來す可きことも、我等は豫期する處なくてはならぬ。

然るに日本工業界が、その高度化運動の爲めに産業革命を出現し來る可きことは、更に日本工業界の統制力缺乏からしても考へられるのである。そこで次に吾吾はこの點に就て一考せんと欲する。

### 日本工業と統制力

凡そ工業は總て統制力を有しなければ、安定し發達し得るものではないのである。市場經濟の動搖に支配されて居つたのでは、工業の安定發達は望めぬのである。現に日本では安定し發達しつゝある工業になると、皆な市場經濟の動搖を逆に統制し、市價變動の危険は市場に轉嫁しつゝある。紡績業の如きはその一例である。假令それほど完全でなくとも、市場經濟的競争からは完全に免れて居らねば、工業の安定は期し得られない。製紙業が比較的安定して居るのも、製紙會社が三、四に集中し、原料獨占をなし得るに至れる爲めなるを見ても、夫れは分子ではないか。その他セメントにしても、生産協定に依つて市場競争から免れて安定を得て居ることは、世間周知の事實ではないか。

そこで問題は工業統制は如何にして行ふ可きかであるが、勿論その第一は工業の高度化であるが、第二は財閥化である。第三は組織化であり、第四は企業集中化である。第五は配給獨占化であり、第六は原料勞働力等の獨占化である。が、日本では最も有效なる第一の高度化は未だ行れて居らぬ。第二の財閥化も有效であるが之も充分に行れて居らぬ。金融資本の活躍が未だ餘り見られぬに依つても



夫れは分る。斯くて結局日本で専ら行れて居るものは第三の組織化であつて、夫れは生産制限カルテルとか、販賣協定シンジケートなどの形を採つて、已に世に現れて居るのである。處が企業集中化は未だ不充分である。之は諸工業分立傾向から見てもよく分るであらう。處が配給獨占化の傾向は近頃になつてポツ／＼行れ出した。原料獨占は製紙業のみで、その他の工業ではその餘地がないので未だ充分には行れ難いやうである。

以上の様に見て來ると云ふと、結局日本工業の統制化は不完全の状態にありと云はざるを得ないのである。加之、我國工業は株式制度を濫用して蝟配遺縁水まで等至らざるなく、爲めに自から進んで統制力を毀損して居るやうな傾向が見える。従つて現状を以てしては到底工業の安定は得られないのである。

然らば何故に日本では斯うなつたのかと云ふに、蓋し夫れは日本の資本主義が半ば封建的に半ば商業的に、歐風を悪く模倣して一氣呵成に鞭打された爲めである。即ち日本の諸工業が今日統制力を缺くに至つたのは、日本資本主義の罪なのである。従つて日本の資本主義を改造せざる限り、日本の諸工業も決して完全なる統制力を獲得するには至らぬであらう。

そこで今、日本の資本主義に就て見るに、結局日本の資本主義は商業資本主義なりと云へるであらう。米國の資本主義は工業資本主義であるとする、日本の資本主義は商業資本主義であると云ふ可きである。蓋し(一)日本の資本家階級は工業家と云ふよりも未だ商人であり、(二)日本の財界を支配する原則も原價主義でなく、市價主義であるからである。このことは日本に原料が少く、日本の工業が粗工業であり、従つて日本の資本家が常に原料市價の變動に支配され勝ちであつた爲めにも原因するが、同時にまた日本の資本主義が自發自展せる、自然の産物でなく、人爲に依つて急造されし封建資本主義であつて、資本主義の濫用が行れるためにも原因するのである。が、要するに自然力の貧弱と資本主義運営の不徹底とが、日本の資本主義をして素朴なる商業資本主義たらしめたことは、常識的にも首肯し得る處と思ふ。また今ではそんな馬鹿氣たことを主張する人もなくなつたが、明治時代には日本に商業亡國論などが可成り優勢であつたことから見ても、以上の點は肯定されようではないか。

従つて日本の資本主義は早期資本主義であると云へる。人に依ると日本の資本主義は後期資本主義であると論ずるが、私は夫れを信じない。蓋し日本の資本主義が危険に瀕しつゝあるの點からすれば、如何にも日本の資本主義は後期資本主義であり、末期資本主義であるやうにも考へられるが、日本の資本主義が危機に



瀕するに至れる原因は、日本資本主義が後期に到達せる爲めでなくして、日本の資本主義が濫用される爲めだからである。日本の資本主義は早期からして封建主義と人爲主義と重金主義との爲めに濫用され悪道された爲めに、資本主義本來の成長を示さぬうちに、行詰つて危機に瀕するに至つたものであるからして、如何にしても日本の資本主義をば後期資本主義とは呼び難いのである。このことは利潤率の自然低下、金融資本の優越、工業労働大衆の出現等所謂後期資本主義の特長を日本の資本主義が現はして居らない反面には、虚富虚業の如き資本主義濫用の徴候を、日本の資本主義が遺憾なく現はして居ることから見ても明かである。實に日本の資本主義は封建主義、人爲主義、重金主義の爲めに、自然力の貧弱と相俟つてその早期商業制時代に於て、早くも濫用されて行詰つて仕舞つた一種特別の資本主義に外ならぬのである。

以上の如く日本の財界は企業の合理化どころではなく、資本主義の合理化をば先づ以て必要とするの状態にあるのであつて、日本に於ける財界整理の頗る困難を極める理由がこゝにあるのである。米國などでは資本主義合理化の基礎石が出来て居るからして、企業の合理化もすぐに出来るのだが、日本では資本主義が濫用されて居つて、企業も健全には植ゑ付けられ得ないほどに、資本主義が亂雑状態にあるのだからして、先づ以て資本主義の合理化を計つてからでないといふと、日本では企業の合理化も出来ないのである。だからして日本の財界整理は極めて困難を感ずるのである。然るに今迄は斯る點を知らないで、企業の合理化ばかりを計らうとしたからして、却つて企業の合理化が合理化倒れに了る企業そのものを傷ける場合すらあつたのである。

従つて我々は先づ以て日本の資本主義をば、その悪用から救ひ出して、高度工業中心のものにしなければならぬ。斯る資本主義の合理化運動こそ、差當つての日本財界の整理でなければなるまい。

と云つて、資本主義を合理化するには、虚富虚業濫費勞費等を一掃して、産業界の一大淘汰を行はねばならぬが、さう云ふことをすれば財界は急激なる收縮を來し恐慌を惹起せざるを得ない。だから日本の政治家はさうした方針にも出ようとはしない。と云つて夫れをしないで居るには、どもしても更に借金、遺繰、過評、虚業等を通じて、亂雑な財界をしてモットと大きな形にして、將來に延長して行かぬばならぬ。が、それには延長費利息金、蝟配金、救済金、保護金、税金等の形に於て大に必要である。が、斯る行詰延長費は雪ダルマをころがす様に、進むにつれて益々累増して行き、遂には延長費燃出源泉がなくなるまで行く。



従つて結局は日本もさうした傾向を早く防止して、日本の資本主義を合理化す可きであつて、然らずしては日本の工業の統制力を強めることは思ひも寄らない。然るにさうした日本資本主義の合理化は、日本の財界にアラシを來させざるを得ないのである。日本工業の統制化の困難此處にある。日本工業界の有する一大弱點は、實にこゝにありと云ふ可きではあるまいか。

### 日本工業のスケール

次に世人が看過し易い日本工業界の一大弱點は、工業スケールの如何にある。そこで今この點に就て一考するに、そも工業のスケールなるものは、製品の品質と一致す可きものであつて、例へば趣興品の如きを製造する工業のスケールは、多量生産工業のスケールの如く大なるを得ないものであつて、強ひて趣興品製造工業のスケールを大にすれば、(一)趣興品が機械製造の爲めに、趣興品特有のスペシヤリテイを失つて、却つてその販路を失ふのみならず、更に又(二)機械製品を無理矢理に強ひる爲めに、固定資本の累増する割合に労働能率が上がらずして、原價割高となる傾向を來すに至るが如くである。現に製靴工業の如きその好例である。現に見よ。靴は足袋の如く機械力に依つて勞銀と原料代との節減をなし得ざる

粗工業品なる爲めに、製靴工業のスケールを擴大するほど原價割高となり、利潤が低下するを見るに非らずや。加之、靴は足袋よりも嗜好品たる程度大なる爲めに、夫れを機械力で無理矢理に製造すれば、勢ひ靴の趣興性が減少してその販路が狭小となり、手工業的に小スケールで靴を作る者の爲めに壓迫されざるを得ないであらう。

従つて趣興品や粗工業品は、機械力の應用が經濟關係上僅少なるものと云はざるを得ない。従つてまたさうした工業には、原料や労働者や特殊の手續の必要は大であつても、機械設備の如き固定資本の必要は少いものである。従つて斯る工業のスケールも勢ひ小さくて良いものである。夫れをば技術的に機械化するところが出来るからと云つて無理に機械化し、従つてその固定資本を大にし、スケールを擴大するならば、寧ろ却つて製品の販路は狭小となり、原價は割高と化せざるを得ないであらう。故に(一)原料を多分に必要とし、従つて原料の市價變動に支配される程擴大なる所謂粗工業品や(二)嗜好的性質を多分に含み、従つて手續を必要とする純手工業品や、却つて經濟的には小スケールで經營さる可き工業の部類に屬す可きであつて、之をば強ひて同一規格的に多量生産して、海外に販賣するを得る高度工業品と同一視し、その眞似をして大スケール化すると、それこそ自縛に陥



らざるを得ないであらう。

然るに日本にはさうした悪傾向が過多である。即ち日本では多量生産に向きなき粗工業品や機械生産に不適當な嗜好品やの製造を主とする工業が多いので勢ひ米國などで産業合理化とかホフード主義とか盛んなのを見ると多量生産や機械生産に向きなき品物であると云ふ基礎條件を忘れて、ついつかりと多量生産や機械生産の良いところばかりに眼がくれて米國の眞似をなし、スケールを法外に大きくして、却つて合理化倒れの憂き目に遭ふに至る。従つて日本は寧ろ多量生産や機械生産に向きなき品物であることを自覺して、スケールを小さくして、従前通りにやればよいのだが、さて中々夫れが出来難い。と言ふのは手工業や粗工業は割が悪いからである。手工業や粗工業で小スケールに嗜好品や粗工業品の製造をやつて居てはどうしても多量生産や機械生産を主とする歐米の高度工業に利益率の點に於て壓倒され勝ちだからである。従つてさうした割の悪い工業から遁れんとして、日本の工業家はスケールを大にして、多量生産や機械生産に走るのである。品物が多量生産や機械生産に向きなることを忘れて、歐米に猿眞似して多量生産や機械生産に走り、大規模に粗工業や手工業をやらうとする。そこで販路や原價の點からして大失敗をまねくことになるのであつて、斯うした

意味の工業失敗は、今迄日本に嫌になるほど反覆され來つたのである。従つて吾吾は今後は是非ともこの品物は機械生産や多量生産やに果して適するや否やを先づ以て考へてから、工業の規模を決定す可きである。

處が不幸にして日本には、多量生産や機械生産やに不適當なる根からの手工業純然たる粗工業が餘りに多すぎる。寧ろさうした割の悪い工業のみが日本に残され、委ねられて居るのだとも見ることが出来る。従つて日本人は勢ひあせつて歐米風の高度工業化、さうしてスケールを不當に擴大して失敗するのである。が結局は矢張り手工業や粗工業であるからして、小經營が適當する。爲めに日本の諸工業は今日でも小工業經營の部類に屬して居るのである。それと云ふのも日本の諸工業が嗜好品や粗工業品の製造を主とする、純然たる手工業純然たる粗工業なる爲めである。

従つて日本の工業のスケールを大にし、高度工業化を來さうと思へば、先づ以て製品をば嗜好品から非嗜好品へ變へる可きである。粗工業品からして高度工業品に變へる可きである。然るにさうした非嗜好品や高度工業品やになると、歐米が已に技術力の上からしても、資本金の上からしても、工業關聯性の上からして充分に立場を固めて居て、入る餘地を與へないのである。爲めに日本の工業界は止



むを得ず、割の悪い手工業や粗工業の範圍を彷徨せざるを得なくなつて居る。従つて斯うした事情をよく知つて手工業は手工業らしく、粗工業は粗工業らしく、小スケールで甘んじて居ればよいのだが、さて大スケールの工業を見せつけられると、ついスケールさへ大きくすれば同様の利益に浴し得るかの如くに考へて、その真似をして失敗するに至るのである。斯くて結局日本の諸工業は大スケール化すと自滅して、小スケールのものばかりになる。その爲めに日本の工業には小スケールのものが多い結果となる。

日本の工業に小スケールのものが過多であるのは、日本での輸出品のうち小工場製品は大工場製品の半額以上に達せるに依つて見ても分るであらう。現に左表は夫れを示すであらう。

輸出貿易上に現はれた生産規模類別による重要性

年次	輸出合計		生絲額		近代工業製品	
	金額	輸出高	輸出高	小工場の製品	大工場の製品	
明治 一 一 五	一五、六〇〇	八、四五七	六、二五七	八六	一五	
同 一 一 十 五	三〇、二六八	一四、一二五	八、五五四	一一、二九	七一	
明 二 一 一 二 五	七二、六〇〇	二四、六五六	二九、一三一	三、八八五	八一七	
同 二 一 一 三 十	一二四、〇一〇	三二、九九〇	四二、九五二	九、〇〇三	五、五二二	

同 三 一 一 一 三 五	二一九、一六三	五〇、五〇四	六四、四〇三	一一、七五四	二六、四六七
同 三 一 一 一 四 十	三五七、二九三	六六、二七七	九八、六六六	二八、二三九	四四、九一二
同 四 一 一 一 四 四	四二四、三〇五	七四、二〇一	一三一、四五二	三七、五二九	六一、四二二
大 正 一 一 一 四	六一四、七一一	九四、一〇九	一七一、八八〇	六三、五四一	二二、七九四
同 一 一 一 五	一、六九七、八六二	一八九、七三五	四二八、五二八	二一八、二三〇	四二九、二三六
同 一 一 一 二 五	一、五七一、六〇九	一三一、八一六	五二四、七三五	一六四、一一一	四七五、四三一
同 一 一 一 三 十	二、〇五二、四五二	一五一、一三〇	七九七、七二一	二七〇、六〇二	六二三、〇四七

割合

明治 一 一 五	一〇〇.〇〇%	五四.二一%	四〇.一七%	〇.五五%	〇.〇九%
同 一 一 十 五	同	四六.六六%	四〇.三〇%	三七.三%	〇.二三%
同 二 一 一 二 五	同	三三.九六%	四〇.一三%	五.三五%	一一.一三%
同 二 一 一 三 十	同	二六.六〇%	三四.六四%	七.二六%	四.四五%
同 三 一 一 一 三 五	同	二三.〇四%	二九.三九%	五.三六%	一一.〇八%
同 三 一 一 一 四 十	同	一八.五五%	二七.六一%	七.九〇%	一一.五七%
同 四 一 一 一 四 四	同	一七.四九%	三〇.九八%	八.八四%	一四.四八%
大 正 一 一 一 四	同	一五.三一%	二七.九六%	一〇.二八%	一九.九八%
同 一 一 一 五	同	一一.一七%	二五.二四%	一二.八五%	二五.二八%
同 一 一 一 二 五	同	八.三九%	三三.三九%	一〇.四四%	二九.一〇%
同 一 一 一 三 十	同	七.三六%	三八.八七%	一三.一八%	三〇.三六%

吾々は右表の如き生産規模から見て日本の諸工業が大工業化されない純手工



業であり純粗工業であることが判るのである。従つて日本では工業政策としては(一)以上の如き手工業品粗工業品の製造そのものをば断念して高度工業品の製造を新らしくやり出すことによつて高度工業國化するか然らずんば(二)現在の如き手工業品や粗工業品の製造に満足してそれに適した諸設備を完成し所謂手工業國として立つかの二途しかないのであるが日本人は資本主義の高度化を計らんとするに急なる爲めに手工業や粗工業に適する設備をしようとしなない。無暗に高度工業式の設備に走る。それなら趣味品や粗工業品の製造を断念して高度工業品の製造に向ふかと云ふとさうでもないのである。斯くて日本では製造工業は中途半端の状態に置かれて居る。これ日本工業界の一大弱點でなくて何であらうか。

### 重役職能の不備と配當の不安定

更に日本工業界の一大缺點はその重役の職責上の怠慢である。現に見よ。日本では株式組織の形態を採る諸企業は概して皆な重役と株主との喰物になつて來たではないか。即ち重役は不正の經營をして株式組織の企業を喰ふし株主は蝟配の形で株式組織の企業を吸血し來つたではないか。従つて勢ひ業務の發達

などはソッチのけとならざるを得ない。業務の發展などはどうでも良いから収益の一錢でも多かれと祈る重役のみが日本では多い。このことは日本の重役が澤山の會社の共通重役となつて居つてその會社に對しても充分にその職責を盡し得ない現状にをかれて居るに依つて見ても分らう。然り一人の重役が數多の會社の重役であつて各社が同一重役を共通的に有することは獨逸の如く企業銀行制度の處ではいざ知らず日本のやうに純然たる商業銀行制度の處ではどう見ても變則たらざるを得ないではないか。現に米國を見よ。米國などでは事業本位であるからしてその重役も一人一業主義であつて共通重役の傾向が少いではないか。自動車王フォードにせよ、鐵鋼王ケリーにしても皆なさうではないか。然らば日本にさうした大實業家が居るかと云ふに一人もそんな實業家は居ないのではないか。依て以て日本の重役が營利にのみ汲々たる商人式重役であつて仕事本位の工業家的重役でないことが分らう。このことは左表に見る如く日本諸工業會社の配當率が法外の高位に財界不況の際に不拘無理矢理に据ゑ置かれて、いよ／＼となるとドカツと下つたりして、少しも配當率に永續性と安定性のないことから見ても分るであらう。







## 組織化の不備

更に日本工業界の缺點は組織化が不備であつて爲めに同種企業間に惡競争の斷え間がなく企業は各自おびやかされ通して長期經營など思ひも及ばないことである。従つて斯る缺點を一掃する爲めには先づ以て企業の組織化を計り統制を強めねばならぬのであるが不幸にして日本の工業が手工業や粗工業であり且つ夫れ等が商人重役に依つて指導されて居る爲めにさうした企業の組織化など思ひも寄らないのである。

## 日本産業の整理程度

日本の諸産業が合理化されて居ないと云ふことは、以上述べた處からでも分ると思ふが、日本の諸産業は更に進んで何等整理されて居ないと云へるのである。然らば企業整理とは如何なることを意味するものなりやと云ふに、獨逸學者の云ふ處に依れば、例へば、アモンにしても、ロブケにしても、皆企業整理を以て單なる資金化とは、夫れを區別して居るのであつて、企業整理は好況時代に増設されて過剰となつた處の固定資本をば、それ／＼適當に利用する事を意味するものと考へる

のである。従つて、かの減資、解散、合併等の如きは結局表面に表れたる企業整理の現象に過ぎず、企業整理の本質は經營改善による過剰資本財の利用に外ならぬこととなる。然るに我國人のうちには、企業整理を以て資金化と混同し、資金化運動が一順し物價が下落すれば、夫れで企業整理は行れたるものと考へるのであつて、彼等が日本の企業整理が已に了れりと考へる所以もこゝに存するのである。

然らば以上の如き眞の意味に於ける企業整理は日本では果して行れたであらうか。問題は之である。が筆者は一般識者と其見方を異にし、我企業整理はその眞の意味に於ては大して未だ行れては居らないと考へるものである。夫れは何故であるかと云ふに、蓋し日本の企業界は全體から見れば少しも固定資本の利用が行れて居らず、少しも重荷が軽くなつて居らないからである。と云ふのは原價の平準が未だ一般に低下して居らず、物價平準の方が一足さきに低落歩調にあるからである。即ち、今工業會社を中心として未整理の程度を見るに、先づ我工業諸會社の収益率は、大正九年頃に比較すると、今日では全くお話しにもならぬほどの減少であつて、實に五分の一以下にすらなつて居るものもある。就中化學工業、染織工業、機械工業に於て収益減少の傾向は大であり、之を更に業別に見る時は、例へば、毛斯倫業、セメント業、煉瓦製造業、一般機械工業、菓子製造業、氷業等はそれであ



る。現に表記して示すと左の如くである。

	大正九年上	大正十四年上	昭和二年下	大正九年上	大正十四年上	昭和二年下
染織工業	九・〇七	二・六六	一・六七	精鍊業	〇・二二	〇・四五
化學工業	四・六五	一・五九	一・二六	電氣業	一・四〇	一・三六
機械工業	五・四一	一・三二	一・〇五	瓦斯業	一・二一	一・二八
飲食物工業	一〇・七四	二・四一	一・七八	鐵道軌道業	一・三七	一・三五
雜工業	二・五四	一・五六	一・一一			

而して、右の如く、工業會社の収益率は大いに減少して居る以上、それに應じて、會社の數なども減少するのは、當然であるのに、収益率の減少せる割合からすると、會社の減少は、甚だ僅少であつて、事業によつて増加せるものもある。即ち、左表の如し。

	大正十一年	大正十四年	昭和二年	大正十一年	大正十四年	昭和二年
染織	一、八二七	一、六八九	一、六六三	雜	一、二五五	一、二七一
化學	一、九九一	一、七五四	一、七一八	鐵業電氣	一、八七七	一、八五九
機械	一、四二七	一、三一三	一、三一七	瓦斯軌道	一〇、〇六二	九、七八八
飲食物	一、六九五	一、九〇八	一、九九四	計		九、八三二

右の如く、會社數の減少は、總計に就て見ると、二・三%内外しか減少して居ない。化學工業の如く、不景氣の深刻を経たものでも、一・五割には達して居らないのである。

る。斯くの如く、収益が減少して居るのに、會社數にたいして、減少して居ない點から見ても我々は、我が企業界の未整理を思はざるを得ないのであるが更に、茲に不思議なことは、以上の如く、収益が減少して、工業會社の數が多少とも減少して居る際に、それらの會社の公稱資本が却つて、増加の傾向を示して居る點である。現に大正十一年に、百六十六億圓であつた公稱資本は、昭和四年には、百九十四億圓になり、即ち二十八億圓の増加を來して居るではないか。之は勿論合併などをして、會社の規模を大にせるためであるとして、善意に解することも、或程度迄は出来るけれどもそれは、併し、好景氣時代のことであつて、今日の様な不景氣の時代に、そんな見方は、餘り通用しない見方であると思ふ。是れ、蓋し不況に對する抵抗力を増すためならば、たとひ、合併しようとも、同時に、減資が行はれて、會社數と共に、公稱資金も減少して然る可きだ、と筆者は思ふからだ。然るに、夫れが却つて、さうでなくて公稱資金だけが增加して居ると云ふのは、どう見ても、未整理を意味するものと思はざるを得ぬのである。而も更に不思議な事は、拂込資本金の大して増加して居ない點だ。不景氣で、収益が減少し、整理が行はれたるものとすれば、そこに何うしても、未拂込を徴収すると云ふことが、起らねばならぬ筈で、従つて、拂込資本金は、相當程度まで、増加して然る可きであるのに、大正十一年から見ると、僅かに、夫れ



は二十二億圓しか増加して居らない。二十二億圓と云へば、幸うじて、一割ではないか。一割位の拂込徴収で、會社の整理が十分に出来たものとは、思へないのである。之れは思ふに内容不良の會社の株式は、大概その會社に直接關係の深い人々の手に集中して居つて、従つて、拂込を徴集することは自分で自分を苦しめることになるから、夫れを避けて居る爲に外ならぬのである。反之、内容優良の會社になるとその株式は、民衆化されて居つて、拂込の徴集も容易であるが今日の様な不況時代には、別に、拂込を徴集する必要がないので、夫れをしない。従つて結局拂込資本金は大して増加しない結果となるのである。

以上の如く、事業収益の減少率の大なる割合には、(一)會社數の減少率多く、(二)公稱資本も減少せず、(三)拂込資本も大して増加しないことから見て、筆者は我が工業會社の事業整理は、未だ半途にも達して居ないことを思はざるを得ぬものである。更に、今以上の計算をば大正五年頃と比較して見るも左の如くであつて

年	公稱		社債		年	公稱		社債	
	拂込	未拂込	拂込	未拂込		拂込	未拂込	拂込	未拂込
五年	三、八七〇	二、四四五	一、三六六	一、三六六	十二年	一、七〇七	一〇、八一	六、九〇三	二、二二三
六年	五、一六八	三、一四三	三、〇一五	五九一	十三年	一、七二八	一〇、四三二	六、八四四	二、六五五
七年	七、七三三	三、九三三	三、八一九	八三二	十四年	一、七六四	一〇、八〇一	六、九八二	三、九六五
八年	一〇、一六四	五、七六五	四、三九九	一、〇六六	昭和元年	一、八四八	一一、〇九〇	七、一六八	三、一七五
九年	一六、五五	八、五五二	七、八〇四	一、四四六	二年	一九、〇一〇	一一、七二九	七、二八三	三、五八五
十年	一七、五三三	九、三五二	八、一八一	一、七七七	三年	一九、九八八	一二、〇五七	七、三四三	四、一五七
十一年	一六、〇〇一	九、八七〇	六、三七二	一、七三三	四年	一九、四三三	一一、二二三	七、三三九	四、四九八

未拂込が少しも減少せず、社債金が徒に増加しつゝあることは、我が企業の整理が未捗の状態にあることの反證とするに足るではないか。

であるからして、以上の點から見ても、我が企業界が今以つて未整理の状態にあることは明かであつて、斯く未整理の状態を永く維持して居る原因は、實に三個の事實に存するのである。然らば、その三個の事實とは何かと云ふに、その一は、(一)我が國の金融業者が、高利貸的利益に引きずられて、整理資金の美名の下に、借金遣線の資金をば、ボロ企業に放出しつゝあることである。その二は、(二)我が財界に確固たる安定が與へられず、従つて、採算標準が一定しないことである。例へば、爲替の動搖による貨幣價値の變動とか、財界の過渡的動搖に基づく物價、株價、生産方法等の不安定等が夫れである。従つて、眞の企業整理は金融業者が遣線資金の供給路を遮断し、金解禁により財界の標準を確立し、財界全體をして健康回復に努力せしめた時から始まるものと考へられる。然るに、茲に特筆す可き我が企業界整理困難の第三の原因がある。それは即ち、(三)我が國の固定資本が普通の固定資本でな



いと云ふことである。換言すれば我が國の固定資本は、需要の減少から結果せる單なる過剰の外に、更に質の劣等さから來た廢物的の過剰が含まれて居ると云ふ事が即ち夫れであつて、之がそも／＼我が國に於て企業整理の非常に困難を極むる一大原因をなすのである。

然り、我が國の固定資本過剰なるものが、需給關係から來た處の過剰であればそれが整理も容易であるけれども、我が國の固定資本はボロクツの様なものであつて、半分死亡してゐる意味に於て過剰して居るのであるからして、それが整理は非常に困難を極めるのである。整理するよりもボロクツを排除するのであるからして、これが面倒なのである。尤もこれが實際のボロクツならば、除去するのに何等問題はないけれど、財界のボロクツを排除することは、一國の金融界に攪亂を來し、恐慌的の現象をすら來す危険があるからして、仲々それは簡単な事ではないのである。

現に大正九年以來の経過を見るも我が國ではボロクツの様な企業をば整理することの代りに、却つて種々の形でもつて、救済資金に似たものを放出して、その整理を將來へ延長して居るのを見るではないか、依つて以つて我が國の企業整理が如何に困難を極めるものなるかを窺知し得ると思ふ。而して、斯く企業整理の困

難を極める所の原因も、既に述べた様に、我が國の諸企業が過剰状態にあると云ふよりは、寧ろボツクツ状態にある企業をば排除することは經濟關係の複雑せる今日では、他にも及ぼす危険があるので、却つて種々の形で救済資金を出して、夫れを蔽ひ隠して居る爲めである。従つて、以上から見ても日本では企業の整理が行はれたのではなくて、臭いものに蓋をする様な譯で却つて整理物件を資金の力で蔽ひ隠して恰も整理が完了したかの如く装つて居るに過ぎないのだと云ふことが分らう。

而して、その救済資金は勿論政府も出して居るけれども、市中銀行も中々澤山に出して居るのであつて、それは主として二つの方法によりて出されて居るのである。その一つは、ボロ會社に固定貸出を有する銀行が、その固定貸出に對する愛惜からの貸借の形で行はれ、その第二は高利をむさぼらんとする市中銀行が預金原價が高くてやりきれない所からして、内容は多少よくなくとも、金利は高いからと云ふので、ボロ會社と知りつゝ融通して居る點にある。斯う云ふ様な譯で、政府のみならず市中銀行も、我が國ではボロ會社に救済資金を放出して居る爲めにボロ會社は整理された様な状態を呈して居る。若しくは別に整理の必要もないと云つた様にすら見えて居るのである。



處が事實は、その反對であつて、我が國には整理すら出來ないで、解散處分にしてしまはねばならぬ様なボロ會社が、山程あるのである。而もそれは中小の企業ではなくて、大規模の企業に多い。寔に中小の企業は潰してしまつてもその財界に及ぼす所の悪影響の程度が少いために、救済資金の水途がきかれて漸次淘汰されつつあるのである。が大企業の整理になると累を多方面に及ぼす爲めに淘汰することが差控へられて居るのである。それがために我が國の整理は行惱んでゐるのである。現に高利社債の發行が今尙續出して居ることが、以上の傾向を語るではないか。即ち我が國の社債は、左表に見るが如く、

社債現在高年平均利廻		社債現在高年平均利廻	
大正五年	五六一	大正十二年	二、二二二
同 六年	五九三	同 十三年	二、六二五
同 七年	八二三	同 十四年	二、九六五
同 八年	一、〇六六	同 十五年	三、一七六
同 九年	一、三四二	昭和二年	三、五八九
同 十年	一、七〇七	同 三年	四、一三六
同 十一年	一、九三五	同 四年	四、四七八
			五、九八

大正九年頃よりしてその現在高が、累年激増して居るのみならず、その利廻が今以て割高にあるのである。之は即ち、整理資金の美名の下にボロ企業隠蔽のため

の借金遣繰が大に行はれて居ることを證示するものである。電力企業の如きは、その一例ではないか。而して寧ろ筆者をして云はしむれば、夫れは資本固定の爲めと云はんよりは、死亡資本をば生存資本の如くに装つて居る爲だと云はんのみである。

然るに世人は、ともすれば物價さへ下落すればそれで企業界の整理が一順したかの如く考へる。けれども、私はさうは思はないのであつて、私の見る處からすると、企業の整理は物價の下落とは直接には何等の關係もない。寧ろ徒らに物價が下落すれば、今日の經濟組織の下に於ては、それ以上に一般人の收入が減少するからして、購買力の減退から更に財界の不況化を來し、整理の範圍を大にするもの考へる。然らば、企業の整理はどうすることによつて可能とするのであるかと云ふに、私は、夫れをば原價の低下に求める。換言すれば生産費の低下であつて、これを整理の目標であると思ふ。然らば如何にして生産費は引下げらる可きか。之がそも／＼の問題である。惟ふにその第一は、過剰生産財の利用であり、第二は企業の減資解散合併であり、その第三は經營能率の増進である。此の三つの事實が出揃はない限り、生産費の引下げは可能でない。



## 日本産業の合理化

吾々は以上に於て、日本産業の整理化を一考したが、次に、然らば日本産業の合理化の具體的形態如何と云ふに、夫れは即ち産業の工業中心化と世界經濟化と統制組織化とでなければならぬと思ふ。

先づ産業の工業化と云ふのは、産業が商業を中心としないで製造工業を中心とし、商業運輸業、動力業、金融業等が製造工業の統制下にその補助機能化されるに至ることであつて、従つて、その當然の結果産業は流通關係よりも固定資本關係を重大視するに至る。同時にまた、その當然の歸結として、産業の基調も市價經濟から原價經濟に進み競争經濟は獨占經濟に向ふに至るであらう。以上が産業の工業中心化である。

次に産業の世界經濟化とは何かと云ふに、夫れは産業の世界的單一化を意味するものであつて、製品の世界的單一化、生産費の世界的平準化、物價の世界的平準化、企業系統の世界的擴大化、勞銀の世界的均一化、世界市場の發生等の上に、その國の産業が立脚し得るに至ることに外ならない。

次に、然らば産業の組織化とは何であるかと云ふに、夫れはカルテル、シンジケート、トラスト等の發達に依る産業の系統化を意味するものである。従つて、未だ産業の組織化は産業の統制體化であるとも見られよう。

何れにしても、その國の産業が工業中心に世界化され、組織化されることこそ、産業の合理化であつて、日本の産業はこれからは斯うした方向に進まねばならぬからである。詰り日本では産業が上の如くに合理化されることが、産業の發達に必要なのである。然るに現在の日本産業界は手工業や、粗工業の集りであつて、組織化されても居なければ、世界化されても居らず、商人が産業を支配しつゝある。従つてまた日本の産業界は外國企業の壓迫を蒙り易い状態にある。

## 日本産業の對外的壓迫

寔に日本産業は、少しく高度化しようとする、外國企業の壓迫を蒙らざるを得ない状態にある。手工業だと引合はぬから歐米は手を付けないうで日本に委せて呉れるから、日本が斯うした産業に従事してゐる間は、歐洲の壓迫を蒙らないが日本が少しく産業の高度化に向つて進まうとすると、直ちに歐米の壓迫を蒙らざるを得ないことになる。現に生糸工業がさうであつて、生糸の製造だけをやつて居るうちはさうでもないが、進んで絹布や靴下等の製造をやらうとするに、直ちに米



國の壓迫を蒙るのを見るではないか。

今外國企業の壓迫の種類に就て見るに、之は輸出品と輸入品とに分けて一考す可きである。先づ輸入品に就て見るに、日本の如く工業程度が幼稚であつて、所謂舶來品なるものをば輸入して、内地人に販賣する營業の引合ふ國では、舶來品の製造元である外國企業が、例へばフォードやゼネラルモーターの如くで、日本に分工場を設置し、直接自からの手で製品を日本市場に配給するに至るであらうから、輸入業者や輸入品の販賣業者はその爲に大なる壓迫を蒙らざるを得ないことになるであらう。従つて輸入業者や輸入品販賣業者は將來斯かる傾向の大となるべきことを覺悟す可きである。

以上は、輸入品のうちの完製品に就て見たのであるが次に原料品に就て見るも將來は原料品を供給する外國企業が原料品を統制して、あはよくば原料品を日本の加工者に賣却する代りに、却つて自分の手で原料品に加工するに至るやも計り難いのである。例へば、米國が自國産の米棉を以て自國にて紡績策を經營せんとするが如きである。現在は斯かる傾向は少いが、世界經濟構成戦が盛んとなれば此の點も餘程要心してかゝる必要がある。

次に輸出品の方面に就て見るに、日本の輸出品が外國品の夫れと同質のもので

同一の市場を爭奪する戦が甚しくなると、已に大同マツチに於て吾々の經驗せる如く、外國は日本の該工業會社の株券をば買入れて、その重役權を收得し、それによつて日本品の市場性を壓迫するに至る場合がある。或はまた、日本がその工業に適して居ると見れば、外國人は日本に來てその工業を經營することに依つて日本人の經營をば壓迫せんとするかも知れない。

更にまた斯んな露骨でないにしても、輸出品が手工業品である場合には何時しか値段の點から競争して日本の企業を世界經濟市場から驅逐せんとするに至るであらう。殊にその手工業品が外國の高度工業に對する原料品たる場合に於てをやである。日本の生糸の場合がその好例である。即ち日本の生糸下繭の手工業で生産されて居る爲に繭の市價が安くなるほど左表に示すが如く生産高が増加して少しも生産制限が行はれない。爲に何時しか日本の生糸の市價は米國の絹布の市價の支配を受けることになつて壓迫を蒙らざるを得ざる結果になる。

以上を要するに世界經濟構成氣運が濃厚となるにつれて外國企業の壓迫は(一)外國企業の内地侵入(二)外國企業の原料統制(三)外國企業のカルテルトラスト金融資本力に依る市場爭奪(四)原價統制に依る大工業の手工業の壓迫等の形式を採つてます。激しくなり來り、而も斯かる傾向は世界的市價世界的原價世界的勞銀



世界的生活費等の如き「世界的單一化」の運動が大となるにつれて愈々強められるに至るであらう。而して夫れを解決し得るものは只「企業の高度化」と「企業の個性化」とによる「工業國家」の出現するのみである。従つて日本にして若しも工業國家たるを得ずば假令佛國式に工藝と技術とで國を立つるとしても現在の過剰入口には之を收容し得ずして却つて勞働力の腐敗から國家を混亂に導くことなきやも計り難いのである。

市價統制……………(一)

生産力の壓迫 企業統制……………(二)

外國企業壓迫

市場爭奪……………(三)

消費力の吸収 直系配給……………(四)

企業輸出……………(五)

従つて外國企業の壓迫には要言すれば夫れには日本の生産力を壓迫するものと日本の消費力を吸収せんとするものとの二種あつて今夫れを表記して示せば右の如くなるであらう。即ち外國人は世界經濟構成運動期に入るにつれて日本製品の市價を統制して其生産力の壓迫又は酷使せんとする(一)の場合。或はまた株式を買収して重役權を握ることによりて外國にありて而も日本の企業を統制壓

迫酷使せんとするのである(二)の場合。或はまた運賃率の引下を工夫して歐洲財界が支那市場を爭奪せんとするであらう(三)の場合。或はまた貿易商を通ぜずして直接自己の配給系統を日本輸出して自社の製品を日本に賣込み以て日本の消費力を吸収せんとするのであらう(四)の場合。又はフォードの如く製品でなく企業夫れ自體を日本に輸出して日本の低賃銀を利用し日本の購買力を利用したりするに至るであらう(五)の場合。これ等が外國企業の日本壓迫を見るべきものである。斯かる壓迫に抗する爲めには日本も大工業組織を採りトラストやカルテル等の企業結合組織も採らねばならぬが日本では資本主義が不備で夫れが急速に出來ないので入超は頑強ならざるを得ぬのである。以上の如き次第であるからして外國企業の壓迫に對抗する上から見ても日本の産業は合理化の必要に迫られて居るものと見ねばなるまい。

中小工業の運命

統計の示す處に依れば日本産業の八割迄が手工業であり日本製品の六割迄が手工業品なることが分るのである。従つて中小工業の名を以て呼ばれて居る處の手工業の運命は日本産業界の前途を卜する上から見ても興味ある問題たるを



失はないのである。然らば此の點如何。

今日日本の經濟界を見渡して見ると日本の經濟界の大半を占めて居る手工業に對立してポツ／＼と大工業が發達し始めて兩者の間に争ひが起されつゝある状態である。處が近代的の運輸設備や金融機關は是れ皆高度資本制度の産物に係り手工業などとは相容れないものであるものであるから、大工業はますます／＼運輸設備や金融機關の恩澤を蒙つて發達に便して居るが、中小工業の名を以て呼ばれて居る處の手工業はその反對に運輸設備にも金融機關にも見離されて日に日に壓迫を蒙りつゝある。而も此の傾向は日本の大工業が米國の大工業の壓迫を蒙つてそれに打勝つ爲に高級化するにつれてますます／＼濃厚とならざるを得ない。此の點から考へて見ても日本經濟界の大半を占めて居る手工業は日本の大工業と米國の大工業との二重の壓迫を蒙つて日に／＼衰弱せざるを得まいと思はれる。資本制度の發達が高度工業を目標として居ることに徴して見ても以上のことは争はれざることである。蓋し經濟能率を増進するのが資本制度の目的であつて夫れを可能ならしめる唯一の手段は高度工業中心の組織を構成するにあるからである。

現に米國などを見ても近頃はますます／＼手工業品は高度工業品に改められそれ

につれて商業組織は配給組織化され經濟界全體が經營經濟化されつゝあるのを見るではないか。然り手工業などは半分技藝じみたもので勞働の割に収益の少いものだから何と云つても存続の餘地は少いものと見ねばならぬ。資本制度が發達するにつれて益々然らざるを得ない。従つて日本でも今後は更に著しく中小商工業の行詰り傾向を示し來り失業問題も起るし消費力も減退して不景氣はモツと深刻になるものと考へざるを得ないのである。中小商工業の保護などと云つた處で結局は言葉許りのものに過ぎない。日本の中小工業は手工業に過ぎないものだから早晚一掃さる可き運命にある資本は少く規模は少でも高度工業ならば存続の餘地があるが日本の中小工業は決して小規模なる高度工業でなくして略手工業の大規模化したものに過ぎないのだから米國の高度工業の壓迫が甚だしくなり日本にも高度工業が發達するにつれて中小工業の存在は不可能とならざるを得ないと思はれる。

之を歴史的に見ても日本の經濟界は未だ産業革命の洗禮を受けて居ないではないか。日本人は馬鹿だから産業保護の名の下に手工業を保護して當然來らざるを得ぬ産業革命をば今日までチエツ／＼して居たのである。處が近頃では大工業が更に産業合理化運動を起して高度工業化せんとして來た爲に手工業の保護



は愈々行詰るに至つたのである。斯くて日本には産業革命と産業合理化とが一度に襲來せねばならなくなつた譯である。だからして資本制度改善時代の不氣をば日本は當然これから忍ばねばならないのである。

然らば産業革命とは何であり産業合理化とは何であるかと云ふに先づ産業革命とは手工業と封建制度とを一掃し大工業と資本制度とを招來する運動を意味する言葉であり、産業合理化とは工業を高度化し商業組織や運輸組織をば夫れに従屬せしめて經濟界をば生産力中心に組織化しようとする運動を意味するものに外ならない。従つて産業革命は資本制度を招來し産業合理化は資本制度を高度化せんとするものであると云へよう。然るに日々の經濟組織は今尙手工業的であつて金融系統や商業系統は決して從屬的地位にはない。寧ろ夫等は投機的に流れたり金貸的に走つたりして主的な地位を占めてゐる。そこで日本は金融系統の改善を計らんとして昭和二年のモラトリアムを惹起したやうな譯であるが筆者を以て見るに金融系統や商業系統の合理化は高度工業の發達につれて漸次なざる可きものと考へられる。然らば何故に世人は以上の點をハッキリと意識するに至らぬかと云ふに夫れは想ふに世人が日本に於ける中小工業の本質を充分に知らない爲めである。

### 中小工業の本質

そこで先づ中小商工業の本質から考へるに、そも／＼世人の誤解は中小商工業の本質の誤解から始まるのである。即ち世人は大工業と中小工業とを同一性質のものとなし大工業の小規模のものが中小工業であるとなす。が事實は決してさうではないのである。少くとも日本の中小工業は大工業の經營規模の小なるものでない。然らば日本の中小工業の本質如何と云ふに夫れは實に「手工業」にある。然らば手工業とは何であるかと云ふと夫れは商品の生産を人格的に *Professional* にやる處のものであつて原價的に機械的に *Business Basis* でやる處のものではないのである。現に手工業者は常に其製作する商品に自分の身も魂も打込むことと恰も藝術家的であることから見ても分らう。手工業品に藝術的香り高さことはその一證である。手工業が領主の保護の下に原價採算を度外視して行はれたるもその一證に値しよう。手工業の發達が趣味性の發達と關係深く手工業の發達につれて夫れが人格的となりビジネスから遠ざからんとする傾向を帯び來るのもその一證たるに値しよう。

手工業とは實に以上の如きものであるが近代的産業の發達に呼應して何時し



か手工業は量化せられ手工業の人格的な藝術的な實が否定せられてその労働的分子のみが残され遂に手工業は家内工業又は手内職と化するに至つたのである。而して斯かる家内工業の類を工場に移して集中化を計つたものが所謂日本の中小工業なのである。日本の中小工業から出る商品の性質が最も低級なる手工業品であつて機械製品でないのに依つて見ても夫れは分る。

そこで以上の如き日本の中小工業はどうしても二つの相反した方向を採らんとするのである。その二は手工業が手工的技術の進歩を計りて昔の如き純然たる人格的な手工業に向はんとすることである。而して日本でも恐らくこの二つの方向はますます著しくなるものと考へられる。即ち手工業が壓迫されるれば壓迫されるほど手工業は工場工業と藝術工業との兩方向に分化して行くものと考へられる。而してその工場工業への分化は大工業の發達を來す可く藝術工業への分化は結局工業性を否定して技藝性を發揮し來るであらう。従つて何れにしても手工業そのものは否定される結果となる。従つてまた現在の手工業は封建時代の遺物に過ぎないものである。従つてまた大工業の發達につれて原價中心の機械生産が手工業を一掃す可きことは火を見るよりも明かなことである。人口が過剰し手工労働の賃銀が安いと云ふので手工業が大工業に對抗して居るの

は時の問題であると思ふ。假令その對抗が繼續されるものとしてもそれは日本の手工業労働者が機械を相手として戦ふことになるのだから所謂勝目がなくその戦ひの過程は悲惨なものである。何とならば夫れは手工業労働者を機械と同一標準にまで引下げることになるのである。従つて手工業労働者が労働を値切つては人口過剰に乗じて手工労働中心の工業即ち手工業を繼續して行くことは甚だ人道的でないことになる。人道的でないのみならずそんなことをして居ると生活程度の低下購買力の減少のために財界を不振不況たらしめて行詰りを來すのみであるに相違ない。従つて日本は早晩手工業を基調とする中小工業をば大工業に化する時代を來さざるを得ないと思はれる。況んや金の解禁をして日本の財界と歐米の財界との間の風通しをよくし歐米の高級工業の壓迫を日本の手工業の上にもち來すに於てをやである。

人に依ると手工業が如何にもそれ自體の存在性をば資本主義經濟に於ても有するが如く考へてそれをば組合化して存続せしめ得るやうに主張するが夫れは大いなる間違ひであつて手工業は組合化することが困難である。夫れは恰も畫家の組合や小説家の組合と同一である「組合」などは大工業に於てのみ成立するもので手工業の組合などはギルド式以外には存在す可くもない。現在の金融組織や



配給組織も大工業にのみ適合するもので手工業には適合しないものだから組合化した處で駄目なことである。従つて手工業を基調とする日本の中小工業も英國に於て吾々の經驗したると同一の徑路を辿つて早晚衰亡せざるを得ないものと考へられる。この點に於て日本の財界が未だ産業革命を経て居らないと云はれる言葉も首肯されるのである。而も日本が金輸を禁止せる大正六年から今日までの間に於て歐米の大工業は高級化し日本の消費力は不當に増加したのであるからして此の點から見ても日本産業革命の必然性は考へられるのである。英國などでは周圍が未だ高級工業的でなかつたから其産業革命も漸進的であり得たのだが、日本では夫れが急激だから日本産業の大半を依然として中小工業が占めて居ると相俟つて日本での産業革命は相當激甚を呈すると考へられる。綜合化に依つて日本の中小工業をその大工業化から免れしめんと主張する人々は日本の國をば勞働國化してもよいと考へて居る人が英國産業革命の經驗を知らざる人かに外ならぬ。只今日まで日本に手工業が存在し得たるを以て手工業の存在性を主張する人々も出てくる譯であらうが、之は日本財界の基調が封建的であつて財界膨脹を常態としたことに原因するのであつて手工業自體の存在性からして然るのでないから駄目である。詰り日本には虚業の存在が今以つて許さ

れて居ると同一の意味に於て今以つて手工業が許されて居るだけの事なのである。現に見よ。その證據には日本の産業組織は實に不統一を呈して居るではないか。世人は日本産業組織不統一の原因をば小企業單位の多數に求めるが、之れは誤りであつて小企業單位が多數であることは必ずしも日本産業組織の不統一の原因ではないのである。日本産業組織の亂雜不統一の原因は明治初年以來封建制度の下にあつた從來の手工業をばそのまゝにして大工業に假飾して膨脹の力で夫れを不自由に組織化さうとしたからだと思ふ。更に極言すれば財界膨脹の力にて衰亡す可き手工業を存續せしめて而も大工業同様に夫れを組織化さうとしたからだと思ふ。例へば織物業に於て見ても日本では家族工業式になつて居るからして原價が明瞭でなく、従つて中間に幾多の仲商があつて夫等が搾取を逞しうするから財界が膨脹の傾向にある際には仲商の活躍にて有機組織體が成立し思惑も加味されて活潑に活動するのだが一度財界が收縮の傾向に轉ずるや市價は思惑の反動も手傳つて不當に下落し仲商の破産を來し以後は火の消えたやうに淋れて仕舞ふのを見るではないか。之は縦の組織化が財界膨脹の力のみに保たれて居る場合の例であるが、次に同業者間の組織即ち横斷的の組織を見ても同一であつて、即ち織物業の横斷的の組織は財界が膨脹傾向にあるときには



圓滑に進展するけれども一度財界が收縮に轉ぜんか惡競争は同志打と變じ市價をくづし、輕舉を誘發し、結局は共倒れの悲運を見ねば止まないのである。

以上は日本の財界で最も組織化されて居る織物業の場合であつてそれ以下の中小工業では更に以上の傾向は激しいものである。だからして日本の財界は不況に對する對抗力が極めて小さくて財界が膨脹しないときには萎縮するのみで少しく財界が收縮化すれば直ちに恐慌が出現するのである。明治十七年明治三十四年、昭和二年のモラトリアムの如きはみなその好例である。

日本の企業界は以上の如き膨脹中心の組織體であつて生産能率の立體的發展が行はれないから若し日本が金解禁に依つて財界收縮の時代に入らんか、財界の不振は甚だしくなり遂には産業革命の一前提としてのバニックが出現するかも知り難いのである。このことは英國に於て見る如く手工業から大工業への推移が漸進的に行はれ得ないこと、竝に手工業の分量が中小工業の大半を占めて居ること、金輸禁止で蓄積された歐米工業の壓迫が解禁後は一時に襲來するであらうこと等から推して見ても分ると思ふ。況んや日本人口の大半を占むる中小工業が壓迫されてその購買力が減退するに於てをやである。然り中小商工業の購買力が減退するならば、斯かる購買力の上に立脚する日本の大工業も不振になるか

らして大工業にも不況の波は及んで財界は非常なことになるやも知れぬのである。而も大正六年から今日までの金輸禁止期を通じて米國の生産力は非常な増進であるのに日本では反對に消費力のみ不當に膨脹して居ることを考へ合すと以上の推測もます／＼馬鹿にはならなくなるであらう。況んや日本の産業界には極めて惡質の生産過剰現象あるに於てをやである。世人は生産過剰と云ふとどの國の生産過剰も皆な同一性質のものゝ如くに考へたがるが夫れは大きな間違であつて日本の生産過剰には極めて特異な傾向があるのであつてそれを看過して日本の産業を論ずることは出來ないからして以下少しくその點に就て一考せんと欲するのである。

### 日本産業の生産過剰

今日は生産過剰の時代であつて日本ばかりでなく、世界各國が生産過剰に悩んで居るのである。然らばさうした生産過剰の現象は、何故に起つて來たのだらうか。

夫れに就ては説をなすものが多い。或る者は夫れを我利々々な資本家達の生産制限に依る價格釣上げに歸因せしめる。或る者は夫れを工業資本主義の急速

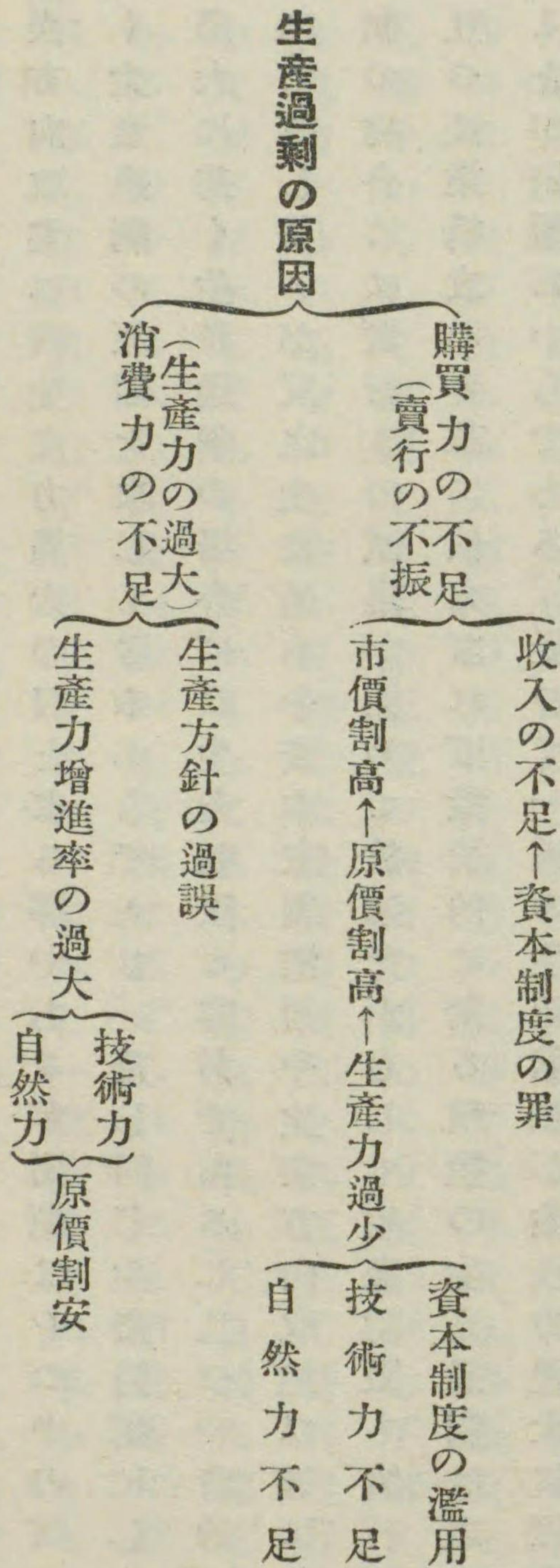


なる發展に依る生産能力の過渡的過大に歸因せしめる。或る者はまた資本主義的搾取不勞所得激増資本集中化等の如き、資本主義制度に特有なる悪作用の結果としての一般民衆の収入過少化に歸因せしめる。更に或る者は資本主義的生産は一見指導されつゝあるが如きも、その實夫れは極めて無政府的であつて人類の消費心理に一致しない生産方針を採れる爲めであると説明する。

成る程右の諸説は一々首肯に價する點を有するけれども、然しどうも全面的でないやうな氣がする。そこで私は全面的に生産過剰の原因を考へて見たいと思ふ。然らば生産過剰に關する全面的な根本的な原因は何であるか。

思ふに夫れは第一次的には生産力の過不足に原因するものであり、第二次的には資本制度の如何に原因するものである。蓋し生産力が過大であつて消費し切れないほどに豊富に廉價に生産されれば、勢ひ生産過剰とならざるを得ないと同時にまた生産力は過少であつて、従つて原價が高く従つてまた市價が割高であれば勢ひ生産品は賣れ残つて生産過剰とならざるを得ないからである。更にまた資本制度の濫用が甚だしく不勞所得は激増し國富は不純となり、富の金額的數量は多くても其生産活動は鈍つて來るならば、企業の不振から一般民衆の収入が減退するのみで、生産制限をやればやる程生産の賣行きは減退して生産過剰となるからである。

従つて生産過剰の根因には賣行きの減少から來るものと、消費力が満腹して増加し得ぬことから來るものとの二種類があり、更に第一の賣行きの減少には収入の過少と値段の割高との二原因があり、また第二の消費力の不足には生産方針の間違ひと、生産力の進み過ぎとの二原因ありと見ることが出来る。従つて以上を更によく分るやうに表記すれば、左の如くなるであらう。



上述の如く、生産過剰の原因には(一)資本制度の不備に依る収入不足で購買力の不足せる場合と(二)生産力過小で原價割高となり、生産制限で市價を釣上げるので益々値段が高くなつて、購買力が不足して來る場合と(三)それからして生産力が消



費高よりも進み過ぎた爲めに生産力の過大を來せる場合と(四)更にまた生産力發揮の方向を誤てる爲めに生産力が過大となれる場合との都合四つがあるのだからして之を更に簡言するならば生産過剰の原因は(一)資本主義濫用(二)生産力過小(三)生産方向取違ひ(四)生産力過大の四となる譯であるが問題はその中の何れがより多く生産過剰の原因をなして居るからである。蓋し同じ生産過剰にしても生産力過大に基く生産過剰の場合には生産制限も容易であるし、且つ一時的のもので極めて御し易いが反之生産過小や資本主義濫用や生産方向取違ひ等に基く生産過剰の場合には、賣行きの減退が極めて敏速だからして、生産制限も實行困難であり且つ産業構成の變革に依らざれば徹底的に斯る種類の生産過剰は、之を醫治することが困難だからである。従つて一國の生産過剰が生産力過大に原因するものか、生産力過小に原因するものか、資本主義濫用に原因するものか、生産方向の取違ひに原因するものかを充分によく吟味して、かゝることがその國の生産過剰を論議するに當つては極めて必要なのである。然らばこの點に就て日本はどうであるか。と云ふに不幸にして日本の生産過剰は生産力の過大に原因せずして、寧ろ資本主義の濫用や生産方向の取違ひや生産力過小やに原因するだけに日本の生産過剰の品質は劣等なのである。だからして現に日本では同じ生産制限でも

も企業結合でも何となく不自然であり不安定であるのである。

一體日本人は概して生産制限と云ふと不自然のやうに考へたがるが、之は日本の生産制限が不自然だからのことだ。然らば何故に日本の生産制限が特に不自然なのかと云ふと、蓋し日本の生産制限は(一)生産財が質的に向上し(二)生産組織も系統立化し(三)技術の進歩見る可きものあり(四)生産費も低下して所謂良品廉賣が徹底し(五)加之月賦販賣を以てして(六)消費者をば完全に飽和状態に導いた爲めに生じた處の所謂生産力過大に伴ふ處の自然の經濟原則的なる生産制限ではなくして、却つてその反對に株式制度の濫用や、技術の劣等や、固定資本の悪質や生産組織の亂雜やからして原因する生産原價の割高の爲めに、市價が少し下落すると忽ち生産原價を喰ひ込むのを防ぐ目的で、消費者の要求を無視して營利主義的に行れる生産制限だからである。だからして日本の生産制限は不自然に感ぜられるのである。従つて日本の生産制限が不自然に感ぜられるのは、消費者に充分の満足を與へる迄に市價の引下げを來さないで、却つて一般消費者の手のとゞかないやうな割高なる市價平準にまで生産制限で市價を釣上げんとするからである。それと云ふのも日本の産業の生産力が不足して生産原價が割高なる爲めである。若しも日本の産業の生産力が充實し、従つてその生産原價が低位にあるものなら



ば、生産制限點もさう早くは來ず來るにしても、一般消費者に消費的満足を充分に與へた上でそれ以下に生産豊富で市價が低下せんとする時に初めて生産制限はやつて來るのであらう。米國などの生産制限には斯うした傾向が大である。だからして米國の生産制限には、何となく自然的な感じがするのである。その反對に日本の生産過剰は生産力過小から原因せる處の生産過剰であつて、原價割高からして消費者の満足點にも達しない間からして、生産制限で市價の釣上げをやるものだからして日本の生産制限には不自然な觀が伴ふのである。

以上は生産過剰の性質の差異からして生産制限の内容の差異を生ずる點を説いたものだが、更に斯ることは生産制限のみならず企業結合に就ても云へるのであつて、即ち同じ企業結合にしても夫れが、生産力過大に基く生産過剰の救済策としてのものならば、極めて自然的であり、その結果も平靜なものであるが、日本のやうに企業結合が、生産力過小に基く生産過剰の救済策として行けたる場合には、どうも不自然不安定を極めざるを得ないのであり、結局は企業結合も生産過剰の救済策たり得ない場合が多いのである。然り生産力過大に基く生産過剰ならば生産制限や企業結合に依つて救済することが困難でないけれども、生産力過小に基く生産過剰は之を生産制限や企業結合やで手軽に救済することが困難である。

斯る生産力過小や資本主義濫用や株式制度悪用や生産方向惡導やに基く處の惡質なる生産過剰の救済策としては實に産業變革の一途あるのみである。

とするならばどうであるか。さうした惡質なる生産過剰に惱める日本の産業界のその整理その合理化は、前途に多大の嵐を含むものと考へざるを得ないではないか。従つてまた日本の財界も産業界の變革運動に禍されて、更に不振不況の幾年間を経ねばならぬのであらう。

然るに世間には往々にして文字に囚れて同じく生産過剰だから日本の生産過剰も米國の生産過剰もその内容同一のものなりとなし、従つてまた米國で生産制限や企業結合が有効であれば、日本でもまた同じく有効であると考へんとする。誤れるも甚だしい。依つて茲に一言する次第である。

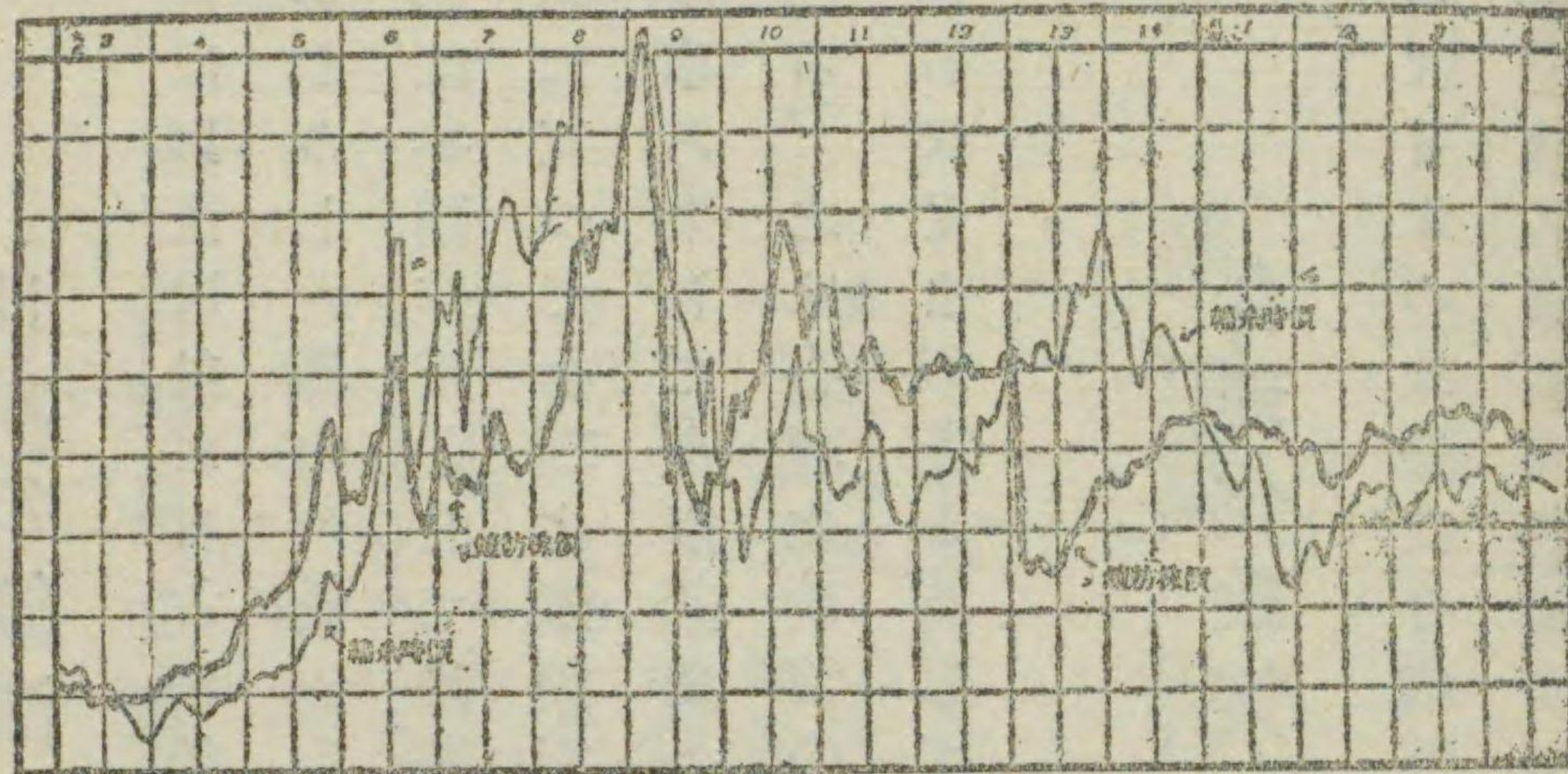
### 市價に支配さるゝ我産業

日本の事業會社の一特色として、吾々の一考を要するは、それが粗工業の部類に屬する爲めに従つてその株價が商品市價に支配せられつゝあることである。現に左表に依つて見ても夫れは窺知されるだらう。即ち石油相場は日石株價を指導し、硫酸相場は肥料株價を指導し、砂糖相場は製糖株價を指導し、綿糸相場は鐘紡株

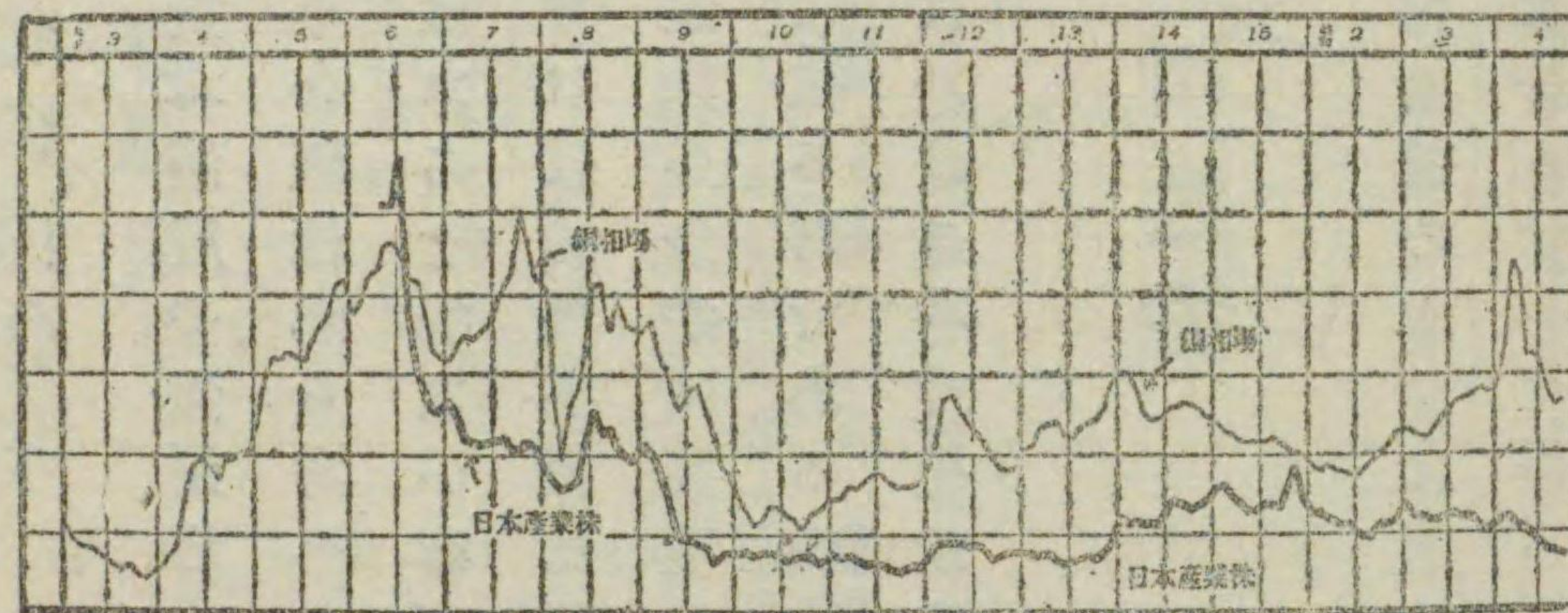


ではないか。斯くの如く原料相場に依つて工業會社の株價が支配さるゝ點から

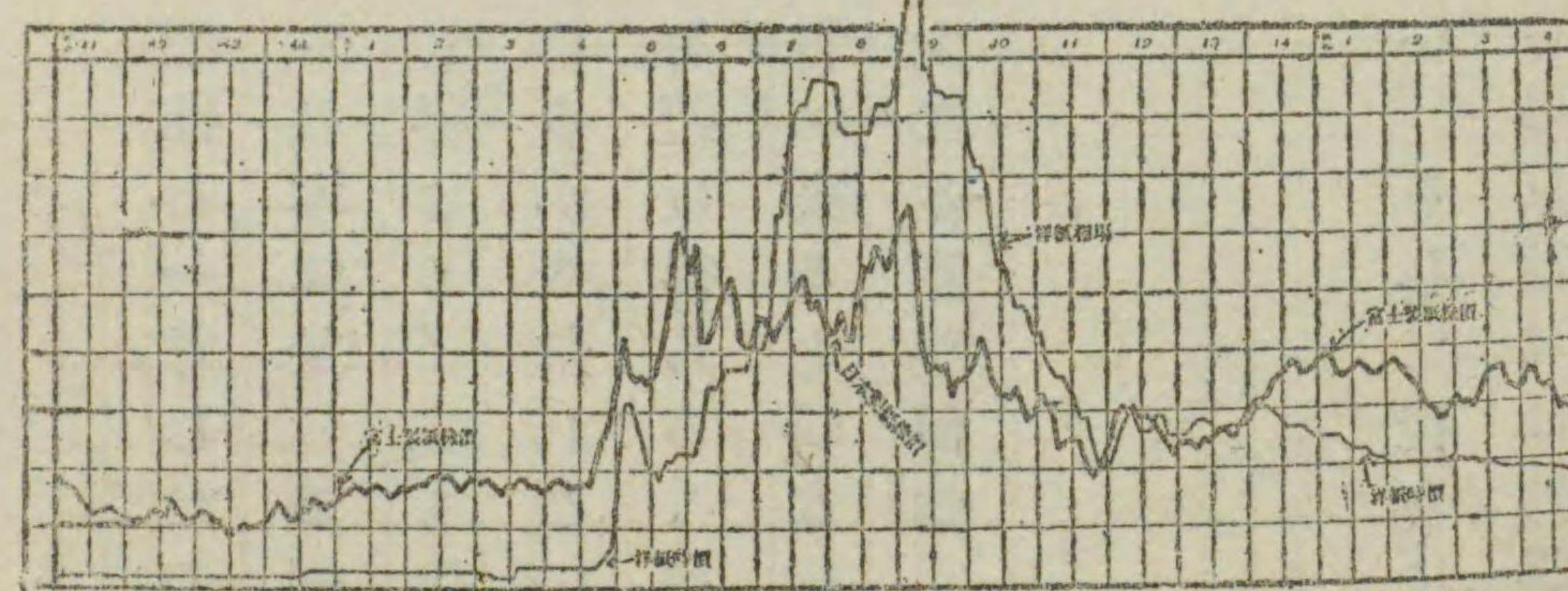
紡績株價と綿糸市價との關係



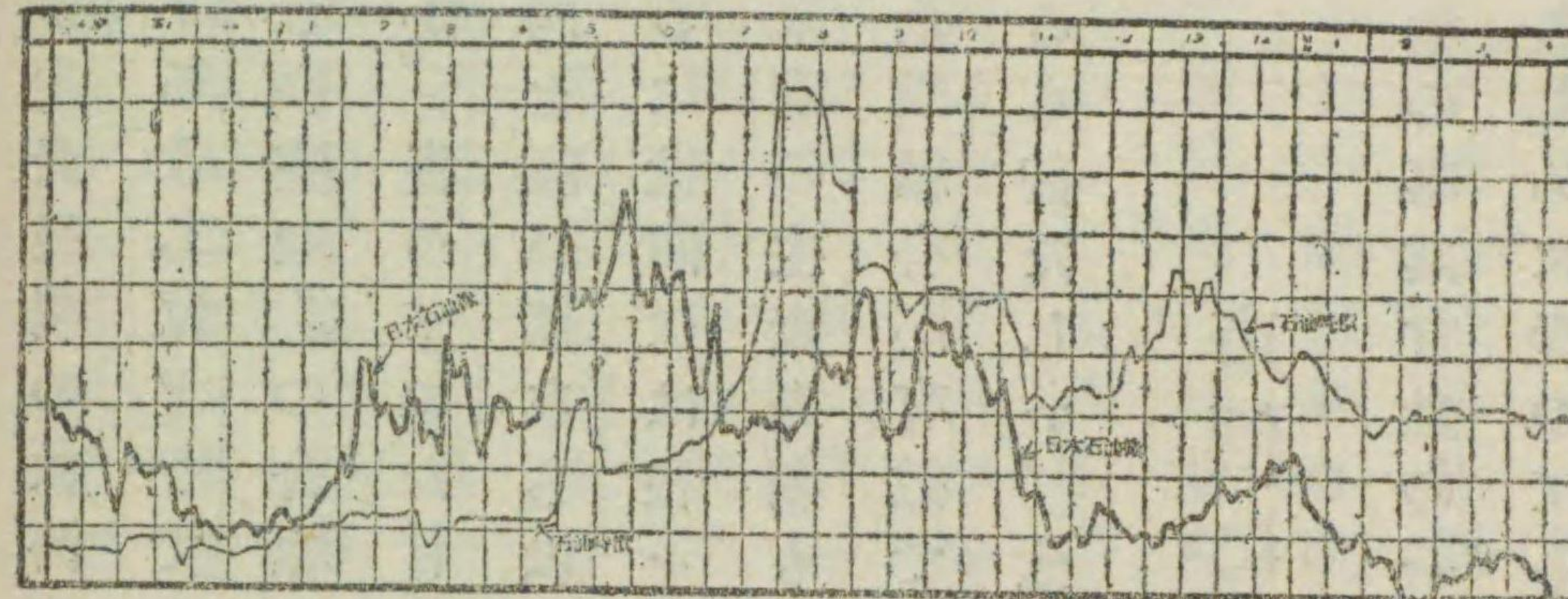
日本産業株と銅相場との關係



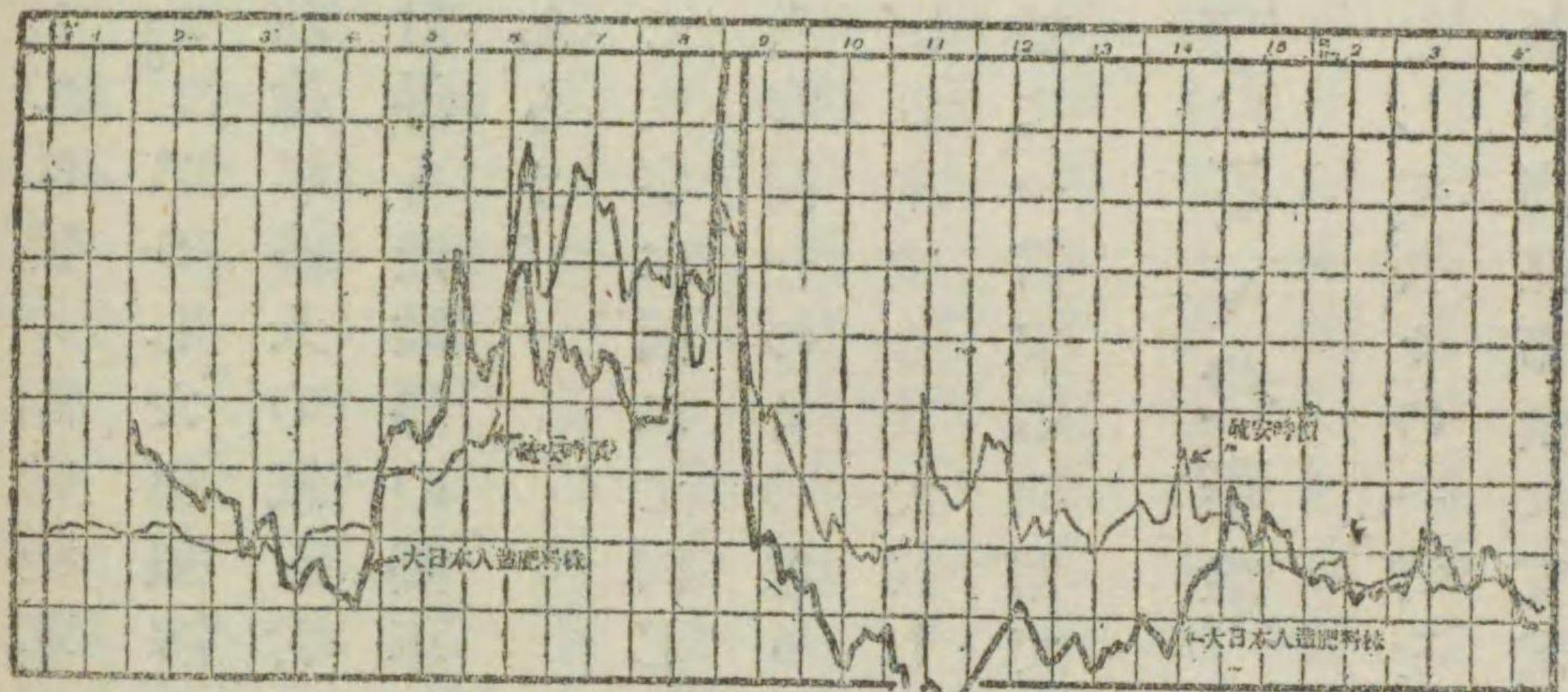
製紙株と紙時價との關係



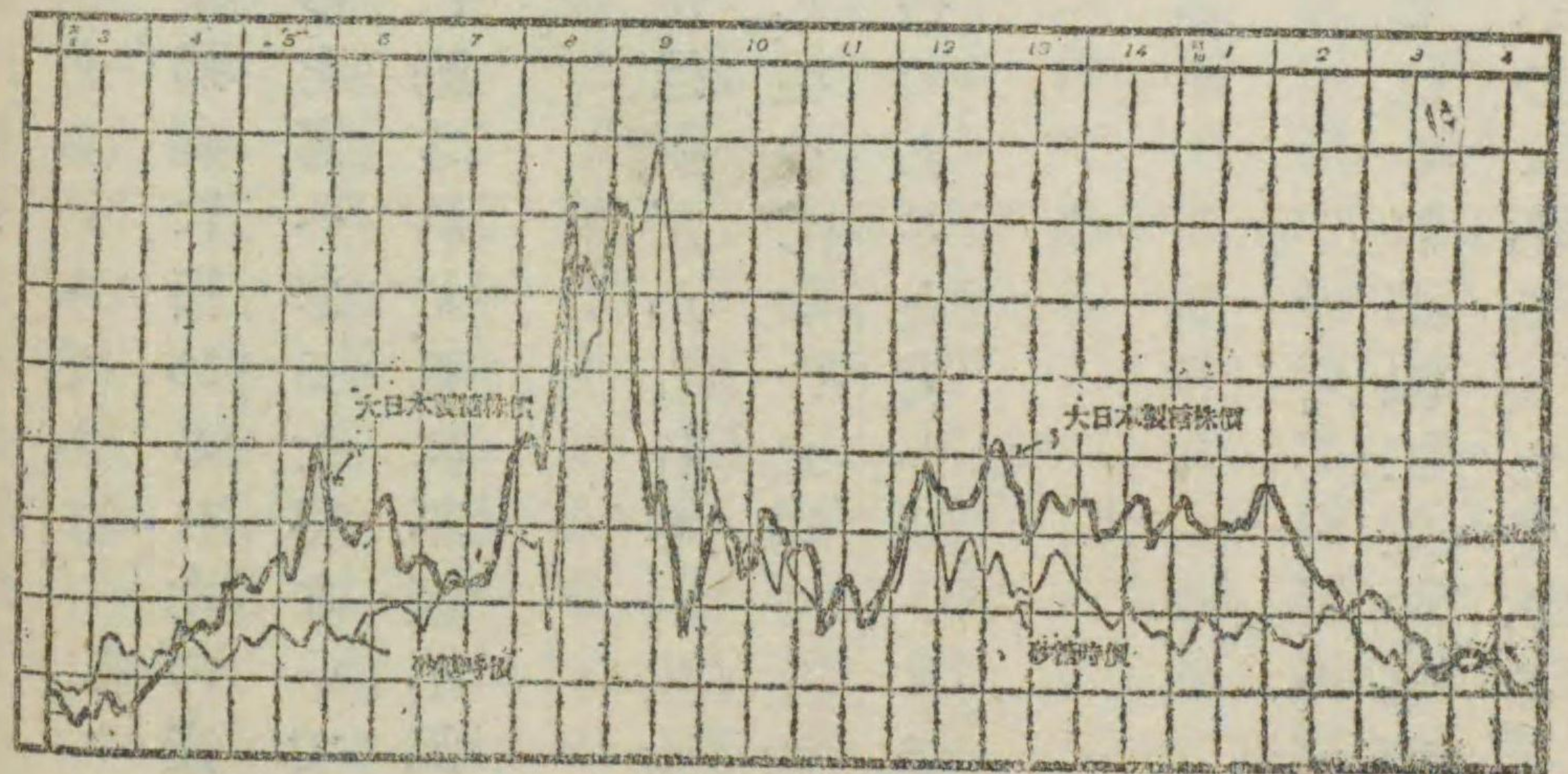
日本石油株と石油時價との關係



肥料株と肥料時價との關係



砂糖株と砂糖相場との關係



價を指導し、銅相場は日本産業株價を指導し、紙相場は製紙株價を支配せるを見る



見ても日本の工業の如何に粗工業的なるか分るであらう。

### 日本の經濟合理化の副作用

吾々は以上に於て日本に於ける資本制度や産業界の不合理性を一考したのであるがかうした澤山の矯正し難き不合理性から考へて見ても日本に於ける經濟合理化は其副作用として恐慌を伴はざるを得ない事が窺知し得よう。尤も極めて長期に亘つて合理化運動が進展すれば或は恐慌は避けられるかも知れないが問題は寧ろ果して金解禁後合理化運動が急速に出現する事を避け得らるゝや否やである。之は合理化政策の如何に依る處であるからして、豫め知るを得ないが然し何れにせよ以上かうして日本に於ける合理化政策の重大なる意義が知られよう。

### 合理化政策の根本

然るに日本の政府は今猶ほ合理化政策の本意に眼醒めない。そして徒らに合理化を急速に強要すればよいやうに許り考へて居る。而もその反面には財界に恐慌の來ることを無暗に恐れて居る。凡そこんな矛盾した話があるだらうか。蓋し夫れと云ふのも世人が合理化の意義に眼醒めないからのことである。従つて私は次に合理化の意義に就て一考することにする。

## 第一章 合理化の意義

合理化の意義不徹底なり——合理化論の歴史——科學化と統  
 制化の關係——合理化の本質——合目的化の意義——合理化  
 の二方面——厚生の合理化と營利的合理化——手段的合理化  
 の内容——合理化の種類——資本主義と合理化——合理化の  
 定義——産業合理化の内容——資本主義の肯定的合理化——  
 資本主義の世界化——資本主義の管理化——資本主義の本質  
 ——目的經濟と手段經濟——結論

### 合理化の意義不徹底なり

金解禁と合理化とは、密接なる關係にあることは、誰人でも知つて居るが、然らば合理化とは何か、と問はれると、殆んど大概の人々が夫に答へ得ないのである。従



て、日本經濟の合理化を論究するに當つても、吾々は、先づ合理化の意義に就て一考する處がなくてはならぬのである。

然らば、合理化の意義如何と云ふに、夫に關しては、世論まち／＼にして、歸着する處を知らない有様である。文獻の上から之を見ても、同様であつて、合理化の仕方に就て、技術的に説明した書物はあるが、更に進んで、合理化の意義を明瞭にせる書物に至つては殆んど存在しないと云つても良い程である。辛うじて Urwich の *The Meaning of Rationalisation* & Frieda Wunderlich の *Produktivität* & Jenkinson の *Some Aspects of Rationalization* & Friedrich von Gattl-Othilienfeld の *Der Wirtschaftliche Charakter* & Herbert Schack の *Wirtschaftsformen* やが、學問的に合理化の意義に説き及んで居るやうであるがそれとても決して明確なりとは云へないのである。従つて合理化の意義を考へることだけでも、可成りの難事業だと云へるのである。

にも不拘、世人は目下盛んに合理化を叫び、合理化さへすれば、明日にも財界は浮び上るか、の如くにのみ考へたがる。と云ふのも、蓋し、世人一般が科學萬能の思想に囚れて居つて、科學化と云ふ意味にて、合理化を解し、依て以て、合理化をば、神祕化すからのことである。現に、世人はともすれば科學的なる企業經營とか、科學的なる財界對策とか云ふやうな意味で、合理化なる言葉を使用せんとするのを、吾々は

見受けるではないか。さればこそ、合理化なるものが、コロンブスのアメリカ發見のやうにも神祕化されて、行詰つた日本の財界の救世主の如くに思れるのである。處が、實際の合理化は、決して、財界の奇蹟的な救世主見たやうなものではないのである。相當の犠牲と、多大の打撃とを、財界に與へたる上でなくては、合理化は、財界を立直りに導き得ないものなのである。現に、見よ。企業の合理化をやると、失業者が續出したり、財界の合理化を實行すれば、大資本家が倒産したりするのを見ても、以上のことは分るではないか。だからして、吾々は、合理化をば、神祕化して考へる前に、先づ以て、合理化の本態をば、ハッキリと、突止めておくの必要がある譯である。

### 合理化論の歴史

そこで、先づ、合理化の意義を明かにする第一歩として、合理化なる主張の歴史的經過と云つたやうなものを一考することにしよう。

そも、／＼、合理化と云ふ言葉は、ラテン語の *Ratio* と云ふ語から出て居るものであつて、その意味する處は、甚だ廣汎に互つて居るが、夫が科學的管理法からして發達し來つたものであることは、争れぬ處である。が、更に、モツと歴史的發達の根源を



探すと、此の合理化なる運動は、先づ、戦後の獨逸に起つたものなのである。即ち、戦後の獨逸に於ては、マールクの安定と共に、企業を組織化し、合同を促進し、その統制力を強め、需給の均衡に妨害を與へるやうなやくざな企業を淘汰するの必要が起つたのであつて、當時、獨逸では、斯る運動に對して、合理化なる名稱をば與へたものであつた。が、ほどなく、斯る合理化の意義の不完全なることが感ぜられ始めたのであつて、その結果として、遂に、合理化は、生産組織の技術的組織的改善に依つて、大量生産に基く處の良品廉價の實を納め、依て以て、人類生活の向上に資せんとするこゝとである、と改定されるに至つたのである。が、斯る合理化運動は、早くも、米國に波及して、こゝで、テイラーなどの科學的管理法となるに至り、この科學的管理法が中心となつて、合理化運動は、世界化するに至つたのである。斯くて、遂に、一九二七年のゼノアに於ける合理化協定會議を生むに至つたのである。尤も、この會議の基調は、各國が協力協調して、戦後經濟の不均衡を一掃し、經濟の立直しを促進せんとするにあつたからして、各國の繁盛政策の一として、合理化が考へられ、論究されるに至つたのは、當然なことであるが、結局、さうした會議の結果として、(一)世界の經濟生活の合理的統制の可能と、(二)科學的方法の採用に依る生産分配上の無駄損失の排除の可能とが、確信せられるに至つたことは、事實であつて、從て、ゼノア會議に依つて確定されし合理化に關する定義としては、左記の如きものを擧げ得るであらう。

「合理化とは、勞力と物資との無駄を排除せんが爲めに考案されたる處の技術と組織との方法の實行を意味するものであつて、更に、夫を、内容に互つて説明すれば、勞力の科學的組織化、原料並に生産物の標準化、生産並配給過程の單純化、運輸並に販賣上の改善、企業の合同整理、産業のスケールの擴大等である」と。

而して、右合理化觀の基調をば、更に、要諦するならば、夫は、即ち、經濟技術と經濟スケールと經濟思想との變化を意味するものである、と云へよう。現に、科學的方法の提唱は、經濟技術の變化を意味するものではないか。また、經濟均衡を世界的ならしめる爲めに、産業の世界的協調を計らんとするは、經濟スケールの變化に當るものではないか。更に、また、個人の利益でなしに、全體の利益の爲めに、經濟生活の統制をなさんとすることは、經濟思想の變化を意味するものではないか。從て、ゼノア會議が、吾々に齎らせし處の合理化觀としては、科學的方法の採用による經濟生活の合理的統制が擧げられる譯である。而して、その科學的方法と云ふ言葉は、因襲と手觸とを中心とする仕方に代るに、科學的研究に基く合法的の仕方を採用せんとする態度を指すものと知る可きのみである。而も、この如き科學的方法



の採用こそは、合理化の根本基調をなすものなのである。と云ふよりも、因襲を破り、新しい方法を採用せんとする心掛け (Mental attitude)こそ、合理化の根基をなすものである。従つて、Herbert Schack が、合理化を定義して「手の工業を機械の工業に變へ不斷目的を達する方法を研究し、傳統を打破し、飽く迄も、明日の爲めに、今日を犠牲にする處の極めて進歩的な態度なり」としたことは、意義のあることである。斯う考へて來れば、世人が、合理化をば、科學化と同一視することにも、同感出來るのである。

乍然、合理化が實行され、大量生産の車が動き出すにつれて、夫をば、消費する爲めの需要の存在が問題となり來らざるを得ないのである。この爲めに、合理化は、或は、社會化と接近したり、國際化と接近したりせざるを得なくなるのである。現に現在の米國に於ては、購買力の不足の爲めに、合理化は、社會化の傾向に一轉せんとしつゝある一方には、現在の歐洲にあつては、大戰後、小國に分立して、一國の需要高は非常に限定せられ、他國の需要を俟たなくては、大量生産を行ひ難い實情にある爲めに、國際的な産業の集中が必要とされつゝあるではないか、茲に於てか、合理化は、社會化や國際化の要求に順應する必要上「統制化」と云ふことをば、その基調の一とせざるを得ざるに至りつゝあるのである。斯くて、合理化は、(一)科學化と、(二)統制

化と云ふ二大基調の上に立つものなり、と見らるゝに至つたのであつて、此の點は、吾等の興味ある點たるを失はないであらう。

が、兎に角、先づ、合理化なるものは、その發達の初期に於ては、テトラ、ガント、ギルプレス等が研究した通り、専ら、科學化を中心に、生産の技術的問題をば取扱つたのであるが、今では、漸次、その範圍を擴大し來り、生産原價の問題から、經濟組織の問題、さては、失業問題から、豫算統制、景氣豫測、金融指導に至るまで、苟も、財界統制の關する限り、合理化は、それに隨伴せざるなきに至りつゝある。従て、合理化は、技術家の問題に始つて、統制者の問題に至りつゝあり、と見ることが出來る譯である。他言すれば、合理化は、科學化から始つて、統制化に進みつゝあり。

と云へるであらう。而して、斯る合理化の歴史は、一寸考へると、何でもないやうであるが、更に、よく考へて見るならば、合理化の意義の理解の上に於て、極めて興味ある傾向たるを失はないのである。蓋し、以上の如き合理化の歴史は、明かに合理化の仕方に、(一)科學化と、(二)統制化との二種類あることを語るからである。

然らば、合理化の仕方に、(一)科學化と、(二)統制化との二種類ありとすれば、合理化の意義も自づからに二種類にならねばならぬのであらうか。問題は實に之である。然らばこの點如何。



## 科學化と統制化の關係

夫に就ては三説ある。一は通俗説であつて即ち合理化には統制化を方法とする處の經濟的合理化と科學化を方法とする處の技術的合理化とがあつて二者は各々合理化の意義種類を異にするものと見るものである。從てこの説に依れば科學化的合理化と統制化的合理化との間には何等の關係交渉も何等の共通意義も存在しないことにならざるを得ない。反之、第二の説に從へば合理化の意義は一種しかないものであり、從て合理化の方法なり種類なりにも只一つのものしか認められないと云ふ。從てこの説に從へば合理化の仕方も種類も意義も只一つであつて夫は統制化であるか科學化であるか然らずんば是等を超越せる他の何等かのものであるかでなければならなくなるのである。が普通此の説を採るものは先づ科學化を以て合理化の根本なりと見んとする。即ち曰く眞の合理化は技術上の合理化を意味するものであつてテロイズムの様に無駄の排除と能率の増進とに關する科學的方法を發見し實行する處にこそ合理化なる言葉の近代的なる意味もあるものである。然るに第三の説は合理化の意義は只一つであるが合理化の仕方には合理化の行はるゝ對象に應じて二種類も三種類も四種類もあり

得るものであるとするものであつて、此の説に從へば合理化の意義は合目的化に外ならず、一定の目的を達する爲めに最も適當なる手段を發見し方法を發明し組織を構成せんとすることに外ならず、科學化と云ふも統制化と云ふもその合目的化の二つの仕方に外ならないことになるのである。從つて科學化と統制化とは共に合目的化の仕方と云ふ點で共通して居る譯であつて合理化の根本は合目的化に外ならないことになるのである。

然らば以上三説中何れの説が正しいのであらうか。

## 合理化の本質

私は勿論第三説を採る。そして合理化の本質をば合目的化に求め合目的化の對象や目的内容の相違やに依つて合理化の仕方には種々の種類を來すものと見る。從つてまた合理化の仕方には何種類もあるが合理化の意義は只一つであると考へる。少くとも合理化の本質は合理化の仕方にはなくて合目的化そのことにあると見んとするもので私はある。

然るに人に依ると合理化とは已に一個の「仕方」なんだからして合理化の本質は合理化の仕方に求められねばならぬと云ふ。而も世間には斯うした考への人々



が大分にあるやうである。乍然私見を以てすれば斯る考へは條件を本質と混同せるものだから不可だと思ふ。蓋し合理化は合目的化の手段方法に重きを置くからとて合理化論が直ちに仕方論であるとするものは仕方と云ふ合理化の條件を以て手段方法に重きを置くと云ふ合理化の本質を無視せんとせるものだからだ。従つて私は合理化の本質は飽くまでも合目的化でありその仕方には種々ありと見ざるを得ないものである。然らば合理化の本質をなす處の合目的化の意義や如何。

### 合目的化の意義

合目的化の意義に關しては學者種々の説をなすも夫を最も直截に明言せるはヘルバルト・シャツクではないかと思ふ。即ち同教授はその著「經濟形相」の第十二章「經濟の合理化」(二五三—一六〇)中で「經濟的合理化は經濟的理性主義の實行を意味するものであつて夫は即ち經濟目的を達する爲めの手段方法の研究を通じて一度びその目的を達すればその達したる所を手段として更に大なる目的に達する方法を考へて止まない處の極めて男性的な進取的な自由的な態度である」と云つて居るのであつて従つて今斯るシャツクの説を更に分析して説明すると夫

は二方面に分れるであらう。(一)は目的を達すれば更にその達せられたる目的を手段として更に大なる目的を達せんとして Von Ziel zu Ziel (目的から目的へ)と目的の系列を上向して止まざる點であり(二)はそれからそれへと新らしい方法を研究し實行することに興味を中心を置き結果の享樂を問題とせず従てまた直ちに結果に走らないで手段方法に全力を集中して迂回的に進行し困難に遭遇すれば遭遇するほど手段方法の改善發達を以て夫を突破せんとする點である。従つてシャツクが合理化を評して進歩主義と樂天主義と自由主義との實行であると云つたのも無理がないのである。従つてまた合理化の根本も「目的の向上」と「手段の更新」と「手段の目的化」(結果よりも結果に達する道中に興味を感ずること)を通じて進歩して斷まざる合目的化の態度に外ならないと云へるであらう。

### 合理化の二方面

以上述べた様に合理化の根本は要之(一)目的化と(二)手段化との二點に歸着するからして従つて合理化にもその目的化の方面と手段化の方面との二方面が考へられる譯である。然らば合理化の目的化的方面は如何。また合理化の手段的方面は如何。



先づ合理化の目的化的方面に就て見るに夫は、目的系列を下から上へと向上して行くことを意味するものであつて例へば自己の利益を中心とする態度をば社會の利益を中心とする態度に少しづつでも近附くが如き場合に當るものである。所謂合理化の目標が營利性から厚生性へと變化すると云ふが如きも合理化の目的化的方面を意味するに外ならない。然し同時にまた目的性の點からして合理化の仕方に營利性中心の合理化の仕方と厚生性中心の合理化の仕方との二種類が考へられることも事實である。

次に合理化の手段化的方面に就て見るに夫は合目的化の手段をばまず／＼改善し更新して行かんことを意味するものであつてそれには對象物の相違に依つて種々の種類を生ずる。が今夫をば極く大ざつばに括めて見ると個別經濟の場合と綜合經濟の場合となる。而して前者個別經濟の場合の手段化的合理化は所謂「過程」中心のものであつて所謂「過程」の機械化に終始するのであるが反之後者綜合經濟の場合の手段化的合理化は所謂「組織」中心のものであつて所謂「組織」の統制化に終始するのである。

従つて以上を要するに合理化には目的化的合理化の一面と手段化的合理化の一面との都合二方面があるのでありて前者「目的化的合理化」には目的的内容の相場からして厚生本位の合理化と營利本位の合理化との二種類があり、後者「手段化的合理化」には手段化方法の相違からして機械化的合理化と統制化的合理化との二種類が考へられるのである。

### 厚生の合理化と營利的合理化

そこで先づ「目的化的合理化」の内容から考へて見るに夫には已に述べたやうに厚生本位の合理化と營利本位の合理化との二種類があるのであるが第一の厚生本位の合理化は遂には社會化の形態を採らんとするものであり第二の營利本位の合理化は遂には獨占化の形態を採らんとするものである。現に今日でも已に米國の合理化は社會奉仕の名の下に社會化に傾かんとしつゝあるし反之歐洲大陸の合理化は國際化の名の下に獨占化に傾かんとしつゝあるではないか。

然らば社會化と獨占化と云ふ合理化の二種類は結局如何なる關係に立つてあらうか。問題は之であるが私見を以てすれば獨占化は結局は社會化にまで高次化されねばならぬであらうと思はれる。蓋し獨占化が行く處まで行つて更に獨占化の合理化が行はれるならばその獨占化の合理化は社會化の形に於てしか之を期待することが出来ないからである。然り獨占化の合理化は社會化で



なければならぬ。従つて目的化的合理化は獨占化を徑て社會化に向つて進む可きものと云ふ可きであつて然らずんば目的化的合理化は徹底したとは云へないであらう。

但し地球全體から見ると今日の目的化的合理化は獨占化の時代に屬するのであつて經濟の國際化だとか經濟の世界化だとか云ふのも斯うした運動の現れに過ぎないのではないか。

### 手段化的合理化の内容

次に手段化的合理化の内容に就て見るに夫には(一)過程中心の産業合理化と(二)組織中心の財界合理化との二種類あること已に一言せる處の如くであるが第一の過程中心の産業合理化なるものは手段化的合理化の先發隊をなせるもので夫は科學的方法の採用即ち「科學化」を意味せるもので最初は技術家仲間での合言葉であり(一)無駄の排除と(二)能率の増進とは實に斯る技術的合理化の目標であつた。然らばこの技術的合理化がその目標たる(一)無駄征伐、(二)能率増進に向つて、近附く爲めの方法や如何と云ふに、之を一言すれば、夫は「機械化」と云ふに歸着するやうである。少くとも、技術的合理化の極致が機械化にあることは、之を否定することが

出来ないであらう。規格化 (Normalisierung) と云ふも、特殊化 (Spezialisierung) と云ふも典型化 (Typisierung) と云ふも、標準化 (Standardisierung) と云ふも、單一化 (Simplifizierung) と云ふも、組織化 (Organisierung) と云ふも、機械の應用にしても、要するに、その極致は、機械化を意味するものに外ならぬのではないか。蓋し、技術の世界に於ては、無駄を排除し、能率を増進せんとせば、勢ひ、機械化と云ふことにならざるを得ないからである。と云ふのも、更によく考へて見るならば、技術と云ふこと自體が、已に、機械性と密接なる關係にあるからである。然り、技術は、即ち、機械性の現れであるからして、技術的の合理化は、勢ひ、機械化に了らざるを得ないのも、當然なことではないか。従つて、吾々は茲に、どうしても、技術的合理化は、即ち、機械化なり、と云はざるを得ないのである。現に、技術的合理化の進行につれて、機械化運動が擡頭し來り、機械文明が、愈々、濃厚となり來りつゝあるを見ても、以上のことは分るではないか。

然らば、以上の如くして、技術的合理化が行はれ、機械化が進むにつれて、經濟社會は、どう云ふ變化を蒙むることになるであらうか。

想ふに、技術的合理化が行はれ、機械化が進むにつれて、個々の企業内部の關係は、合理化されるけれども、その代りに、企業と企業との間の關係には、非合理的な傾向が續出し來らざるを得ないであらう。茲に於てか、斯る部分々々の間の不調和か



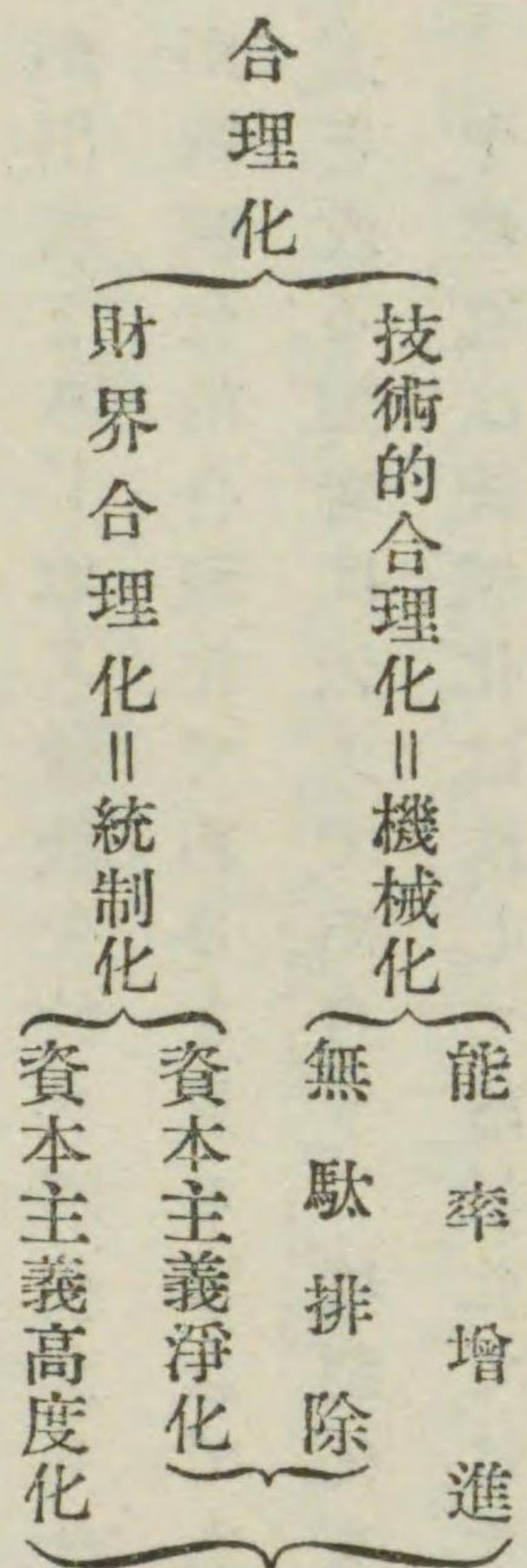
ら生ずる經濟社會の打撃を緩和するの必要上、經濟全體の合理化運動が擡頭せざるを得ないのであつて、所謂「財界合理化」なるものが之である。然らば、この財界合理化とは、如何。

想ふに、財界合理化なるものは、技術的合理化であつてはならぬものだ。企業内部の部分的な合理化は、技術的合理化であり、機械化であつてもよいけれども、財界全體の合理化は、機械化的の合理化に伴ふ缺陷の救済を意味するものだからして、その合理的性質も、機械化的のものであつてはならぬ。寧ろ機械化的の正反對でなければならぬ。他言すれば、生動的のものでなければならぬ。私が、財界合理化は機械化を中心としないで、有機化を中心とす可きである、と主張する所以もここに存するのである。

然らば、有機化とは何であるか。問題は之である。蓋し、有機化の内容が分らなければ、如何に、財界合理化は、財界有機化である、と云つて見た處で、結局は、疑問に答へるに疑問を以てするに了るからである。そこで、財界有機化の何たるかを、更に一考せんに、そも、財界有機化と云ふのは、之を一言で云へば、財界の有機組織化に外ならないのである。而して、この有機組織化と云ふ言葉をば、更に、本質化するならば、夫は、即ち、統制化と云ふことに歸着するであらう、従つて、財界有機化は、財界

統制化となる譯である。蓋し、財界を有機化する爲めには、財界は統制化されなければならぬからである。

然らば、次に、財界をば、統制化し、有機化しようとしたら、その結果、どう云ふ現象が生ずるか、と云ふに、財界統制化、財界有機化は、即ち、資本主義制度の發展を來すのである。舊資本主義制度の否定と、新資本主義制度の肯定とこそは、財界統制化の結果でなければならぬ。従つて、また、財界の淨化作用と、財界の高度化作用の二こそは、財界統制化の結果たり、と知る可きのみ。之れを、技術的合理化の場合に照合せる一表を作成すれば、即ち、左の如くであつて、



技術的合理化に於ける無駄の排除は、財界合理化に於ける財界淨化に當ると同時に、技術的合理化に於ける能率の増進は、財界合理化に於ける財界高度化に當るものである。

手段的合理化には以上の如き二種類があるのであつて一は過程プロセスの機械化を



中心とし他は資本主義組織の統制化を中心とするものである。そして第一の機械的合理化は當然統制化的合理化を喚起し來らざるを得ない。蓋し部分的合理化は総合的合理化の必要があるからである。斯くて部分的合理化である機械的合理化は総合的合理化である統制化的合理化と補足的關係に立つものと見ることが出來よう。寧ろ機械化的合理化から生ずる不合理性をば合理化せんとするのが統制化的合理化であると見る可きであらう。

と云ふと或る論者は云ふであらう。「統制化もまた機械化に外ならないではないかと。乍然私は統制化は決して機械化ではないと思ふ。蓋し統制化は單一化であるが統制化は集中化だからである。機械化は自働機構化であるが統制化は自發有機化だからである。然り統制化が機械化でないことは統制化が中心人物を必要とするのに機械化が人間性を排除せんとすることに依つて見ても分る。一方は人間化さうとし他方は非人間化さうとし兩者は逆の關係に立てることから見ても統制化と機械化との相違は考へられるではないか。

然るに世人はまた統制化は即ち獨占化なりと見んとする。が之れも間違ひである。蓋し獨占化に非らざる處の統制化もあつて統制化必ずしも獨占化でないからである。統制化が獨占化の手段となる場合には夫れは獨占的統制化である

し統制化が社會化の手段となる場合には夫れは社會化的統制化であるに徴して見ても以上のことは分るではないか。然るに世人の中には金融資本系統などが出來て財界が獨占的に統制化されるのを目して財界は機械化され硬化されたるものと考へんとする。が之は甚だしい間違であつて、このことは財界の本質が Organism であつても Mechanism になりに依つても分るではないか。

従つて以上を要するに吾々は統制化を獨占化と機械化との三者を充分區別しなればならないのである。即ち吾々は獨占化は目的關係の合理化現象であり統制化は手段關係の綜合方面の合理化現象であるが機械化は手段關係の部分方面の合理化現象であるとして以上三者をハッキリ區別する必要がある。蓋し夫れに依つて手段關係の合理化の内容も明瞭になるからである。

### 合理化の種類

従つて以上を要するに合理化なるものには都合四ツの種類があり得る譯である。四ツの種類とは何かと云ふに一は目的方面の低次な合理化であつて獨占化が夫れである。二は目的方面の高次な合理化であつて社會化が夫れである。三は手段方面の部分的合理化であつて機械化が夫れである。四は手段方面の全體



的合理化であつて統制化が夫れである。従つて以上を表記して示めせば左の如くなるであらう。



而して一寸見ると、獨占化と機械化、「社會化」と統制化とは近似性を有するもの、如き觀を呈するも、實際は然らず、獨占化と機械化とはカテゴリーを異にするものである。同様にして社會化と統制化ともカテゴリーを異にするものである。現に見よ。産業の機械化は手段的合理化に屬するが産業の獨占化は目的的合理化に屬するを見るではないか。更にまた資本主義の社會化は目的的合理化に屬するが資本主義の統制化は手段的合理化に屬するのを見るではないか。

従つて、吾々は合理化の意義に就て考へるに當つては、須らく目的上の合理化と手段上の合理化とを區別せねばならぬ。そして目的上の合理化の二種類即ち社會化と獨占化とを手段上の合理化の二種類即ち統制化と機械化と混同しないやうにせねばならぬ。蓋し社會化とか獨占化とか云ふのは合理化の性質を云ひ現

せる言葉であるが統制化とか機械化とか云ふのは合理化の仕方を云ひ現はせる言葉だからである。従つて極言すれば



右表の如くにも考へられるのである。但し、機械化に依る獨占化は考へられない爲めに、合理化には(一)社會化と(二)獨占化と(三)機械化との三種を生ずるに至るのである。

### 資本主義と合理化

尙ほ技術上の合理化を別として資本主義の合理化を考へて見るとそれには二種のものが考へられる。一は資本主義の肯定的合理化であり、他は資本主義の否定的合理化である。前者、資本主義の肯定的合理化と云ふのは現在の資本主義を更に内容充實せるものに育て上げようとすることを目標とした處の合理化であり、反之後者、資本主義の否定的合理化と云ふのは現在の資本主義をば變化せし



めるか拒否するかすることに依つて社會生活の行詰を打開せんとすることを目標とする處の合理化である。従つて資本主義の合理化は之れを

資本主義の否定的合理化  
資本主義の肯定的合理化

右表の如くにすることが出來よう。然らば資本主義の肯定的合理化の方法如何資本主義の否定的合理化の方法如何と云ふに、資本主義の肯定的合理化の方法は例の統制化による獨占化であり、資本主義の否定的合理化の方法は例の統制化に依る社會化である。而して斯る社會化が中途半端の状態にあるものを資本主義の管理化と稱する。この資本主義の管理化も統制化を方法とするものであるからして、従つて結局資本主義の合理化には

肯定的 || 獨占化  
中間的 || 管理化  
否定的 || 社會化  
統制化

右の三者を數へることが出來る譯である。

吾々は以上に於て合理の意義本質竝に種類に就て一考する處があつたからして次には合理化に對する實際家や學者やの定義をば雜然乍ら列記して以て合理

化の内容をば更に幾分とも明かにせんと欲する。

### 合理化の定義

合理化に對する從來の定義を見るにその大半は技術的合理化に對する定義であつてその少數が辛うじて獨占化的合理化の定義である。そして社會化をば合理化の一種と考へるものは皆無である。

Magnusw. Alexander (National Industrial Conference Board) 産業の合理化は經濟的發展率の低下を切抜けんとする一策として出現せる運動である。即ち經濟發展率低下の傾向は所謂收約的合理化の方法、即ち組織の改善或は技術及び經營制度の改善其他同様の考案に依つて生産能率を増進させんとする努力を促すに至つた。資源保存運動科學的管理法、規格統一及び浪費節約法、生産及び分配に於ける協調及び合同の制度商業上の組合及び工業上の聯合組織其他同様の團結組織は前記の如き經濟的發展率の低下を現出して居る現實の事態に促れて生じたものである。

Sir Mark Webster Jenkinson (Some aspects of Rationalization) 「合理化とは外國企業家の攻撃に對抗す可く自己産業の戰鬥力をば動員することに外ならぬ。而して斯る合理化の方法としては(一)産業能力の融合(二)無駄と損失を排除する爲めに過大の要



素を切棄てること(三)生産の集中を計ること等が考へられるのであつて、その根本基調をなす處のものは産業に對する吾々の觀念なり態度なりの一大革命に外ならぬ。單に資本の改善や管理組織の改造のみに止るものでない。」

World Economic Conference 「合理化とは労働と原料の無駄を最少にまで切詰める爲めに採らるゝ處の技術上組織上の方法であつて更らに夫れを詳言すれば(一)労働の科學的組成化(二)原料と製品の標準化(三)諸過程の單一化(四)運搬と販賣の組織改善等を意味するものである。」

Reichskuratorium für Wirtschaftlichkeit 「合理化とは技術の改善組織の改造を通じて人類の經濟狀況をば改善せしめるその手段方法の理解と實行とを意味するものであつて従つてその目的とする處も大量生産に依つて良品を廉價で製造して人類生活程度の向上を促進せんとするにあり、従つてまた斯る合理化の努力は社會各階級に共通せるものでなければならぬ。」

Lord Melchet 「合理化の目指す第一要件は生産と消費の適合をば出来るだけ完全にしよと云ふことである。」

Sir Arthur Balfour 「努力と原料の無駄を省く爲めに採らるゝあらゆる方法の實行が合理化である。」

Professor D. H. Maxgregor 「官業の組織是正、弱小企業の淘汰、新來者の統制、仕事の分化等を促進する統制形態の實現又は諸政策の實行が合理化である。」

Sir Josiah Stamp 「合同と價格協定とは合理化の根本策である。」

Sir Gilbert Vyle 「合理化とは製品の價格を協定し全部又は一部分の獨占を計りなどして生産原價に不拘市價を保持せんとするものであるからして従つて合理化が功を納め得る爲めには競争を排除するの必要がある。それだけにまた消費者の立場からみれば斯くの如く諸産業を組織化する手段が社會全體にとつて好結果を齎らすや否やと云ふ疑問も生ずるのは當然である。」

Robert Bothby M. P. 「生産と産業發達に對する有意識的統制こそ合理化である。」  
The Rt. Hon. Philip Snowden M. P. 「合理化とは産業組織をば生産配給上の無駄を排除し得るやうに改善すると同時に機械的科學的の知識を極度に活用し且つ産業の主要部分の協力を促進するにある。」

W. I. Hichens 「合理化とは能率を増進し冗費を除く爲めに同種事業の合併を計ることである。」

Messrs. Donovan and Webster 「合理化と云ふ言葉は歐羅巴に於ける大規模な産業結合を形成したあらゆる事業に對して、ただ漫然と使はれて居るが本來の語義は或



る特殊なる目的を遂行する爲めの聯合活動を意味するものであるからして云ふまでもなく合理化の斯る使ひ方は誤りである。只事業の結合は有利であり且又経済的にも好都合であるからして従つて今や漸く結合そのものは自然の不朽法則として従つてまた合理化として考へられるに至つたのである。が元來非常に複雑したる事象をば一言にて云ひ現さうとする事は決してうまい結果に至るものでないのであつてさうすることは無精者を満足せしめるに過ぎないものであると云ふことを吾々は知らなければならぬ。且つ粗薄な定義は公正なる事態の分析や明確なる思考の上に甚だ障碍となるものであるからして従つて合理化とは單純化だの標準化だの安定化だのであるなどと簡単に片付けてはならない。事業は合理化されると同時にトラスト化されたりシンジケート化されたり獨占化されたり協定化されたりすると云ふ事實をも知らねばならない。

英國社會主義學者の説、合理化の極致は産業労働者の生活向上、購買力増進を意味せざるを得ない、蓋し之れなくして資本階級中心の利潤合理化ばかりやるならば結局に於て合理化倒れに終らざるを得ないからである、斯くて吾々は知らねばならぬ、合理化とは産業社會化の別名なりしことを。

獨逸經營學者の説、合理化には技術上の合理化と組織上の合理化とがある、技

術上の合理化は科學的方法の採用に依る能率の増進を中心とするものであるが組織上の合理化とは集中化の一語に盡きるのである。

英國實業家の説、合理化とは失敗の告白であつて過去の産業發達が間違つた基礎と間違つた組織との上に行はれたことが今日合理化の叫びを大ならしめるに至れる根因であるのだ、従つて合理化とは不理性の一掃以外の何者でもないのである。

米國實業家の説、合理化の特色は無政府的或ひは無統制的なる資本主義競争が社會的利益に貢献し得るものであると云ふ十九世紀時代の産業原理をば徹底的に一蹴し産業統制こそ新時代の原理であることを鮮明ならしめたる點にある。

ジェキンソン卿の説、合理化の叫びは歐洲大戰の大打撃からして産業を救ひ出しその發展を計らんとするに出でたるものであつて従つて産業合理化は産業回復化の別名に外ならない、然らば産業回復化の方法如何と云ふにそれには三つある、一は融合化の方法であり二は近代化の方法であり三は管理化の方法である、第一の融合化と云ふのは同類同地理的の企業の間を計り弱小無益の企業者を排除し依つて以て原價の低下を促進せしめんとすることである、第二の近代化と云ふのは最新式の資本設備を完備して戰鬥力を充實せしめることである、第三の管



理化と云ふのは對外企業闘争に於て強力であるやうに内國産業の統制をなさんとすることであるが、要するに合理化の目標とする處は消費力の増加と販賣値段の低下とを促進せんとするにあつて従つてその方法には左記の如きものが考へられる。(一)生産の集中(二)生産の標準化(三)運賃の切下げ(四)動力の節約(五)管理の集化(六)配給組織の集化(七)投資の防止(八)金融統制の集化(九)勞働の配置改善等。

Herbert Schack「合理化とは因襲を打破し保守を打破して不斷に休みを知らず進展せんとする態度の保持を意味する言葉である。」

Friede Wunderlich「合理化とは生産力を増進せしめんとすることであつて、従つて(一)技術的合理性の發揮に依る部分的能率の増進(二)組織化に依る綜合經濟の高度化(三)將來を考へて生産力を高めること等が合理化の方途であるが、吾々の茲に最も注意しなければならぬことは合理化には窮極のないことである。即ち合理化なるものは、更に不合理化を來し、不合理化は、合理化を促進して進展すること恰も人間が休養しては進み休養しては進まんとすると同様である。従つて合理化は休養であり、均衡であると同時に破壊であり、失均衡であることを吾々は知る可きのみである。」

ケットゲン博士の説、合理化といふのは人間の理智を經濟上生産分配の改良上

に應用することを指すものである。獨乙語の合理化といふ語は技術的科學的な方法に依つて無駄を省き人類の福祉を増進する生産分配を目的とする諸活動に對して使はれて居るものであつてその根本目的は値段を安くし生産額を増加し製品の品質を向上して、人類の繁榮を向上する點に存する。

### 産業合理化の内容

吾々は以上に於て合理化の定義を検したのであつて、その結果ます／＼合理化には(一)産業中心の技術的合理と綜合經濟中心の財界合理化との二種あることを確定し得たからして以下先づ第一の産業中心の技術的合理化からして内容の説明を試みようと思ふ次第である。

さて産業合理化は已に述べたやうに科學的管理法に端を發するものであるが科學的管理法は餘りに技術的であるからして、その説明を省き、科學的管理法と並んでフウバーの主唱に依つて新意味を附せられたる「無駄の排除」(Elimination of Waste)からして一考することにしよう。そも／＼この「無駄の排除」なる新語は(一)浪費驅逐と共に(二)能率増進をも意味する處の可成り組織上の改善方法なるを以つてその説明は比較的經濟論に接近し得る譯である。



さてフューバーの無駄排除観を見るに即ち曰く「米國民は産業を經營する聰明性と能率とに於て恐らく他のどの國民に比較しても遜色がないけれども、米國産業の機構其者は必ずしも完全なるものではないのであつて、即ち不景氣時代には失業者が激増し、熱狂時代には過大投機と過剰生産とを齎す、今日の産業組織より生ずる無駄、労働者の出替り、移動、勞資間の反目に伴ふ無駄、燃料竝に動力の供給が時々中斷する爲めに起る無駄、財貨の需給竝に生産事情に於ける季節的變動の強烈なるに伴ふ無駄、商品規格不統一に伴ふ無駄、生産工程竝に原料取扱についての無駄等各種の無駄が累積して居る爲め、これ等の無駄のない場合に享樂し得べき財貨、勤勞の量よりも現實に提供される財貨、勤勞の量は遙かに尠い、今その無駄を分析して見るとその中の五〇％強は經營指導者側の責任に依つて發生し、二五％弱は労働者側から發生し、残りが雙方に歸屬せぬ外的原因に依つて發生するのである。今さる發生原因をば項別にして見れば左の如くである、(一)生産力の低下(1)原料を管理する場合の手落ち(2)設計書の管理調成に關する缺點(3)生産高を調節する上の過誤(4)原料計算方法の不完全なる爲め(5)調査研究を等閑にせる爲め(6)労働者操縦統御の不鍛鍊(7)職工技術の幼稚なるため(8)販賣政策の誤れる爲め(二)生産力の阻斷(1)従業員を連續的に作業せしめ得ない爲め(2)原料の運用が拙劣な

る爲め(3)工場竝に機械設備の運轉を休止させた爲め(三)意識的生產制限(1)工場所有者及び管理者が行ふ生産制限(2)従業員側より生ぜる生産制限(四)生産力の喪失(1)健康不良(2)視力不充分竝に齒痛による障害(3)工場の事故、椿事等。」

以上の如きフューバーの主張に刺戟せられて米國では官民協力の無駄排除運動が組織的に開始されたのであつて當時の方針を一括すると即ち左記の如くである。

- (一) 鐵道輸送に絡はる無駄征伐、適當なる設備及び一層良好なる方法を利用する積極的のものたる可きこと。
- (二) バラ積み大量貨物の輸送を經濟的にする爲めに内地河川の交通連絡に一大改良を加へること。
- (三) 全國電化を實行して燃料動力及び労働の大節約を行ふこと。
- (四) 經濟循環の齎す景氣不景氣に依つて季節的に發生する失業を緩和す可くその適當なる手段方法を講ずること。
- (五) 政府の統計事務に改善を加へて生産販賣在庫品物價等に關する統計を内外に互つて蒐集し商業上の危険を除き且つ無駄多き投機的の見込賣買を抑制す可き資料となすこと。



(六) 建築工事、採炭業、其他の事業には繁閑の季節があつて労働者の需要供給に著しい變化を與へるがそれを成る可く輕減すること。

(七) 商品の格付け、大小形狀の標準を定めて製造及び販賣に附纏ふ無駄を征伐すること、所謂單純化及び標準化運動として爾來世界中に知れ渡つた無駄征伐の一手段がこれだ、同時に又製造仕様書、貨物運搬の送り状、倉庫證券等を一定の様式に改めること。

(八) 労働の節約と一層進んだ製造販賣方法を發見するため工業經濟の科學的調査研究機關を發達せしむること。

(九) 農産物の荷捌きに附隨する無駄を減ずる目的で共同販賣法を實行し同時に農産物揚卸所の設備を改良すること。

(十) 訴訟沙汰による無駄を省くために商業仲裁制度を發達せしめること

(十一) 勞資協調によつて雙方の争ひから生ずる無駄を征伐すること

米國に於て動きつゝある以上の如き合理化は、結局は機械化と云ふことをばその基調とせるものであつて、現にその合理化の對象が個々の經營及び生産過程であることから見ても夫れは分るであらう。反之、歐洲の合理化は國民經濟的生産過程全體の合理化を主とする。が、何れにせよ合理化の歸趨が、人間労働の生産性

を出来るだけ高めるためのあらゆる技術及び組織の合理的使用であるに至つては一である。現に社會主義學者でも、資本家的合理化は一個當りの經費を減少せしめんと努めるもので、之が主要手段は、(一)労働生産性の増加、(二)労働強度の増加、(三)標準化に依る労働過程の短縮化である」と説き、これら三つの成分が合理化の純粹な要素であり、之に反して獨占、産業資本の商業資本の犠牲に依る利潤の引上げの如きものは、本來の合理化には屬しないと主張し、一個當りの經費を減少せしめることを資本主義學者と共に合理化の本質と考へて居るではないか。但し斯る合理化は結局に於て利潤の増殖を指せるものであることは勿論であつて、此の點に於て所謂合理化は資本家的意圖を藏せることを知る可きのみである。然るに資本家連中は斯る意圖を秘せんとするからして、従て彼等の合理化に對する定義も曲がりくねつたものになるのである。例へば合理化の定義として國民の福利を目的とし、價格を引き下げ、消費の増進を來すものとなすが如きその一例である。處が實際上の合理化は資本主義の欲心を満足せしめんとて、其ために行はるるものであるからして、今に始つたものではない。歐洲戦前にも見られたものである。只、今日ではその合理化の運動が徹底して來て、その正體をばハッキリさして來たまでのことである。



何れにしても産業合理化は技術的合理化であつて、夫は機械化を根本とする。然るに機械化は大量生産を前提とすると同時に、大量生産は機械化に依つて更に促進される。斯くて産業が多量生産化さるゝにつれて産業の規模は大となり、固定資本分は擴大されるからして、勢ひ大經營時代を來し、自由競争に産業界は耐へられなくなる。斯くて産業統制時代となる。カルテル、シンジケート、トラスト、コンピナチオンなどは斯る企業統制時代の現れに外ならない。

従つて技術的合理化こそ産業統制の母である。寧ろ技術的合理化が基礎となつて作られたる處の産業統制時代でなくては、眞の産業統制時代ではないのである。獨逸の産業統制が資本家の營利慾に結び附けられて問題にされたり、今から二十年前の米國でトラスト征伐論が見られたりしたのも、要するに同時代の産業統制が、技術的合理化から生ぜざる處の自然の産物でなかつたからである。然るに技術的合理化から生ぜざる自然の産業統制現象は、さうした批難から免れる傾向がある。現に近頃では米國の産業界も技術的合理化の進行につれて、大經營化されそれと共に、特化され集積化され統制化され始めたが、世人は夫をば産業合理化の進行と見て、敢て批難しようとしてもしないではないか。従つてこれから見ても技術的合理化、即ち機械化の必要に迫られて、大經營化を通じて齎らされし産業統制的傾向

こそは、第二次的合理化と見做され得ることが分るであらう。

斯る二次的合理化は(一)大經營化(二)特殊化(三)集中化(四)結合化(五)統制化等を通じて産業界を體系化するに至る。それにつれて金融體系が勢力を得て來て、その金融體系が産業體系をば包括し統制するに至る。所謂金融資本主義時代が之であつて、斯る金融資本主義の制度は、愈々以て企業の擴大と體系化とを促進する。そして、それにつれ企業の内部組織も機械化されるし、所有と管理との分離も惹起されるし、企業形態も經營者中心のものに變化するのである。

その結果企業が國家の運命を支配する程の全的なものとなり、従て企業統制そのものゝ合理化が必要とされるやうになる。斯る企業統制の合理化の目標は實に安定化にあるのであつて、斯る安定化は合理化の第三次形態である。即ち合理化の一次形態は機械化であり、二次形態は體系化であり、三次形態は安定化であるのである。生産制限とか價格協定とか云ふやうなことでも、夫等が安定化の手段として行はれるものである限り、ヂヤスタファイされるのである。

然るに合理化が安定化として行はるゝに至るや、問題は已に産業自體から資本制度自體に移り、資本主義制度の合理化が問題とならざるを得ないやうになる。而して已に述べたやうに斯る資本主義の合理化は、對内的には資本主義の高度化



を來し、對外的には資本主義の世界化を來さんとするものであつて、所謂資本主義の肯定的合理化が之である。而して斯る資本主義の肯定的合理化が更に進展するならば、遂には資本主義の否定的合理化に進むであらう……と考へる人々が合理化を以て人類生活の幸福化政策であると見るのである。即ち斯る人々は合理化を以て社會化と同一視せんとする。問題は實にこゝにある譯であるが、兎に角社會主義者は夫を否定する。その反對に資本主義氣質の人々は漫然と資本主義の合理化は社會化であるなどと言ひ立てゝ居る。が、兎に角吾々は先づ以て資本主義の肯定的合理化の内容の研査を行はねばならぬ。

### 資本主義の肯定的合理化

技術的合理化は當然資本主義の肯定的合理化にまで轉化し來たらねばならぬのであるが、然らばその資本主義の肯定的合理化の内容や如何。

夫は已に一言した様に、對内的には資本主義の高度化であり、對外的には資本主義の世界化であらう。先づ對内的な資本主義の合理化、即ち資本主義の高度化から一言せんに、夫れは即ち獨占資本主義に外ならぬ。  
 とも、資本主義の合理化には、資本主義の本質をなす營利主義を促進する爲

めの合理化と、資本主義をして人類生活に結付ける爲めに營利主義を調節する意味の合理化との二つが含まれて居るのであつて、前者は所謂資本主義の高度化なるものにして、夫を進めて行けば遂には獨占組織の發達となるのである。反之、後者は所謂合理主義の實行を意味するものであつて、夫れを進めて行けば遂には社會主義に進むのである。然らば前者の獨占組織の内容如何。

夫は決して屢々世人の考へる如く、自由競争の完全なる排除による計畫經濟化を意味するものではないのである。寧ろ却つて非計畫經濟化であると云へるであらう。蓋し資本主義が競争時代から獨占時代に進むにつれて、漸次夫は組織化されて來て、それに伴うて意識的統一が明かになり、從てまたその意識的統一に基いて意志的統一即ち指導が行はれ出すからである。從て獨占資本主義とは無政府状態に依る混亂をば出來るだけ回避せんが爲めに、組織化から生ぜざる意識的統一を利用して、資本主義を指導せんとするものに外ならないと云へよう。

然るに二十世紀に於て最も缺乏して居るものは指導性であるのである。殊に經濟界に於ては、自由競争時代が統制獨占の時代に變化しつゝある爲めに指導性の必要が痛感されるのである。統制時代がモツと徹底して、計畫時代にまですべり込んで仕舞へば、今日の所謂指導性(Leadership)なるものゝ必要もなくなつて仕舞



ふであらうが、資本階級と労働階級との対立しつゝある限り、所謂指導性なるもの  
の必要があるのであつて、その必要が痛感され乍ら、その割合に指導性の不足して  
居る處に、現代經濟の悩みがあると云ふことは慥かに眞理であらう。

尤とも人に依ると獨占組織が發達して統制力が充實して來るにつれて、指導性  
も自然に生じて來ると考へるものもあるかも知れぬが、それは組織だけで萬事が  
圓滑に行くとき考へる機械論者であつて、生きた實社會を知らざるものである。反  
之、現實の世界にありては、組織化が進めば進むほど、組織體を指導してそれに方向  
を與へ、創造的進化を刺戟す可く指導性の必要が痛感されるものであつて、若しも  
指導性宜しきを得ざれば、直ちに組織體は生氣を失ひ、固化し、階級闘争は激甚とな  
り、組織體は否定さるゝに至るであらう。さればこそ大會社になればなるほど商  
性や執務性よりも、指導性が重んぜられ、指導型の人間が中心地位を占むるに至る  
のではないか。經營學者が實業家の本質を斯うした指導性に求めるのも無理が  
ないのである。況んや經濟界全體に於てをやである。

たゞ會社の場合と財界の場合と違ふのは、前者にあつては指導性が人間に依つ  
て完全に代表され得るが、後者にあつては人間の外に更に組織を必要とすること  
であつて、斯る指導性を代表する組織をば他の組織から區別する爲めに、高度組織

(Organisation der höheren Ordnung) と呼ばれる。例へば金融界で云へば通貨統制組織  
の如きであり、財界全體に就て云へば財界指導組織の如きであつて、斯る指導組織  
の中心に座を占むる人物こそ高級なる指導型人物である。眞の意味での政治家  
は斯うした高級指導型人物でなければならぬのである。一國の財界には斯うし  
た高級指導者と高度組織とがあつて、指導性を代表して居る必要がある。それで  
こそその財界も固化したり、組織倒れに了つたりすることなく、生々發展の一路を  
辿り得るのである。

然るに不幸にして日本の財界には夫れがないのである。自由競争時代が一過  
して、これからいよ／＼獨占統制時代にならうとして居るのに、肝心な指導性が缺  
如して居る。爲に勞資の間もうまく行かなくなるし、組織化が却つて固定化とな  
つたりして種々の缺點が出て來る。従て日本の財界に最も缺乏して居るものは  
組織性でなくて指導性であると云へよう。然るに世人を始め爲政者迄が此の點  
を間違へて、指導性の缺乏を組織で補はんとして居る。悲しむ可き事だ。恐らく  
斯う云ふことだと日本の資本主義組織は益々濫用されるか益々萎縮するかの二  
途何れかでなければならぬまい。況んや日本の資本主義組織が、今後はますます獨  
占化され統制化され組織化さるゝに於てをやである。



以上の如き次第であるからして、独占資本主義の内容は組織化され指導化されたる營利主義に外ならぬものであつて、資本主義の高度化資本主義の肯定的合理化が即ち之である。従つてまた資本主義の肯定的合理化統制化、独占化は結局に於て資本主義の政治化でもあり得るのである。社會主義學者は夫れをば帝國主義化と呼ぶが、慥かに政治化されると云ふ意味から云へばさうも云へるであらう。乍然、何れにしても資本主義の高度化、統制化、独占化、政治化、組織化は、要するに指導化をば根本とすることに至つては異論なき所である。故に資本主義の高度化的合理化は資本主義の指導化を中心として、始めてハッキリと考へられるものなのである。

### 資本主義の世界化

次ぎに資本主義の肯定的合理化の他の一面である資本主義の世界化に就て見るに、夫も結局は資本主義の指導化に似たやうなものであつて、普通之を協調化と云ふ。近頃國際會議の運動が擡頭しつゝあるのも、實にこの協調化の現れに外ならないのである。人に依ると資本主義の世界化は領土の擴張運動か、市場の爭奪戦かであるかの如くに考へて、従て結局に於て大戦争の再發を豫想するのである。

が事實は全然その正反對であつて、資本主義の世界化は經濟スケールの擴大を來すけれども、それと同時に協調化運動が擡頭し來り、資本主義をば世界的組織にまた育て上げるに至るものなのである。従つて吾々は資本主義の高度化は指導化であるが、資本主義の世界化は協調化であることを知らねばならぬ。

### 資本主義の管理化

然るに資本主義が高度化され指導化されるにつれて、更にその指導化が窮極に達して行詰るに至るのである。茲に於てか資本主義指導の合理化が行はるゝ時代となる。この資本主義指導の合理化こそ資本主義の管理化であつて、資本主義合理化の二次形態である。資本主義合理化の一次形態は資本主義の指導化であるが、資本主義合理化の二次形態は資本主義の管理化であつて、夫れは資本主義の否定的合理化への第一歩である。即ち資本主義の肯定的合理化は、必然にその否定的合理化を誘導する譯である。

従つて資本主義なるものは、合理化の進むにつれて自由競争の資本主義からして指導独占の資本主義を経て、遂には管理拘束の資本主義へと進むものであつて、世人が普通に合理主義と云つて居るものも、結局はこの管理資本主義を意味する



ものに外ならないのである。

尤も學者に依ると、獨占資本主義は直ちに社會主義に轉化するものであつて、その間に合理主義時代なるものは存在しないと云ふ。然らば此の點果して如何。果して學者の考へるが如く資本主義の管理化などは實行不可能なるが故に、合理主義など云ふものは存在し得ないと見らる可きであらうか。

私を以て見るに、夫れは理論上は否定さる可きであるが、人類の希望から見ると或は存在し得ない事もないと思ふ。然らば其存在は如何なる根據の上に立つかと云ふと、夫れは即ち獨占資本主義の理想化の極限としてある。蓋し獨占資本主義合理化の極限は、營利性と厚生性との合一調和としての合理主義をば自から含むからである。但し此合理主義なるものは、獨占資本主義なるものが更に大衆化され、プロ化されたものである。と云ふ點に於ては、依然として資本主義であるとも云へるのである。と云つて大衆化されプロ化された點から見ると、社會主義の第一期とも見られ得るのであつて、従つて合理主義は資本主義と社會主義との間のボカシである外あるまい。而して斯うしたボカシ時代があるかないかは、理論の問題ではなくて現實の問題なのである。蓋し夫れは實際問題として資本主義をば漸進的にボカシながら社會主義へもつて行くか、夫れ共資本主

義から一足飛びに社會主義を持來すかは、其國民なり民衆なりの如何に依る處のものであつて全く理論を超越せる處のものだからである。故に獨占資本主義の合理化なるものが、果して合理主義まで進展するかどうかは理論の問題ではないとしても、少くとも獨占資本主義の合理化なるものが、合理主義をば眼ざしつゝある事は否定出來ないのである。但し資本主義なるものが獨占組織の發達につれて、必然的に民衆の反對に遭つて、民衆中心に管理され始める事も争ふ可からざる事實である。従つて結局、吾々は資本主義なるものが合理主義に向つて進みつゝあると云ふ其傾向だけは、之を認めざるを得まいと思ふ。經營學なるものも斯うした傾向の認定の上に立脚す可きではあるまいか。反之、社會主義學者は一圖に獨占資本主義の合理化は社會主義化であると信ずる一派である。然し此點は大問題であつて、こゝに叟々の餘地を有しないが、少くとも吾々はかう云ふことが云へると思ふ。即ち資本主義は發展することなくしては存続することは出來ないものである。然り全く資本主義の發展は資本主義の合理化によつてのみ促進されるものであり、資本主義は絶えず合理化の要求に迫られる。そして合理化につれて資本主義は發展する。資本主義は合理化の備を通じて開展し行くものである。



## 資本主義の本質

然らば、資本主義高度化の基調如何。思ふに、資本主義高度化の基調は、資本主義の本質曝露にある。従つて、資本主義は高度化するに従つて、資本主義の本質が、益益明らかにならざるを得ぬのである。従つてまた資本主義の本質が分らねば、資本主義高度化の何たるかも分らぬのは當然である。

然らば、資本主義の本質は何であるか。問題の中心は實に此處にある。然るに、従來の學者は、この問題をば(一)個人の自由、(二)私有制度の是認等の如き形式に於て極めて簡単に、解決し去らんとした。茲に、従來の學者の間違がある。

そこで、私は資本主義の本質をば、社會關係から離れて、夫れ自體として、突止めて見たいと思つた。斯くて私は結局、資本主義は、手段主義と云ふ事に結論せざるを得なかつたのである。尤も、資本主義の本質を、手段主義に求める學者は、近頃、獨逸に多いのであつて、恐らく、將來は一派をなすのではないか、とも思はれる。が、米國の學者は、そこまで、未だ徹底した見方をする事が出来なからして、資本主義をば、能率主義として見て居るやうだが、獨逸の學者は、この點に於ては、一歩進んで居る。例へば、最近の出版にかゝる「精神科學としての經濟學」の著者の如きは、經濟學

を分つて、目的主義としての經濟學と、手段主義としての經濟學となし、前者の極致を、社會主義經濟學に求め、後者の極致を、資本主義經濟學に求めて居るのである。

私も、此の説に賛同するものであつて、資本主義の本質は手段主義にあつて、資本主義が私有制度を根本とするが如く見ゆるは、手段主義が人類性(Human Nature)にござらされて居る爲めであり、従つて人類性を完全に克服するに於ては、手段主義が資本主義の本質として、ハッキリして來るであらうと考へるのである。然り、全く手段が資本主義の世界であることが、資本主義の高度化につれて、ハッキリして來ざるを得ぬのではないのか。

然らば、手段の世界とは何かと云ふに、手段の世界とは、手段價值が目的價值を支配し、手段過程が目的過程を左右するの世界であつて、人類の社會に就て之を見るならば、生活條件の充實性を内容とする處の統制組織が、全人類を統制するに至る場合に外ならぬ。従つて、また斯る世界に於ては、生産力の充實を通じて、統制力の收得をなさんとすることこそ、人類の目的とならねばならぬ。自己の存在や、自己のウェルフェアは、問題でなくなつて、生産力そのものゝ爲めに、生産力の充實を計り、依つて以て、權力意志の充足を計ることこそ問題となるのである。



従つて、之を他言すれば、資本主義の極致は唯物主義に歸着するのであつて、社會主義學者は斯うした點に論據を得て、資本主義の批判をなさんとする一群に外ならぬのだ。

尤も、見方に依ると、社會主義の社會だつて、統制組織を重んずるんだから、以上のやうに、資本主義の社會を定義する以上、資本主義も社會主義も、ゴチャ／＼になつて仕舞はねばならぬではないか、とも考へられるが、更によく考へて見ると、その然らざる事を、吾々は發見するであらう。蓋し、社會主義でも、組織を重んずるが、夫れは手段として、組織を重んずるのであつて、目的は明かに人類の厚生にあるからである。然るに、資本主義の極致たる、手段主義の世界では、組織が主で、人は従だ。そして、特定の人々のみが、組織の牛耳を握らんとする。此特定の人々が即ち權力階級である。従つて、權力階級的統制組織か、非權力非階級的統制組織かの點に於て、目的の世界と、手段の世界との岐れがあるのである。

以上の如く資本主義の世界は、生産力其者の爲めに盲目的に生産力の増進を計り、依つて以て、權力を吸収せんとすることが、脊髓をなす處の世界なるが故に、茲に生産力の伸展を、他よりも長足ならしめんとすることこそ、資本主義高度化の根本原則とならざるを得ぬのである。

然るに、生産力と消費力とは、密接なる關係にある爲めに、生産力の増進を促進せんとせば、(一)生産力の品質を向上せしめることに依つて、(二)消費力を自分の手許に集中せしめることを、手段的に、必要とするのである。こゝに、猛烈なる資本主義戦の始められざるを得ぬ動因が潜む。

乍然、斯る資本主義戦は、決して武力戦争の形を採るものではないのである。資本主義が武力戦争の形を採ると考へたのは、舊式社會主義の所論に屬する。手段主義を本調とする眞の資本主義は、却つて不戦條約を確保して、武力戦争を避け、戦はずして上手に敵を倒さんとするものである。近頃の米國主義は明かに夫れを意味するのだ。米國主義は、實に手段主義への具體化なのではないか。

従つて、吾々は以上からして、資本主義は當に手段主義の經濟だと結論せざるを得ないのである。經濟には目的主義の經濟と手段主義の經濟との二種あつて、その經濟の手段主義的の方面を代表するものが資本主義であり、經濟の目的主義の方面をば代表するものが、社會主義なりと考へる。従つて之を表記すれば左表の如くなるであらう。

經濟	目的主義	社會主義
手段主義	資本主義	



而して恐らく經濟の本義は、右の如き考へ方に依つて、初めてハッキリして來るのではないかと思ふ。目的經濟と手段經濟との區分を以てせずしては、經濟の本質も經濟生活の意義もハッキリして來ないのではないだらうか。然らば目的經濟の意義如何。手段經濟の意義如何。

### 目的經濟と手段經濟

先づ經濟をば目的として見ると云ふのは、どう云ふことかと云ふと、夫れは經濟生活をば文化生活の一として人間固有の生活と考へんとするものであつて、従つて斯う云ふ立場を經濟に對して採るものを精神としての經濟(Wirtschaft als Geist)と思ふものとなす。

反之、經濟をば手段と見ると云ふのは、經濟生活をば文化生活の手段を收得する爲めの生活として、即ち手段生活として見んとするものであつて、學者は之を「手段としての經濟(Wirtschaft als Mittel)」と呼んで居る。

吾々經濟生活に關係するものは、常に以上二つの立場の何れかの上に立脚して經濟を考へて居るものであつて、例へば熱心なる實業家などになると、經濟生活が文化生活そのものであると考へて怪しまないのである。さうした態度を徹底さ

せると、フォードの産業哲學のやうなものにもならうと云ふものだ。然し大概の人々は先づ經濟生活をば、文化生活の手段と考へて居るからして、富を獲得することに依つて、各自の經濟生活をば最小限度に縮少しようと努力するのである。精神として經濟を考へるものは、經濟生活を擴大しようとしますが、手段として經濟を考へるものは、經濟生活を縮少しようとするのであつて、斯うした經濟生活に對する態度のコントラストは、吾々の屢々經驗する處のものである。

然らばその何れが正しいかと云ふに、純粹理論的には經濟生活は手段生活であつて、文化生活である可きでないのだが、能率増進の上からすれば經濟生活は目的としての生活であり、精神としての文化としての生活であると思はれた方が、得策であると思ふ迄である。従つてまた、經濟生活の發展と云ふ事に重點を置いて考へて行けば、フォードの如く精神としての經濟を考へるものこそ、經濟的合理主義者であると云へようが、人間らしい生活をしようとする純粹消費者の立場からすると、金儲けの上手な人々こそ、經濟的合理主義者なりと云へるのである。だから詰り、生産經濟に重きを置いて考へる人々は、目的化して經濟生活を見るのが、經濟的合理主義者だと云ふことになり、反之、消費經濟に重きを置いて經濟生活を見る人々は、手段として經濟生活を見るのが、經濟的合理主義者だとするのである。



Herbert Selack の如きは其の著 *Wirtschaftsformen* に於て、消費の爲めに生産をしな  
いで、生産の爲めに飽く迄も生産をして行く場合こそ、經濟的合理主義だと云つて  
居るが、之は明かに生産經濟に視點を置くものであつて、目的として經濟を見んと  
するものである。また恐らくそれでなければ生産力の發達も望めんだらうし、從  
つてまた財界の發展も期し難いだらう。日本の實業家のやうに少し金を儲ける  
と奢侈な生活を始めたり、少々年が寄ると隱居したりしては、生産本位の經濟合理  
主義は成立しないであらう。日本の經濟基調は全く消費本位の經濟合理主義に  
あると云へよう。

尤も以上の如き二種の合理主義は、全く經濟生活に對する各個人の主觀的な態  
度に關して云はれたものであるからして、社會的強制力を背景とした場合の合理  
主義とは意味がスツカリ異なることは一考す可きである。が、然し假令主觀的であ  
つて社會的強制なきにもせよ、國民の大多數が生産的合理主義に傾きつゝあるか、  
消費的合理主義に傾きつゝあるかは、その國の財界發展の上から見て看過す可か  
らざることと思ふので、敢てこゝに一言した次第である。恐らく讀者はこの一文  
に依つて、國民の多數が消費經濟に重心を置くか、生産經濟に重心を置くかに依つ  
て、經濟界が多大の影響を蒙る可きを知るであらう。

然らば、さうした點からして日本の經濟を考へたならば、どう云ふことになるで  
あらうか。想ふに日本國民は經濟生活に對する態度が目的經濟の方に傾き、消費  
經濟の合理主義者だからして、どうしても消費過剰の傾向を助長し易い。そこへ  
來て、米國々民は總じて手段としての經濟を考へる處の生産經濟的合理主義者だ  
からして、米國の生産力は日一日と増大し行きて、それは日本國民の消費經濟的合  
理主義に乗じて、日本にその過大生産の雨を降らせるのである。爲めに日本は何  
時とはなしに米國財界の壓迫を蒙らざるを得なくなるのである。蓋し生産經濟  
の合理主義國と、消費經濟の合理主義國とが對立する以上、一方が債權國になり他  
方が債務國となる可きことは、火を見るよりも明かだからである。

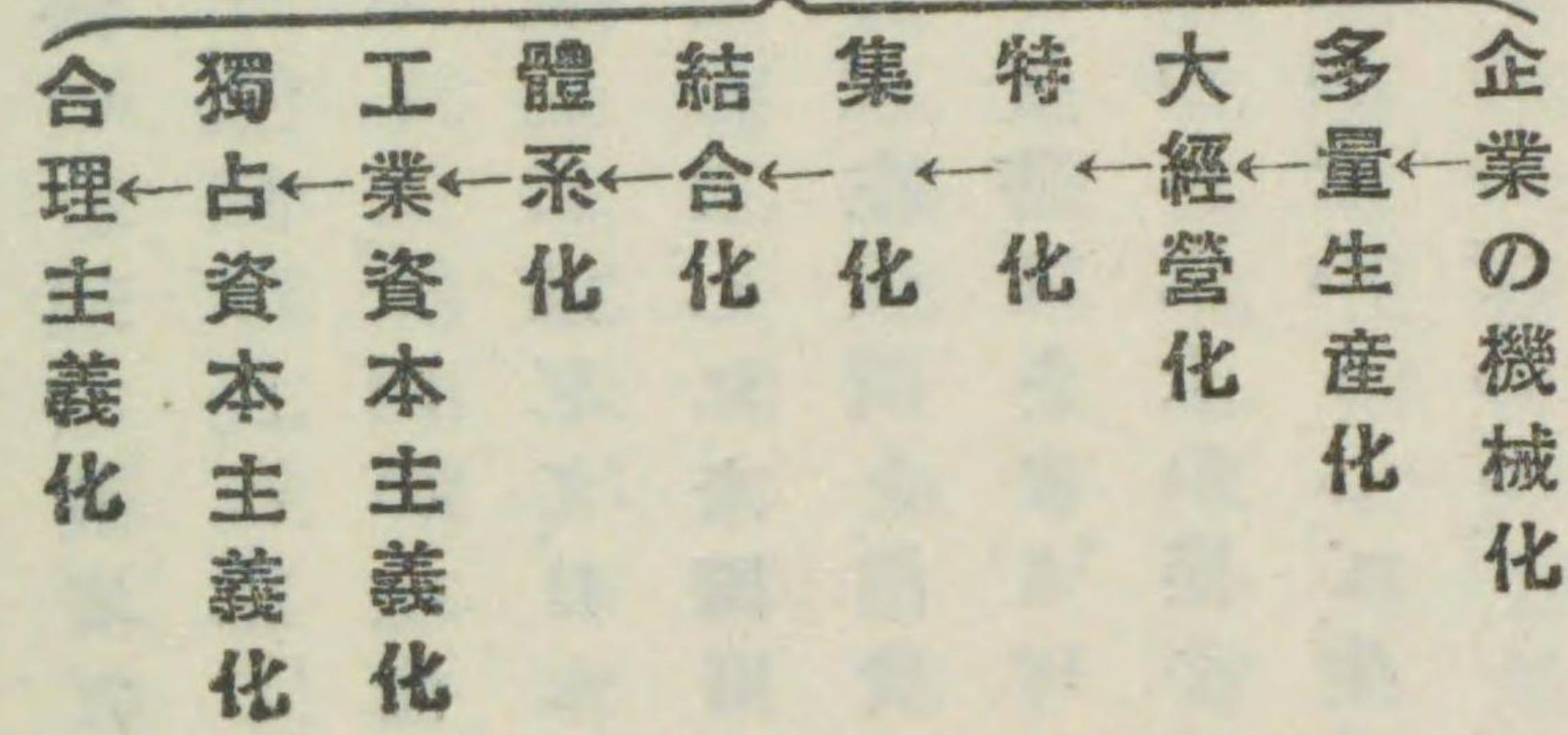
従つて以上の様な點から見ても、爲政者たるものは、日本國民をば消費經濟の合  
理主義者からして、生産經濟の合理主義者へと導いて行くことが、必要であること  
が判るのである。

### 結 論

吾々は以上に於て合理化の意義を一考し、且つ合理化につれて經濟關係が發展  
することを一言したのである。即ち合理化につれて(一)企業は機械化され(二)大



經營化され(三)大體系化されて、遂に資本主義も商業主義から工業主義に化し、更にまた資本主義の高度化、世界化が起り、夫れは遂に資本主義の管理化にまでも進まんとするものであることを以上に依つて知つたのであつて、従つて今合理化の進轉過程をば表記すれば左の如くなるであらう。



## 第二章 日本資本主義の合理化

手段經濟の促進——生産力の本質——不合理性の淨化  
 ——日本財界の不合理性——恐慌の本質——金解禁の  
 合理化作用——保護政策打切り——財界收縮化は恐慌  
 化を伴ふ——財界合理化の積極策

### 手段經濟の促進

日本資本主義の合理化の第一は手段經濟の促進に外ならぬ。目的經濟を矯正して手段經濟を促進することが日本資本主義合理化の第一諦である。蓋し日本國民の經濟は消費經濟に傾き過ぎて生産經濟を輕視せる傾向が多いからである。然らば手段經濟の促進は如何にして可能であるか。問題は之であるが、それは先づ日本國民の精神を手段經濟的に入れ替へる必要がある。がそれと同時にまた經濟の中心は生産力にあることを徹底せしめ、生産力の増進策を講ぜしめる可きである。全く日本國民は消費哲學は心得て居るが生産力の哲學を心得て居ないので、それが爲めに、日本の資本主義も不合理化するのである。従つて吾々は



先づ日本資本主義合理化の第一歩として生産力の意義をハッキリさせる必要がある。

### 生産力の本質

銀行利潤も、商業利潤も、運輸利潤も總べて皆な産業利潤から支拂はれるものであるからして、産業利潤こそ利潤の根源でなければならぬ。而して此の産業利潤を支配するものは、その國の生産力でなければならぬ。生産力こそ利潤の根基であり、従て又資本主義の基礎である。

然らばその生産力とは何であるかと云ふに、之に關しては Frieda Wunderlich の Produktivität が可成り詳しく答へて居る。即ち氏は先づ重農派、マーカントリズム正統學派、歸屬學派、ローマン派、空想的社會主義派、生物學派、倫理派、収益派、生産力説等に互つて生産力の意義を考究し、以て生産力の概念が富有 (Reichtum) なる概念と収益 (Rentabilität) の概念との間を彷徨せるものであつて、極めて漠然たることを指摘したる後、結局生産力なる概念は「經濟の理念」(Idee der Wirtschaft) であると云ひ、斯うした經濟理念の追求が經濟行爲としての現れと見るのである。そして氏は斯うした經濟行爲の遂行は、(一)技術の合理化に依る効果の發揚 Die technische Rationalität,

die die Fruchtbarkeit im Einzelfall bedingt) (二)各個の技術的合理性を綜合して再生産を持續發揚する爲めの組織 (Die Organisation, die ein Optimum an Rationalität der Verhältnismässigkeit in der Gesamtwirtschaft herstellt und die, ideal durchgeführt, die Reproduktion der Wirtschaft auf gleicher Höhe der Fruchtbarkeit verbürgen würde) (三)將來ますます生産力の高まるやうにすること (Die Steigerung der produktiven Kräfte mit Rücksicht auf die Zukunft) の三點に依る可しと云つて居るのである。慥かに生産力を強めるには(一)技術と、(二)組織と、(三)勞働力との三が必要であつて、斯うした點に生産力を求める方が徹底して居るであらう。慾望を満足し得る力と云ふやうに生産力を考へて來ると、結局生産力は物財の豊富即ち Reichtum の概念になつて仕舞ふし、さうかと云つて價值關係に重きを置き過ぎて費用と效用の差として生産力を考へると、生産力は収益力の概念に立戻らねばならぬからして、要するに生産力は之を手段力と見て夫れを増大せしめる手段的要素を指摘した方が實際的になる譯である。

以上の如き所論に基いて、私は生産力をば人口増加生活向上の爲め的手段力の程度と解し、さうした手段力の程度を支配する要素に注意したのである。且つ斯る要素をもウンデルリツヒと共に、私は技術と組織と勞働力とに求めるものである。



然らば此の點をば日本に就て見たならばどうかと云ふに、日本に於ては技術も組織も労働力も遙かに歐米に劣つて居るのである。即ち技術上の合理性も少し、組織上の合理化も不足して居るのである。更に労働力の品質にした處で甚だ劣等である。従つて自然を征服して良品を安價に作る力、即ち手段力の程度が低いのである。爲めに之が廻り廻つて財界の逆調傾向を誘發し、収益力を弱めつゝある。故に日本に於て収益力の程度が低く収益を擧げるに困難を極めるのは、全く生産力の稀薄に原因すると云へようと思ふ。即ち収益力と生産力とは決して同一物ではないのであつて、収益力の根因こそ生産力であると云へよう。寧ろ収益力を支配する處の自然的物理關係こそ生産力であると云へるであらう。

然るに世人は往々にして此の點を看過し、生産力をば社會的關係にのみ歸因せしめる爲めに、却つて生産力の本質も分らなくなるし、生産力の増進方策も間違ふに至るのである。日本の經濟人がトモすれば、技術關係を輕視する傾向あるに依つても以上のことは分るであらう。故に吾々は日本資本主義發達の爲めに、その根柢をなす處の技術的組織的自然的關係をモット重要視するの必要があると思ふ。

### 不合理性の淨化

次に日本資本主義の合理化の一つは不合理な日本資本主義の否定を斷じて日本資本主義の淨化作用を徹底せしめる事である。夫れが爲めに恐慌が來ても仕方がない。寧ろ恐慌のみが日本資本主義の唯一の淨化機關である。従つて吾々は恐慌を覺悟して日本資本主義の淨化を斷行せねばならぬ。世人は恐慌なるものを無暗と恐れるけれども、恐慌は要するに資本主義の減資運動に外ならぬのではないか。蝟配當を繼續して居るよりも思ひ切つて減資した方が早く會社が立直る様に同様にまた資本主義にしても恐慌を促進して自淨を敢行した方が早く合理化の實行期に這入るのではないか。日本の資本主義の様に不合理化されて側道に迷ひ込めるものに於てをやである。夫れを正道に引戻した上でなければ、合理化も何も出來たものではあるまい。従つて日本では資本主義の合理化は先づ資本主義の淨化正道化作用を必要とするのであつて、夫れが爲めには或る程度まで財界收縮化を徹底せしめる必要がある。蓋しさうすれば立派な指導者が財界を指導するやうになり、従つて財界の合理化も出來るやうになるからである。但し斯る徹底した財界收縮化をやると富の減少購買力の減退からして恐慌を



來すであらうが然し夫れを恐れて居ては駄目である。寧ろ吾々は勇敢に恐慌頻發の中を突破しなければならぬ。恐慌を恐れて居ては今日の如く行詰つた日本の財界をば正道に引戻す事は出來ないからだ。この意味に於て私は恐慌付財界收縮策なるものをば日本財界合理化方法の第一位に置かんと欲するものである。と云ふのも日本財界が多量の不合理性に充たされて居るからだ。

### 日本財界の不合理性

然らば日本財界不合理性發生の原因如何と云ふに夫れは即財界膨脹策の濫用にある。現に見よ、日本財界の育ての親は歴史的に見ると膨脹以外の何者でもなかつたではないか。夫れは日本の財界が膨脹と密接なる關係にあつて今日でも膨脹傾向が否定されると財界は萎縮し沈滞せざるを得ないのを見ても分る。社會主義や共産主義の論者は日本の資本主義は已に爛熟してしまつて行詰つたと云ふが、日本の資本主義は行く處まで行き得ないからして行詰つたのではないか。さしてさうした結果を來した根因は財界膨脹政策にある。そしてその財界膨脹政策は財界濫用に中心を置くのである。現に見よ。今日の日本は信用膨脹になやんで居るではないか。依つて以つて借金遣繰、奢侈業、虚業、投機業の盛大さがしのばれよう。

寔に今日の日本は丁度金を借り廻して茶屋遊びをして居る人にも似たるものがある。殊に近頃では社債と云ふ調法な借金道具が出來た爲めに、猫も杓子も社債發行と出掛ける。爲めに近頃では拂込資本と社債發行高との比率は五年以前に比較すると十倍にもなつたのである。而も斯く苦心して借金した金は、立派な生産資本になつて借金を活かすかと云ふに、決してさうではないのである。夫等は先づ穴埋めに悪用されたり、思惑資金に濫用されたり、混合戦の臺所役を務めさせられたりする。斯くて日本國民の富は濫費されて行く。そして國富に大穴が開く。この大穴を埋める爲めには土地とか株券とか云ふやうな再生産の出來難い有價物件をば評價しなければならぬ。斯くて國富の大穴が基になつて何時とはなしに財界の膨脹は惹起されて行く。

處で通貨膨脹なら人眼にもつくが、困つたことには財界膨脹となると、一寸人目に付き難い。だからこれが財界膨脹だとは知る人も少い。却つて、永久に借替へられねばならぬ様な惡質な借金でも夫れが社債の形式を採るために何時しか資金融緩慢を來し、株券や土地の値段を引上げて呉れるからして世人は夫れを結局よい事に考へる。そして何時返濟されるとも分らぬやうな借金證文



が、證券市場や銀行の庫中に這入つて資金同様に取扱はれる。斯くて世人は安心して富に化けた不良借金の上に腰据ゑて居るのである。

従つて、吾々は日本財界合理化の方策としては(一)虚富(二)虚業(三)過評(四)浪費(五)濫費(六)遣繰(七)財政膨脹(八)税金引上(九)株式制度、政黨制度濫用(十)擬制資本造出等のワザを一掃して不勞所得の根源を断除するにあると考へる。他言すれば、財界收縮策をジリ／＼やつて行くに限ると思ふのである。

### 財界合理化策としての恐慌化

勿論さうすれば財界は恐慌に襲れるだらうが、已に一言せる如く、膨脹した財界を收縮させようとするんだから恐慌來は已むを得ないのであつて恐慌を恐れて居ると却つて財界全體を腐らせて仕舞ふであらう。従つて云ふを得可くんば恐慌化こそ日本財界合理化策の第一義なりと知る可きのみである。従つて吾々はこゝに少しく恐慌の本質を一考せんと欲する。

### 恐慌の本質

然らば一體恐慌とは何であるかと云ふにこの問題の解決はブルジョワの立

場に立つかプロレタリアの立場に立つかに依つて大變に違ふものであるからして吾々はこの點に注意する處がなければならぬ。現に有産階級の利益を念頭に置いて、恐慌の本質を考へる者は、不知不識の間に「恐慌を避けたい」と云ふブル意識に支配されるからして、恐慌をば景氣變動路上の一節として、場面變化(Phasen Veränderung)として取扱ふとする。恐慌をば資金化時代(Liquidation-periods)として見るが如きはその代表的のものである。

乍然資金化時代として恐慌を見るならば、遂には恐慌はその均衡破壊と云ふ本來の特質をすらも忘れられて、滑らかなる景氣循環の軌道の一節と化され終らざるを得ないであらう。茲に氣付いて、モツと恐慌をば本質的に理解せんとする熱あるものは、シュンペーターの如く夫れをば「經濟發展上に於ける一大轉變」(Mächtigen Wellenschlage der wirtschaftliche Entwicklung)として、發展論的に看做すのである。

而して景氣論的恐慌觀に比すれば、發展論的恐慌觀の方が遙かに恐慌を個性的に見るからして、恐慌を何度でも同じやうに繰返される同質的のものと見るやうなことは、發展論的恐慌觀にはないのである。が然しそれでもまだ發展論的恐慌觀には、多分に恐慌をば同質的の反覆現象として見んとする景氣論的傾向が著しく現はれて居るのである。と云ふのは、發展論的恐慌觀は、景氣論的恐慌觀と同様に



恐慌輕減又は恐慌防止を希望するブル意識の要求に答へんとする潜在意圖を内藏するからである。

反之、無産階級の利益を念頭に置いて恐慌を考へるものは、不知不識の間に「恐慌の資本主義破壊性」に注目するからして、恐慌をば資本主義變革運動上の一大動因として見做さんとするのであつて、従つてまた恐慌に質的個別性を認めんとする。例へば、社會主義經濟學者が時々頻發する恐慌に、夫々質的差異を認め、それは資本主義變革上に特殊の役割を演ずるものと考へるが如きその適例ではないか。

但し斯るブル意識に依る恐慌觀にも大體二種類あるのであつて、その一は恐慌を以て資本主義變革惹起機能と見るものであり、その二は資本主義破壊惹起機能として恐慌を見るものである。夫れは恰もブル意識の恐慌觀が、恐慌を以て或は景氣變動上の資金化時代と見たり、或は恐慌を以て經濟發展上の轉期と見たりするのと同じのものがある。

従つて以上述べ來れる處よりして恐慌の種類を表記すれば、左の如くなるであらう。

ブル意識に基くもの  
景氣恐慌  
發展恐慌

恐慌  
ブル意識に基くもの  
變革恐慌  
破滅恐慌

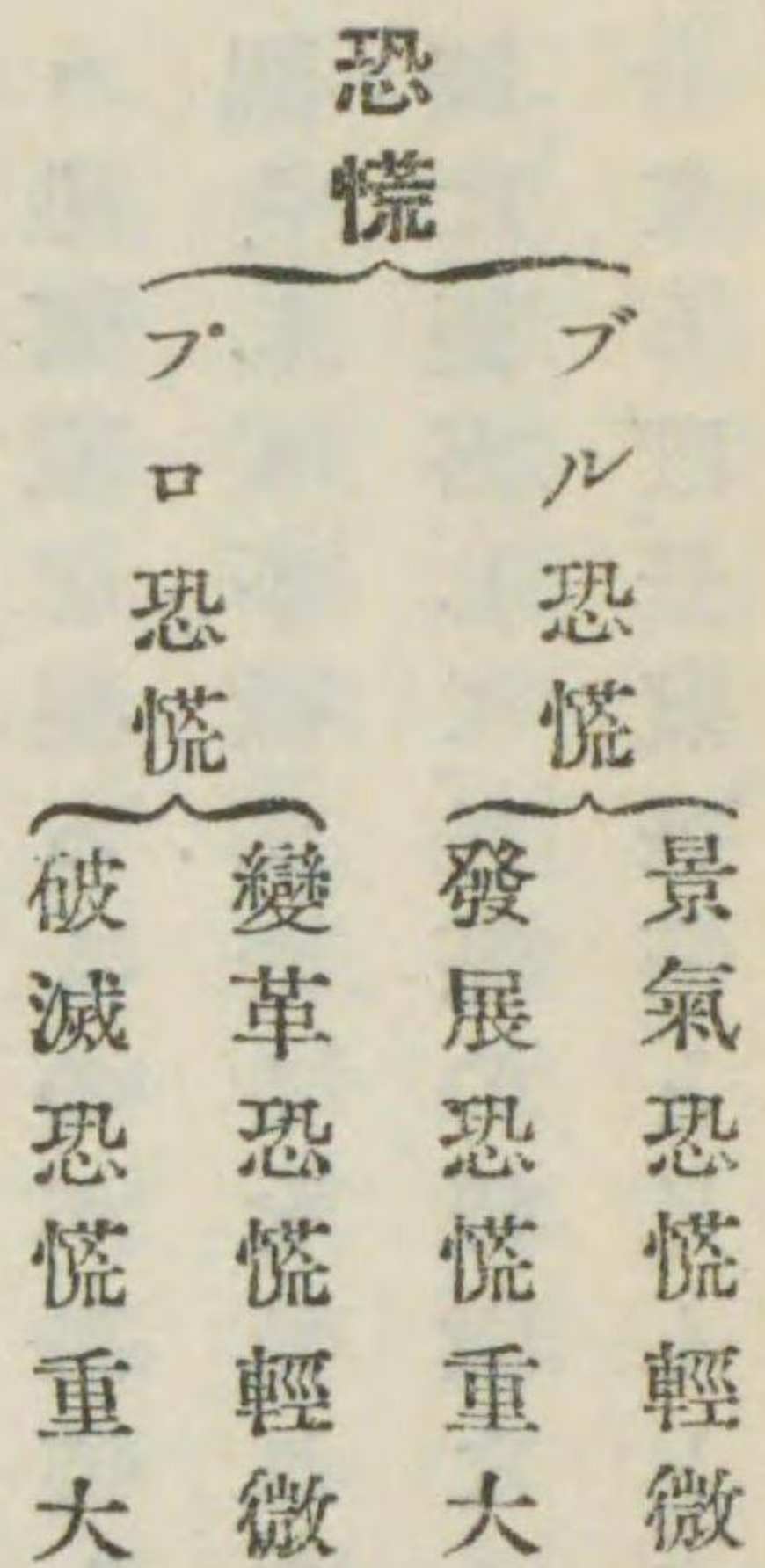
然らば恐慌の本質はその何れに存するであらうか。ブル意識に依る恐慌觀にあるか、それともブル意識に依る恐慌觀にあるか。問題は實に之であるが、その何れたるを問はず、ブル意識の恐慌觀は、發展恐慌よりも景氣恐慌に於て徹底する様に、ブル意識の恐慌觀は變革恐慌よりも破滅恐慌に於て徹底するに至つては、之を疑ふことを得ないであらう。従つて已に掲げたる恐慌分類表は、之を左表の如くに簡單化し得るであらう。

ブル恐慌觀 恐慌をば景氣變動としてのみ見るものに歸着せんとす。  
ブル恐慌觀 恐慌をば資本主義絶滅作用として見るものに歸着せんとす。

以上の如くであるが故に、ブル恐慌觀を採るものが恐慌を以て發展現象と見たり、ブル恐慌觀を採るものが恐慌を以て資本主義變革現象と見たりするものは、共に恐慌觀として不徹底たるを免れないとも云へよう。乍然實際上に於ては、寧ろヨリ詳細に觀察して、恐慌の輕微なものは、ブルの場合ならば、變革恐慌と見るし、ブルの場合ならば、景氣恐慌と見んとするのである。その反對に恐慌の猛烈なるものは、ブルの場合ならば破滅恐慌と見るし、ブルの場合ならば發展恐慌と見るのが至



當であらう。従つて之を表記すれば左の如くならう。



然らば次にそも、恐慌なるものは、之をブル觀す可きかプロ觀す可きかと云ふに、筆者を以てすれば、恐慌の本質はプロ觀によつての方がヨリ正確に把握し得るものと信ずる。と云ふのも、恐慌は已に景氣變動と見るよりも變革運動と見る可きものであるからだ。

然らば何故に景氣變動はブル觀に適するか、變革運動はプロ觀に適するかと云ふと、蓋し夫れは、景氣變動はブル階級の利益擁護の意圖を以て經濟變動の整理されたる結果の産物であるに反し、變革運動はプロ階級の利益促進の意圖を以て經濟變動の整理されたる結果の産物なるが故である。此の事は、米國の如き資本國に於て經濟變動が景氣循環として分析せられ、ロシアの如き共產國に於ては經濟變動は恐慌中心に分析せられんとするに徴しても明ではないか。寔に社會科學ほど行動關心に囚はれ易いものはないのであつて、已に述べた經濟學にしても、資

本主義を一日でも長く生かさうとすることが關心となつて居るのを見るのであつて、同様にして、經濟變動の分析にしても、恐慌の本質論に於ても、共に實際行動と云ふものが見方を規定する次第である。

従つて、必ずしも、ブル意識に基く恐慌觀が正しくなく、プロ意識に基く恐慌觀が正しいなどとは云へないけれども、恐慌の本質をハッキリさせる上からすると矢張り恐慌はプロ觀す可きであるやうである。蓋し、恐慌をブル觀すれば、恐慌は遂に人爲的に支配し得る景氣循環の一節と化し去りて、少しも恐慌らしくなくなるからである。

そこで先づ吾々はこれからして恐慌のプロ觀をしようと思ふのである。然らばプロ觀の恐慌論如何。

想ふにプロ觀の恐慌論は、恐慌の起因をば資本主義の本質的缺陷に求める。ブル觀の恐慌論は、夫れを避けて恐慌を資本主義の本質的缺陷の現はれと見ないで一時の病氣と見ようとするので、恐慌をば景氣と一緒にしたり、恐慌の説明を徒らに複雑多辯なものにしたりするのである。反之、プロ觀の恐慌論は、ハッキリと恐慌を以て資本主義の本質缺陷の暴露なりと見る。然らば資本主義の本質缺陷如何と云ふに、或る者は夫れを以て「搾取」に求め、或る



者は夫れを以て「無政府状態」に求める。従つて又恐慌の原因に關しても、搾取説と無政府説との二があり得る譯であつて、搾取に依る生産消費不均等に基いて發生する恐慌こそ所謂變革恐慌であつて、斯る恐慌の結果は益々企業の集中獨占の發達を誘發する。乍然如何に大規模なる獨占組織が成立しても、夫れは決して資本主義の無政府性を否定するものではない。寧ろ資本主義の獨占化は、其無政府性の集中成大であらねばならぬ。従つて資本主義が獨占化すほど、いざ恐慌となる與其恐慌の程度規模は大となるものである。爲めに遂には大々的大恐慌の爲めに、獨占化された資本主義の否定作用が惹起されると云ふのである。従つて資本主義無政府性に基く恐慌こそ破壊恐慌なりと論ずる。

乍然、更によく考へて見ると、資本主義の無政府性は、恐慌の程度を大きくしたり輕微にしたりするの作用をなすものであるが、恐慌夫れ自體の根因ではないのであつて、恐慌の根因は搾取にあると云ふのがプロ派の骨子であつて、反之ブル派は恐慌の根因をば、資本主義の發展性と資本主義の無政府性とに求め、搾取などはいと小さな恐慌惹起の一因なりとなす。殊にブル派にあつては恐慌の根因として資本主義の發展性を挙げ、資本主義の無政府性を二次的のものと思ふとする。そして資本主義の發展性に基因する恐慌こそ發展恐慌であり、資本主義の無政府性

に基く恐慌は景氣恐慌であるとなす。

従つて以上を要するにブル派は、恐慌の根因をば資本主義發展と云ふが如き資本主義の長所に求め、プロ派は、恐慌の根因をば資本主義搾取作用と云ふが如き資本主義の缺點に求めんとするものである。従つて恐慌論を中心としてプロ派とブル派とが論争をした處で何等得る處なきを見るであらう。

と云つて兩者を同時に認めると云ふことは吾々のなし得ざる處であつて、問題はこゝに存するのであるが、筆者を以てすれば、夫れは要するに時期の問題であつて、即ち資本主義が上昇的な發展時代にある際には、資本主義の長所をば恐慌の原因と看做す處のブル派が妥當し、反之、資本主義が老衰退歩の時代にある際には、資本主義の短所をば恐慌の原因と看做す處のプロ派が妥當するものと思ふのである。従つて「勝てば官軍負れば賊」の一句は、恐慌學説にも當嵌るのであつて、茲に社會科學に共通の傾向が首肯される。

吾々は以上に於て、恐慌の本質觀を述べたのであるが、從來は以上の如くに恐慌の本質觀を確定することなく漫然と恐慌原因を指摘することゝした。今斯る恐慌原因論を見るに即ち左の如くである。



外的原因(戦争、不作、政變等あるも就中不作を重大視す)

恐慌 生産過剰  
内的原因 投機熱に依る資本化作用の過度  
信用の過大化

恐慌 個人の罪に基く恐慌  
自然の出来事に基く恐慌  
私經濟的恐慌

恐慌 社會關係の變化に依る恐慌  
金融恐慌 市場恐慌  
國民經濟恐慌 資本恐慌  
一次  
二次

恐慌 一般的經濟恐慌  
流通手段上の恐慌  
通貨恐慌  
信用恐慌

恐慌 特別的經濟恐慌  
商業恐慌  
商品取引恐慌  
資本取引恐慌

恐慌 生産恐慌  
産業恐慌  
農業恐慌

恐慌 再生産恐慌  
分配恐慌

恐慌 信用恐慌 證券取引所恐慌  
投機恐慌  
商品取引所恐慌  
生産財恐慌  
資本恐慌

恐慌 供給側の混亂 生産關係  
市場方面  
信用組織  
需要側の混亂 需要方向の變化  
購買量の増減

右に見る如く從來の恐慌論は漫然と恐慌の分類をなし、夫れを以て恐慌の本質が判つたかのやうに見せかけて居るに過ぎぬもので甚だ頼りないものと云はざるを得ないのである。

反之、私は經濟學者を進化論的なブル經濟學者と、變革論的なブル經濟學者とに分け、前者は進化現象として恐慌を考へるが故に、勢ひ恐慌をば景氣變動の一節と見るに至るも、後者は變革現象として恐慌を考へるが故に、勢ひ恐慌をば變革運動の一機能と見るに至るものなりとする。而してその何れが正しきかは、その國の



資本主義が發展状態にあるか行詰状態にあるかに依つて決るものであると思ふ。従つて又私を以てすれば、日本の如く資本主義の行詰状態にある國に於ては、恐慌は景氣恐慌よりも變革恐慌に傾かざるを得ないと思ふ。現に昭和二年の金融恐慌の如き當に變革恐慌であつたではないか。大正九年の恐慌は、好景氣の反動が資金化時代に現はれたものであつて、當に景氣恐慌であるが、昭和二年の恐慌の如きは打續く深刻なる不景氣のハテの恐慌であるからして、好景氣の反動とか、資本化時代だとかと考へる譯には行かないのであつて、どうしても夫れは變革恐慌と考へざるを得ないのである。

然るに、從來は世人は恐慌と云へば、何でもかんでも景氣恐慌と考へるからして、好景氣がない限りその反動も考へられなれないと思ふのである。が之は非常な間違であるからして、茲に訂正を要するのである。即ち、吾々は好景氣の反動でなくとも、財界が行詰りさへすれば、その結果變革恐慌が出現して財界構成を變革に導く可きことを知る可きである。日本で金を解禁すれば、舊平價でやらうが、新平價でやらうが、二三年後には財界行詰が更に激しくなつて、その結果變革恐慌が起り財界の合理化を強要し、財界の立直りを促進するに至る可しと云ふ主張も以上の所論に基くものである。

然るに世人は今迄恐慌には好景氣の反動たる資金化恐慌と、財界行詰の治療法たる變革恐慌の二種あることを知らない。従つて金の解禁が行はれて日本の財界が更に行詰つても、恐慌は來ないやうにのみ考へるのであるが、私は解禁後の日本財界は不合理性の爲めに行詰を大にするからして、不合理性打破の必要上からして變革恐慌を見ざるを得ないと考へるものである。世人が此の點に氣付かぬのは、世人が恐慌には好景氣の反動としての恐慌と、財界行詰の救治策としての恐慌との二種あることに眼醒めないからだと思ふ。

但し日本で金解禁後に出現する恐慌を目して、資本主義を否定する最後の恐慌となすものあらば夫れは大なる間違である。蓋し日本では未だ獨占が高度化して、獨占と無政府状態との間の矛盾が著しくなるに至つて居ないからだ。此點から見ても、解禁後の恐慌は、資本主義を合理化して獨占を強める所謂變革恐慌に過ぎないものと見ざるを得ない。斯うした變革恐慌は、獨占組織の不備なる爲めに起るのであつて、従つてまた、變革恐慌後は獨占組織がそれだけ完備するであらう。斯くて變革恐慌と獨占組織とが交互的に進展して行つて、獨占組織が最後の階段まで押進んだ時、こゝに獨占組織と無政府性との間の矛盾の鋭化からして、資本主義を否定するやうな大恐慌が勃發する傾向を示すのである、と云ふのがプロ派の



恐慌理論でなければならぬ。而して斯うした恐慌理論は、資本主義が自由性を失つて行詰るにつれて妥當するものであつて、資本主義が自由性に富み精々發展の過程を辿れる間はブル派の發展恐慌や景氣恐慌やの理論が妥當するであらう。以上の如き次第であるからして、膨脹政策の濫用の結果、行詰れる日本の財界では、恐慌を促進するのが寧ろ財界合理化策の第一歩たるものと知る可きのみである。寧ろ徒らに恐慌を恐れる者こそ財界を非合理化するものではないか。

### 金解禁の合理化作用

然るに世人は恐慌を恐れて、金の解禁でもしたら財界が立ち直るやうに考へるのである。が、夫れは大きな間違であつて、金解禁は寧ろ財界の淨化政策の一なのではないか。金解禁は財界の立直策でなくて財界の淨化策なのである。従つて金の解禁をすれば財界が間もなく恐慌化するのは當然なことなのだ。

然るに政府は金の解禁をすれば今にも財界は立直るやうに考へて金の解禁をしようとする。金の解禁をば財界の淨化策であり、従つて夫れは當然財界に恐慌を持ち來す事を考へない。そして金の解禁をしても、恐慌は出現しないから安心せよと財界に觸廻る。こゝに政府の不合理性が窺れる。と同時に、金の解禁を平價ですると財界に恐慌が出るからと云つて、平價での金解禁をば財界破壊策だと思ふと見んとする。こゝにも不合理性が窺れる。反之、私は金解禁は必ず恐慌を伴ふものだからして、金解禁淨化策として最上のものだと考へる。そして金解禁をば寧ろ財界の爲めに歓迎する。決して金解禁で恐慌が出たからとて、金解禁をば財界破壊策だなどとは見ない。蓋し恐慌こそ行詰つた日本の財界の唯一の打開策だからだ。

従つて私は金解禁をば財界の淨化策と云ふ意味にて財界合理化の一途と見るのである。従つて金解禁で恐慌が出たからつて、恐れて救濟策や保護政策を振廻してはならないのである。保護政策による財界の膨脹化は絶対に不合理化政策として排さねばならぬものだ。蓋し財界の合理化は人爲的に行はる可きものでなくて、深刻なる不景氣と戦ふ全國民の努力のうちからして自然と湧出して來る可きものだからだ。従つて斯うした意味から云つても、徒らに中小工業保護の名の下に手工業を保護し、産業革命を延引せしめてはならぬ事が分らう。さうだ。已に自然の勢ひなのだから、日本はこれからは役にも立たぬ保護は打切つて、財界を收縮せしめ、亡ぶ可き手工業は之を亡ぼさねばならぬ。



## 保護政策打切り

従つて私は保護政策救済政策の打切りを以て、財界恐慌化政策と共に消極的な日本財界の合理化策なりと認めるものである。而して更らによく考へて見るのに(一)恐慌化策と(二)保護打切りとは財界收縮化の二大方法なりとも云へよう。蓋し財界收縮化をば徹底化さうとすれば、恐慌化と保護打切りとの斷行以外に方法がないからである。現に恐慌來を恐れたり保護打切りを躊躇して居つては、思切つた財政の緊縮も財界の整理も、決して斷行出來ないのを以て見ても夫れは分るではないか。従つて膨脹した財界をば收縮化さすことが、財界合理化策として必要である以上、恐慌化と保護打切りの覺悟も財界合理化策として認めねばなるまいと思ふのである。

## 財界收縮化は恐慌を伴ふ

然るに世人は、財界收縮化は恐慌化を伴はないと考へるからして、財界收縮化を主張し是認するのであるが、實際上に於ては營利制度を採る今日の財界では、收縮化は必ずや恐慌化を來さざるを得ないものであつて、このことは已に歐米の學者

の等しく認める處である。また一寸考へて見てもさうではないか。收縮化は當然(一)國富の減少と(二)國民購買力の減退とを來すんだからして、財界はその壓迫からして恐慌化せざるを得ないではないか。日本人は餘りに縮收化と云ふ美しい言葉に酔つて、その言葉の内容を知らないものだと思ふ。

膨脹時代から收縮時代へと云ふ言葉は、至極簡單であるが、日本の財界にとつては、夫れは決して簡單なる言葉ではあり得ないのである。蓋し、夫れは日本の財界にとつては、熱と氷の差ほどあるからだ。今一例を擧げて見ようならば、即ち左の如くである。

(一) 膨脹時代にはボロイ儲けが澤山あつたが、收縮時代には働けども働けども儲けからぬ。

(二) 膨脹時代には土地さへ買つて置けば、値が出て儲かつたが、收縮時代には儲かると思つて買つた土地でさへ値が下る。

(三) 膨脹時代には思惑に失敗しても、氣永く夫れを押し通せば、何とか切抜けられ、た上に却つて大儲けが出來たものだが、收縮時代には餘程頭を使つて大事を踏んだ思惑でも、案外はづれて夫れを突張らうものなら、大損をするに至るであらう。

(四) 膨脹時代には營利的採算心の勝つた、ドテラかと云へば、コスカライ人間が



勝利者であつたが、收縮時代には人類生活の發達の爲めに、生眞面目に努力する人が、案外な成功者となるであらう。等々。  
従つて財界收縮化は實に恐る可く、苦痛なものだと云ふことを、吾々は知らなければならぬ。

### 財界合理化の積極策

吾々は以上に於て財界合理化の消極的な方面を一考したのであるが、次に財界合理化の積極的な方面を一考することにしよう。財界合理化の積極策如何。

先づ財界合理化の積極策としては、整理と建設の二策が考へられる。吾々は先づ整理に屬する方面を一考し、漸次建設に屬する方面に考へ及ばんと欲する。

財界組織化策　そこで先づ財界合理化の積極策の一として、私は財界の組織化を擧げんと欲する。が、然らば財界の組織化とは何か。想ふに組織化なるものはその實階級化に外ならぬのだ。財界の爲めになるやうな善良なる階級化を構成することこそ財界の組織化に外ならぬのである。

然り、組織化が階級化を意味すればこそ、指導作用の如何が組織化に際して問題となり來るのではないか。尤も組織化が階級化を意味するからと云つて、夫れは

無暗に階級の色彩を濃厚にする事を意味するのではないのである。私の云はんと欲する點は、立派な職能を盡し得るやうな階級化をやれ、それが組織化であること云ふにある。人によると、階級のない組織が地上に成立し得るやうに考へて組織化を叫ぶけれども、夫れは大いに間違つて居るのであつて、支配階級によつて統制されないやうなものは、團體ではあつても組織とは云へないであらう。従つて私は、人間が神の如くならずば、無階級社會の實現は不可能なりと思ふ。乍然、假令階級社會に於ても、支配階級の被支配階級に對する統制が、今よりもズツと合理的なものになり、それにつれて、支配階級になる道程も、モツと合理的になる事は、私も信じ得る。が社會 (Gesellschaft) と云ふ觀念が、已に階級と云ふ觀念を含んで居るのであつて、無階級社會が、形容矛盾である以上、支配階級が、被支配階級に對して、何かの特別待遇を惠まれて居る事は、之を否定出來ないのである。従つてまた特別待遇に結付けられて、殊に成功と云ふ言葉が就遂と云ふ言葉の代りに用ゐられることも否定は出來ない。そこにまた成功を冀ふ俗心の入る餘地あることも考へ得る。

斯くして「社會」と「成功」と云ふ二つの概念は、不離の關係に立たねばならぬ。それだけに、また社會がにごつたものになる。人間が年を重ねるにつれて、俗化し、ご



つて來るのも、かうした社會性に感化される爲めなのだらう。「あの男は若いと云ふ言葉のうちに、斯うした社會性の無自覺を意味せしめる俗物の多いのも無理からぬことだ。

だが然し、あの男は若いなんて意識する俗物が、人類其者の存在と發達の爲めに、何を貢献し得るであらうか。成功を欲する人々が却つて成功しない理由が、こゝにあるのではないか。

要するに極言すれば、人類と社會とを雙肩に荷つて居るものは、被支配階級なのだ。支配階級は被支配階級の代理者としてのみである。従つて、被支配階級たる事に依つて、自然に、支配階級に選出される處にこそ、社會的生活の發展も意義もあるのではないか。それでこそ社會も階級性のまゝに、發達し得るのではないか。來國の社會には慥かに斯うした傾向が見られる。

然らば日本はどうか。不幸にして、日本は米國の逆だ。人工を弄して支配階級によぢのぼるに非らずんば、支配階級者たるを得ない。勤勉努力して被支配階級に如何に徹底した處で、決して日本では支配階級者にはなれないのである。寧ろさうした人々は馬鹿にされて許り居る。左様に日本の支配階級は惡質である。蓋し日本の支配階級は、被支配階級からして選出されたものでなく、權道を経て、支

配階級を奪取し、被支配階級に君臨せるもの、大半を占むる爲めである。日本の社會的墮落の原因、こゝにある。

以上は社會に就て云つたのであるが、經濟界に就ても同じことが云へる。即ち日本では經濟界の支配階級の大半が、經濟界の發達の爲めに盡した結果として、支配階級に選ばれたものでないのである。所謂不勞所得の偶然的收得に依る果報者共が、日本の經濟的支配階級なのである。夫れは通貨信用の膨脹に依つてのみ、日本の經濟的支配階級は作られたのでも分る。嘘と思ふならば、日本の經濟的支配階級者達よ、胸に手をあて、自分達の地位が出来るに至つた道程をよく反省して見るがよい。日本のブルジョワジイは大半不動産の値上りとか、戦時戦後の信用膨脹景氣とかで、大した仕事もしないのに、今日の地位を得たものではないか。日本の國富内容の貧弱もそこに原因する。シツカリした大工業を起して、以つて被支配階級からして身を起したやうな人が、日本の支配階級者に何人あるか。日本の支配階級の大半は、先づ膨脹景氣で偶然に手にせる財を以て、被支配階級から事業を買取つて我物顔にをさまる人々ではないのか。

斯う云ふことを云ふと、憎まれるかも知れないが、實は却つて支配階級者の爲めを思つて、云ふのだから傾聴して下さい。と云ふのは、これからは、愈々膨脹時代が



終を告げて收縮時代に入り、今迄の積りで居ると、日本の支配階級もエライ目に遭はねばならぬからだ。日本の經濟支配階級が信用膨脹の産物でなく、日本の國富が不勞所得の結晶でないならば、膨脹時代が終を告げて、收縮時代がやつて來たつて、敢て驚くこともないのだが、日本の經濟支配階級は信用膨脹の産物であり、日本の國富も、不勞所得の結晶なだから、明治大正六十有餘年間の膨脹時代が、愈々茲に終を告げて、昭和時代から收縮時代となることは、一大事として特筆し警告しなければならぬのである。

従つてまた吾々は財界組織化をば、財界收縮化を通じて促進する處がなくてはならぬ。蓋し財界收縮化は財界組織化の消極的であり間接的ではあるが、一つの有力なる方法だからだ。

然らば次に財界組織化の積極的なる方途は如何と云ふと、經營者に財界主權を附與するやうにすることである。換言すれば、財界の指導階級から資本家や企業家を排除して、經營者こそその跡にすゑることである。他言すれば經營者時代を促進することである。

**經營者時代** 經營者時代と云ふことは、種々のことを含んで居る。傳統に囚れた經營から開放されて、合理化された科學的經營に向ふ傾向もその一つであるし、

重役の職業のうち機械的の部分がますます／＼分化されて、諸多の課係と比し、重役はますます／＼高等な創意と高度な指導へと、手腕を伸して行く傾向もその一つであるし、更にまた經營規模が擴大されて、民衆の力が巨大となり、夫れに押されて經營が營利性よりも經濟性を目標とするが如きもその一つである。乍然、就中經營者時代を彩る一大特色は、組織化の傾向であつて、結局經營者時代とは組織化を通じて事業を指導して行くことに外ならぬのである。

然るに、組織化は時に組織化倒れに了る場合があるのであつて、日本ではこの傾向が著るしい。と云ふのも、結局日本人が組織を萬能視し、組織さへ作つて仕舞へば、人間が指導することの必要すらないやうに考へ易いからである。

之は非常な間違ひであつて、組織が出来、組織化が進めば進むほど、指導作用の必要は痛感されるのであつて、指導作用を缺く處の組織化は、機械化であることを吾吾は、知らなければならぬ。然るに日本人は組織化ばかりして、指導作用を怠るか、らして、所謂「組織化倒れ」とか「經營化倒れ」とかの現象を來すのである。「あの人はち膳立ばかりしてちつとも能率が上らない」などの批難は、全く指導作用ぬきの組織化を行ふ結果として生ずるものである。

然るに、この指導作用は、夫れは勿論人間が行ふ處のものなのだが、組織化が進め



ば進むほど、益々、高級化せざるを得ないものなのである。そして指導作用が高級化されれば高級化されるほど、低級なる指導作用は分課されて行く。例へば今迄は能率の事などは重役の指導作用の中の一つであつたものが、指導作用の高級化につれて、能率のことは能率課が出来て、そこで専門にやられるやうになるが如くである。斯くて指導作用が分課化され、組織化されるにつれて、ますます指導作用の高級化、純粹化が見られる。組織化が進めば進むほど、斯うした傾向が著しくなる。そして遂には指導作用は、特殊の大人物でなければ出来ないほどの程度に達する。従つてさうした大人物のない場合には、組織化の向上も出来ない筈であるが、日本では指導作用の如何や、人物の有無などを無視して、無暗矢鱈と組織化をやるんで、遂には組織化倒れに了り、經營化倒れに了るのだと思ふ。

然るに日本人は自分達のやり方の悪いことには氣が付かないで、組織化をけなす人がある。が、之は甚だしい間違ひであつて、吾々は組織化に依つて指導作用を高級化し、純粹化して行かないことには、財界の立直しも事業の立直しも行はれないと知る可きである。

然るに、日本では、事業界に就て見ても財界全體に就て見ても、共に組織化による指導作用の純化は不完全である。現に財界組織化が進めば進むほど、中央銀行の如き指導作用も組織化されて、更に純化したものになり、大人物が純化せる財界指導作用の掌に當る可きなのだが、日本ではさうでなく、財界指導作用はギョチない固定化したる組織に過ぎない觀が深い。爲めに、財界指導作用の純化どころか、財界指導作用其者もない有様なる爲めに、日本の財界は組織化も出来ず、従つてまた立直しが頗る困難なる状態にあるのである。と云つて組織化をやらずに置く譯にも行かないのである。寧ろ吾々は指導作用を充實して組織化の進行を計らなければならぬ。それに依つてのみ財界の立直しも可能だからだ。

そこで斯うした指導作用を中心にもつた組織化に努力する傾向が、經營者時代の中樞をなすのであつて、財界立直しを前にして、斯うしたことが叫ばれるのも無理のないことだと思ふのである。

**財閥系統の整理** 次に日本財界の合理化策としては、財界諸系統の集中整理が必要であつて、その爲めに或は數種の財閥が倒れても仕方のないことだとしなければなるまい。寧ろ封建資本主義に依つて養育され來つた日本の財閥系統は、相當の淘汰と立直しとを要するであらう。蓋し夫れでなければ集中化とか體系化とか統制化とか云ふやうな財界合理化の實は擧らないからである。

一體日本の財閥なるものは、半ば封建的であり政商的であつて、且つ内面的には